

甲賀市市政に関する意識調査報告書

令和3年 11月

甲賀市

目次

I	調査の実施概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査の設計	1
3.	調査票の配布・回収の状況	1
4.	標本抽出計画と集計にあたっての整理事項	1
5.	本報告書における集計方法、数値の取り扱い	3
II	回答者の属性	4
III	調査結果	8
1.	市政全体に関する満足度等	8
(1)	甲賀市の住みやすさ	8
(2)	甲賀市の住みやすい点・住みにくい点	10
(3)	現在の暮らしに幸せを感じるか	12
(4)	幸せを感じること	14
(5)	甲賀市への愛着	16
(6)	甲賀市の魅力を市外の人に自慢できるか	18
(7)	甲賀市への定住意向	20
(8)	市政への関心	22
2.	公共施設	24
(1)	市内の公共施設の現状	24
(2)	市内の公共施設の今後	26
(3)	公共施設の整備・維持と財源に関する考え方	28
(4)	今後も優先して残してほしい施設	31
(5)	今後減らしても良い施設	32
3.	市の情報発信	34
(1)	市に関する情報の入手	34
(2)	広報紙の配布方法	56
4.	新型コロナウイルス感染症	59
(1)	新型コロナウイルス感染症で困っていること	59
(2)	新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援	62
(3)	新型コロナウイルス感染症に関する意見	66
■	資料：アンケート調査票	67

I 調査の実施概要

1. 調査の目的

市民の市政についての意見や評価を、意識調査により統計的に把握し、今後の市政を推進するための基礎資料とすることを目的に調査を実施した。

2. 調査の設計

- 調査地域：甲賀市全域
- 調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- 調査票本数：3,000人
- 調査抽出法：層化二段無作為抽出法（抽出台帳：住民基本台帳、旧町5地域別）
- 調査方法：郵送配布・郵送回収、またはインターネットによる回答
- 調査時期：令和3年7月20日（火）～8月9日（月）※8月18日（水）まで郵送受付

3. 調査票の配布・回収の状況

- 配布数：3,000件
- 回収件数（率）：1,289件（43.0%）
- 有効回答数（率）：1,288件（42.9%）
うち郵送回収：1,050件（81.5%）、インターネット回答：238件（18.5%）

4. 標本抽出計画と集計にあたっての整理事項

① 標本抽出計画と集計母数（集計対象数）

今回の調査では、アンケート調査配布数（標本数）を市内5地域と母集団構成比に応じて配分した。

地域別の回収率は甲賀地域が52.2%で最も多く、次いで、甲南地域が43.6%、水口地域が41.9%、土山地域が41.4%、信楽地域が35.5%となっている。水口地域、甲賀地域、甲南地域では前回調査よりも回収率が高くなったが、信楽地域、土山地域では前回調査よりも回収率が低かった。

有効回答の構成比と母集団構成比をみると、有効回答の地域区分は母集団構成比に近い。

	標本抽出計画				有効回答			前回回収率
	母集団	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比	回収率	
水口地域	34,044	45.0	1,329	44.3	557	43.2	41.9	37.6
土山地域	6,318	8.3	263	8.8	109	8.5	41.4	46.5
甲賀地域	8,380	11.1	341	11.4	178	13.8	52.2	50.7
甲南地域	17,249	22.8	670	22.3	292	22.7	43.6	42.5
信楽地域	9,726	12.8	397	13.2	141	10.9	35.5	40.7
無回答					11	0.9		
合計	75,717		3,000		1,288	100.0	42.9	41.6

年代別の回収率は60歳代が59.2%で最も多く、次いで、70歳代以上が55.6%、50歳代が43.0%、30歳代が32.8%、40歳代が32.5%、20歳代以下が22.0%となっている。

有効回答の構成比と母集団構成比をみると、有効回答は年齢層が高い構成であることがわかる。

	標本抽出計画				有効回答			前回回収率
	母集団	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比	回収率	
20歳代以下	10,886	14.4	427	14.2	94	7.3	22.0	25.3
30歳代	9,972	13.2	405	13.5	133	10.3	32.8	27.1
40歳代	12,492	16.5	483	16.1	157	12.2	32.5	31.6
50歳代	11,330	15.0	430	14.3	185	14.4	43.0	39.7
60歳代	11,549	15.3	431	14.4	255	19.8	59.2	54.1
70歳代以上	19,488	25.7	824	27.5	458	35.6	55.6	57.2
無回答					6	0.5		
合計	75,717		3,000		1,288	100.0	42.9	41.6

② 調査結果の精度

今回の調査は標本調査のため、本結果から甲賀市の18歳以上の人口（母集団）の意識や要望等を推定することができる。ただし、今回の結果が抽出調査のため、数字の誤差を考慮する必要がある。そこで、どの程度の誤差があるのかを以下の数式で求めた。

世論調査では、信頼度95%（同じ調査を対象を変えて行った場合に、100回中95回は同様の結果が得られると考えてもよい）の水準を求めることが一般的とされており、これに基づき、今回の調査における標本測定値の標本誤差を算出した。その結果、標本誤差=2.71%（小数第3位四捨五入）となり、母集団の回答は今回のアンケート調査結果の±2.71%の区間に95%の確率で存在すると言える。

$$\varepsilon = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

ε：標本誤差

±1.96：信頼度95%の時の係数

N：母集団数（調査時点の甲賀市の18歳以上人口：75,717） n：標本数（有効回答数：1,288）

P：標本測定値0.5（50%（0.5）のときに最大となるため0.5で計算）

5. 本報告書における集計方法、数値の取り扱い

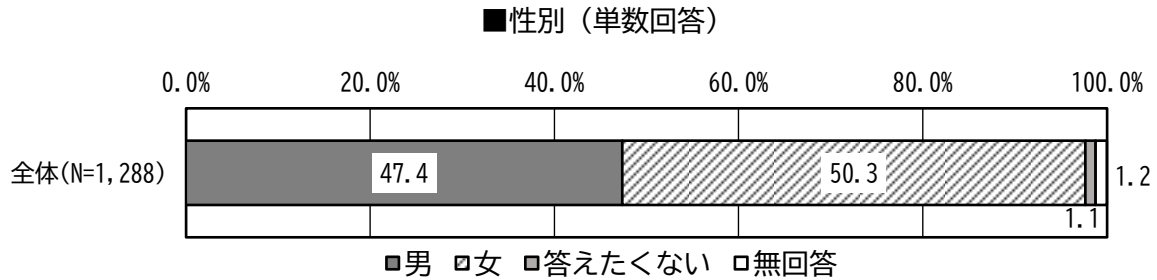
- 回答結果は、各項目の不明を含む有効サンプル数に対する百分比（％）で示し、百分比は小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを表示している。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）の設問であっても百分比の合計値が100.0%にならない場合がある。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの比率を示している。そのため、百分比の合計は通常100.0%にはならない。
- 図表中に「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものである。
- 図表中の「N」は、集計対象者総数、または、回答者限定設問の限定条件の該当者数を示している。
- クロス集計の図表では、集計区分ごとの集計母数を「N」と表記している。

II 回答者の属性

① 性別

問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

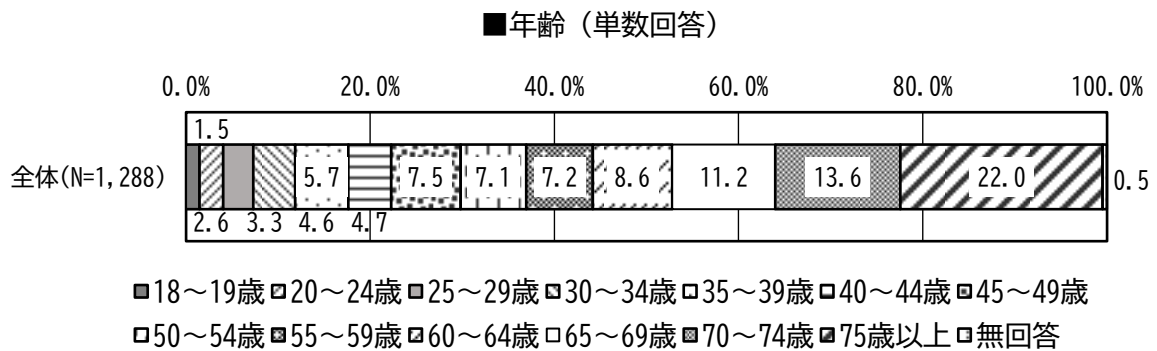
性別は、「男」が47.4%、「女」が50.3%、「答えたくない」が1.1%となっている。



② 年齢

問2 あなたの年齢は7月1日現在でいくつですか。(○は1つ)

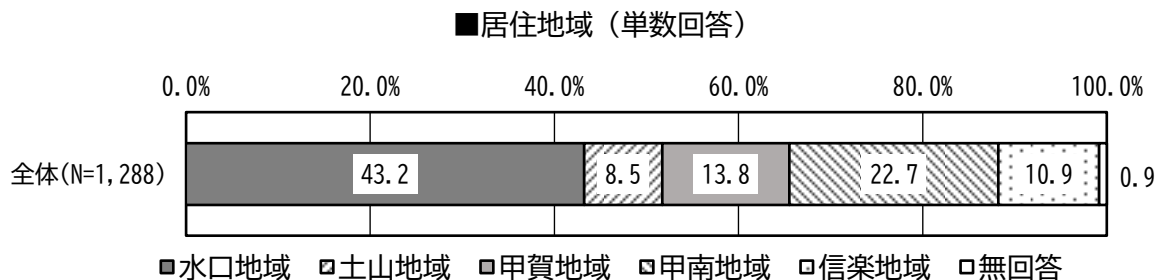
年齢は、「75歳以上」(22.0%)が最も多く、次いで「70～74歳」(13.6%)、「65～69歳」(11.2%)となっており、65歳以上の高齢者が回答者の46.8%を占める。



③ 居住地域

問3 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(○は1つ)

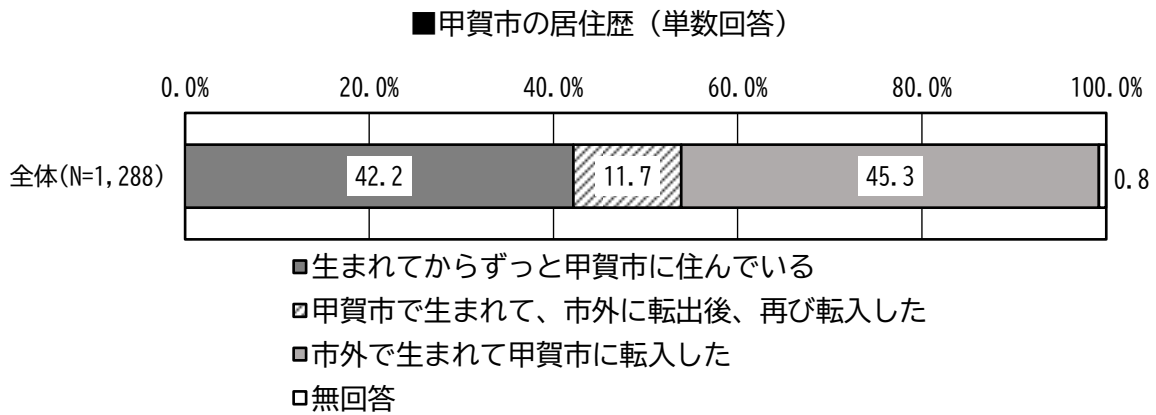
居住地域は、「水口地域」(43.2%)が最も多く、順に「甲南地域」(22.7%)、「甲賀地域」(13.8%)、「信楽地域」(10.9%)、「土山地域」(8.5%)となっている。



④ 甲賀市の居住歴

問4 あなたはいつから甲賀市にお住まいですか。(○は1つ)

甲賀市の居住歴は、「市外で生まれて甲賀市に転入した」(45.3%)が最も多く、順に「生まれてからずっと甲賀市に住んでいる」(42.2%)、「甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した」(11.7%)となっており、市外からの転入者の占める割合が、転入・転出したことのない回答者より多い。

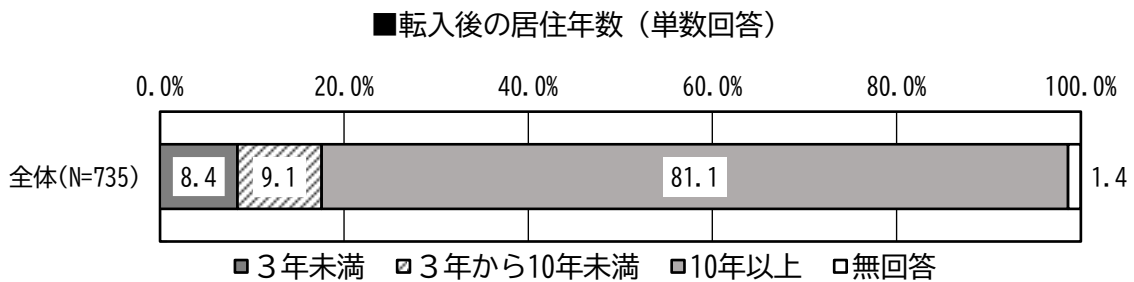


⑤ 転入後の居住年数

問4で「2(甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した)」または「3(市外で生まれて甲賀市に転入した)」と回答された方におたずねします。

問5 転入後、何年くらい甲賀市にお住まいですか。(○は1つ)

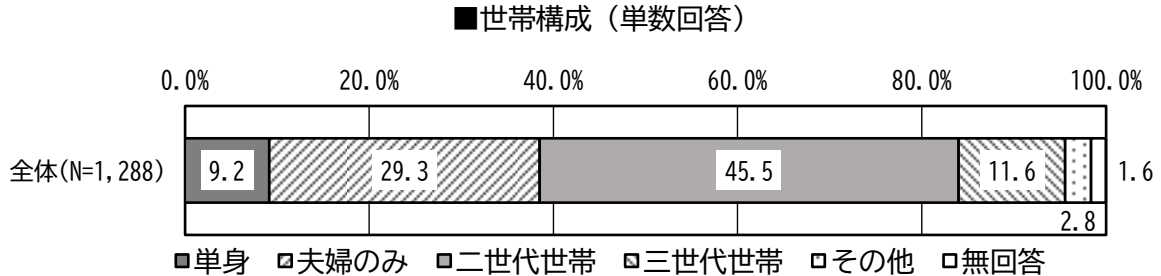
転入後の居住年数は、「10年以上」(81.1%)が突出して多く、順に「3年から10年未満」(9.1%)、「3年未満」(8.4%)となっている。



⑥ 世帯構成

問6 あなたの世帯（同居）の構成はどれですか。（○は1つ）

世帯構成は、「二世帯世帯」（45.5%）が最も多く、次いで「夫婦のみ」（29.3%）、「三世帯世帯」（11.6%）となっている。

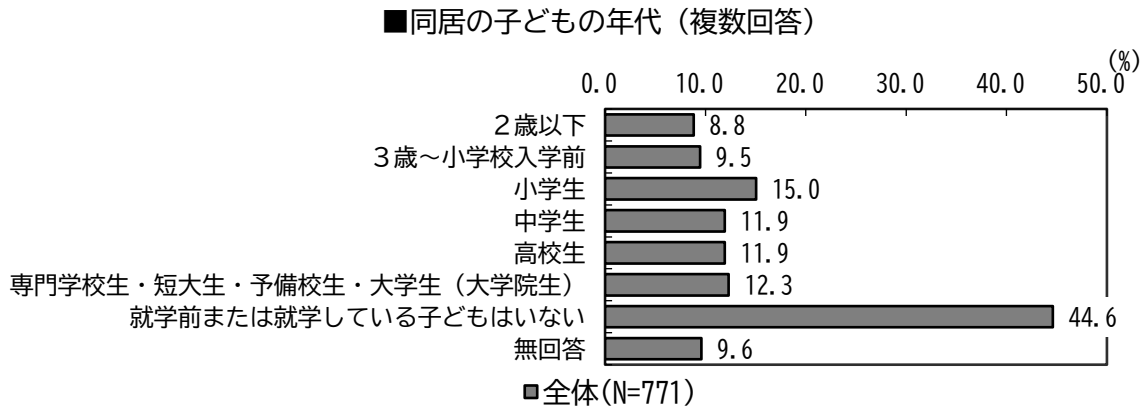


⑦ 同居の子どもの年代

問6で「3（二世帯世帯）・4（三世帯世帯）・5（その他）」のいずれかに回答された方におたずねします。

問7 あなたに就学前または就学しているお子様・お孫様（同居）はおられますか。（○はいくつでも）※別居されているお子様、お孫様は含みません。

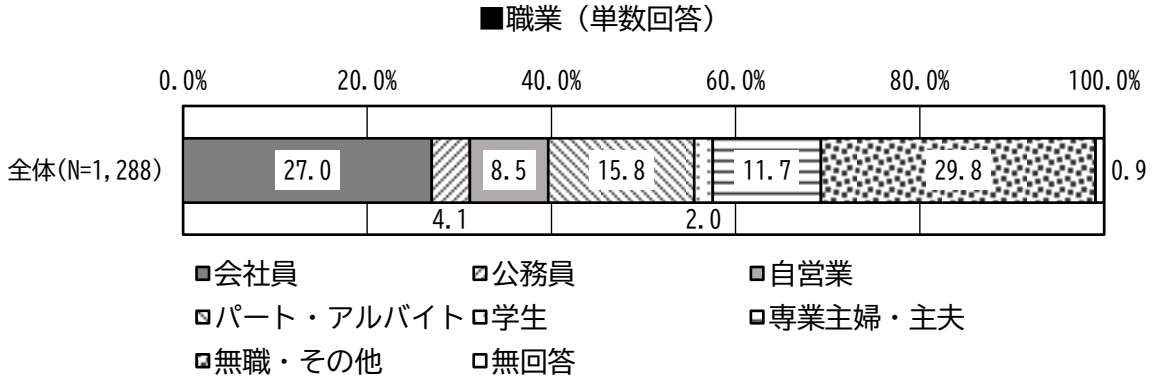
同居の子どもの年代は、「小学生」（15.0%）が最も多く、次いで「専門学校生・短大生・予備校生・大学生（大学院生）」（12.3%）、「中学生」「高校生」（ともに11.9%）となっている。なお、「就学前または就学している子どもはいない」は44.6%だった。



⑧ 職業

問8 あなたの職業等は何ですか。(○は1つ)

職業は、「無職・その他」(29.8%)が最も多く、次いで「会社員」(27.0%)、「パート・アルバイト」(15.8%)となっている。

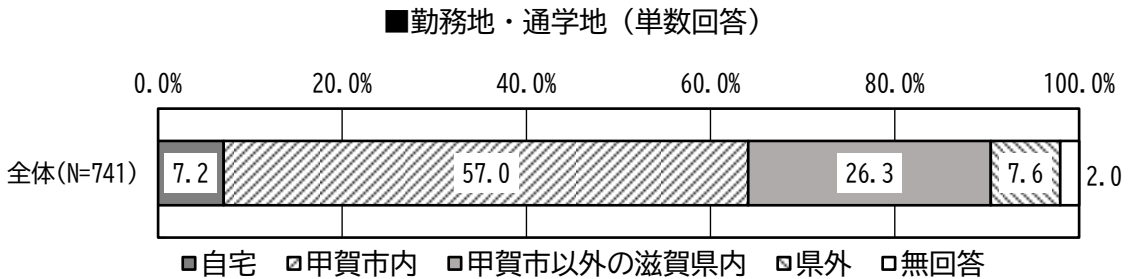


⑨ 勤務地・通学地

問8で「1～5(会社員、公務員、自営業、パート・アルバイト、学生)」のいずれかに回答された方におたずねします。

問9 あなたの勤務地(通学地)はどちらですか。(○は1つ)

勤務地・通学地は、「甲賀市内」(57.0%)が最も多く、順に「甲賀市以外の滋賀県内」(26.3%)、「県外」(7.6%)、「自宅」(7.2%)となっている。



Ⅲ 調査結果

1. 市政全体に関する満足度等

(1) 甲賀市の住みやすさ

問10 あなたは甲賀市の住みやすさについてどのように感じておられますか。(○は1つ)

甲賀市の住みやすさは、「まあまあ住みやすい」(50.6%)が最も多く、次いで「住みやすい」(22.7%)、「どちらともいえない」(17.2%)となっている。『住みやすい』(「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」の合計)の割合は73.3%だった。

性別にみると、男性・女性ともに「まあまあ住みやすい」が最も多くなっている。『住みやすい』の割合は、男性では74.2%、女性では73.3%で大きな差はない。

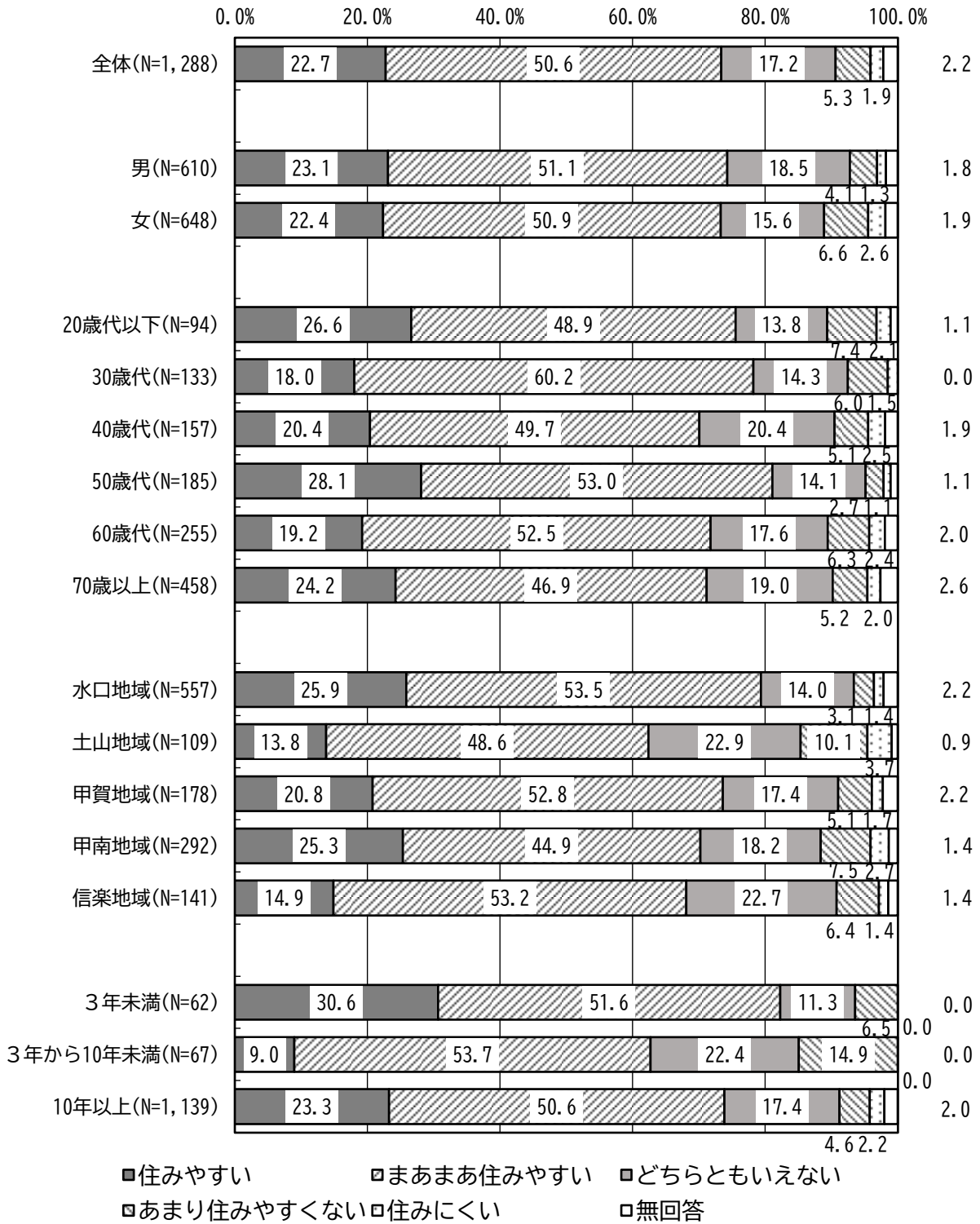
年代別にみると、すべての年代で「まあまあ住みやすい」が最も多くなっている。『住みやすい』の割合は、50歳代(81.1%)で最も多く、40歳代(70.1%)で最も少ない。

30歳代以下では、『住みやすい』の割合が60歳代以上に比べてやや多くなっている。

居住地域別にみると、すべての地域で「まあまあ住みやすい」が最も多くなっている。『住みやすい』の割合は、水口地域(79.4%)で最も多く、土山地域(62.4%)で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「まあまあ住みやすい」が最も多くなっている。『住みやすい』の割合は、3年未満(82.2%)で最も多く、3年から10年未満(62.7%)で最も少ない。

■甲賀市の住みやすさ（単数回答）



※「10年以上」は、「転入後の居住年数10年以上」と「生まれてからずっと甲賀市に住んでいる」の合計。以下の図表すべてにおいて同様。

(2) 甲賀市の住みやすい点・住みにくい点

問11 あなたにとって甲賀市の住みやすい点と住みにくい点はどのようなことですか。
(それぞれ〇はいくつでも)

甲賀市の住みやすい点は、「自然・環境」(73.1%)が突出して多く、次いで「福祉・医療」(22.0%)、「道路」(16.4%)となっている。

性別にみると、男性・女性ともに「自然・環境」が最も多くなっている。

年代別にみると、すべての年代で「自然・環境」が最も多くなっている。

30歳代以下では、「自然・環境」「福祉・医療」の割合が他の年代に比べて少ない。

30～40歳代では、「子育て」が全体に比べて多くなっている。

居住地域別にみると、すべての地域で「自然・環境」が最も多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「自然・環境」が最も多くなっている。

3年から10年未満では「自然・環境」(61.2%)が全体に比べて少なく、3年未満では「地域コミュニティ(区・自治会・自治振興会など)」(4.8%)が全体に比べて少なくなっている。

■甲賀市の住みやすい点(複数回答)

	N (有効回答者数)	子育て	教育	地域コミュニティ(区・自治会・自治振興会など)	就労・起業	公共交通(バス・鉄道)	道路	自然・環境	防犯	防災	福祉・医療	文化・スポーツ	その他	無回答
全体	1,288	14.6	5.7	14.8	7.3	7.2	16.4	73.1	10.4	9.7	22.0	8.2	2.6	8.9
男	610	11.5	6.1	17.5	7.7	7.0	21.3	72.5	13.0	10.8	21.0	9.2	2.6	7.5
女	648	17.9	5.2	12.3	6.9	7.1	11.9	74.2	8.5	8.6	23.3	6.8	2.2	9.6
20歳代以下	94	9.6	12.8	7.4	9.6	6.4	16.0	68.1	11.7	5.3	13.8	13.8	6.4	12.8
30歳代	133	30.8	7.5	10.5	8.3	6.8	19.5	62.4	8.3	7.5	14.3	10.5	5.3	7.5
40歳代	157	26.1	9.6	8.3	12.7	5.7	11.5	72.0	10.8	12.7	17.2	11.5	1.9	7.0
50歳代	185	22.7	6.5	13.5	10.3	4.3	20.5	82.7	9.7	5.9	18.9	7.6	2.7	2.7
60歳代	255	11.8	5.1	18.0	8.6	7.1	21.2	78.0	14.5	12.2	22.7	7.1	0.8	6.7
70歳以上	458	5.2	2.6	18.8	2.8	9.4	13.1	71.6	8.7	10.5	28.6	5.9	2.2	12.0
水口地域	557	14.4	7.2	14.2	10.1	7.9	19.0	68.8	8.6	9.5	25.3	9.5	3.8	9.5
土山地域	109	15.6	6.4	11.0	8.3	4.6	13.8	77.1	13.8	9.2	13.8	3.7	0.0	11.0
甲賀地域	178	16.9	3.4	16.3	5.1	10.1	20.8	76.4	15.2	15.2	20.2	9.6	1.1	3.9
甲南地域	292	16.4	6.5	15.4	6.2	7.5	14.0	75.7	9.6	9.9	22.3	5.5	2.1	8.2
信楽地域	141	8.5	1.4	16.3	1.4	2.1	7.1	80.1	11.3	4.3	17.7	9.9	2.8	9.2
3年未満	62	12.9	6.5	4.8	11.3	8.1	17.7	71.0	8.1	4.8	14.5	8.1	6.5	9.7
3年から10年未満	67	22.4	3.0	9.0	11.9	4.5	11.9	61.2	3.0	3.0	13.4	11.9	4.5	14.9
10年以上	1,139	14.5	6.0	15.9	6.8	7.3	16.7	74.2	11.1	10.3	23.0	8.1	2.3	8.1

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。

表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

甲賀市の住みにくい点は、「公共交通（バス・鉄道）」（62.1%）が突出して多く、次いで「道路」（21.7%）、「福祉・医療」（17.3%）となっている。

「道路」と「福祉・医療」は、住みやすい点・住みにくい点の両方で、上位に挙げられた。「道路」は、男性（21.3%）では住みやすい点とされ、信楽地域（35.5%）では住みにくい点とされている。「福祉・医療」は、70歳以上（28.6%）では住みやすい点とされ、60歳代（23.1%）、3年から10年未満（22.4%）では住みにくい点とされている。

性別にみると、男性・女性ともに「公共交通（バス・鉄道）」が最も多くなっている。

年代別にみると、すべての年代で「公共交通（バス・鉄道）」が最も多くなっている。30歳代以下では、「子育て」の割合が他の年代に比べて多い。

20歳代以下・40～50歳代では「公共交通（バス・鉄道）」が全体に比べて多く、70歳以上では「公共交通（バス・鉄道）」（51.3%）が全体に比べて少なくなっている。

居住地域別にみると、すべての地域で「公共交通（バス・鉄道）」が最も多くなっている。

土山地域では「就労・起業」（32.1%）、「公共交通（バス・鉄道）」（72.5%）、「教育」（19.3%）が全体に比べて多く、信楽地域では「道路」（35.5%）が全体に比べて多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「公共交通（バス・鉄道）」が最も多くなっている。

■甲賀市の住みにくい点（複数回答）

	N (有効回答者数)	子育て	教育	地域 自治会・自治振興会など	就労・ 起業	公共 交通 (バス・ 鉄道)	道 路	自然・ 環境	防 犯	防 災	福 祉・ 医 療	文 化・ ス ポ ー ツ	そ の 他	無 回 答
全体	1,288	6.4	9.3	16.2	16.2	62.1	21.7	4.0	6.8	6.3	17.3	7.5	5.5	15.2
男	610	6.2	8.0	17.0	16.7	59.3	23.9	4.4	6.4	7.0	17.9	7.2	5.6	14.3
女	648	6.5	10.0	15.3	15.9	65.9	19.6	3.4	7.3	5.7	16.8	7.7	5.2	15.4
20歳代以下	94	8.5	7.4	9.6	21.3	72.3	23.4	7.4	5.3	6.4	9.6	6.4	1.1	12.8
30歳代	133	12.0	14.3	18.0	18.0	66.2	24.8	3.8	7.5	6.0	18.0	7.5	6.0	9.8
40歳代	157	8.3	17.2	17.2	20.4	72.0	24.8	1.9	8.9	5.7	21.0	9.6	5.7	5.7
50歳代	185	4.3	8.6	16.2	18.4	74.6	24.3	2.2	7.6	5.4	18.9	8.6	2.7	8.6
60歳代	255	6.3	11.0	24.3	18.0	61.6	20.8	5.9	6.7	7.1	23.1	11.0	3.5	11.4
70歳以上	458	4.8	5.0	12.4	11.6	51.3	19.0	3.7	6.1	6.6	13.8	4.6	8.5	24.5
水口地域	557	4.8	7.5	14.9	11.0	57.5	22.1	3.9	7.2	6.8	15.4	7.7	4.8	17.4
土山地域	109	11.9	19.3	17.4	32.1	72.5	18.3	2.8	2.8	6.4	21.1	7.3	6.4	7.3
甲賀地域	178	6.2	8.4	25.8	21.9	65.7	14.6	5.1	7.9	3.9	21.9	4.5	4.5	12.9
甲南地域	292	5.5	7.2	15.1	13.7	64.4	19.9	4.1	7.5	5.8	15.8	8.9	6.2	15.4
信楽地域	141	11.3	14.2	10.6	23.4	65.2	35.5	2.8	5.7	8.5	19.9	7.1	7.1	12.1
3年未満	62	6.5	6.5	19.4	19.4	61.3	17.7	8.1	4.8	3.2	16.1	6.5	3.2	17.7
3年から10年未満	67	14.9	14.9	17.9	13.4	70.1	22.4	3.0	7.5	1.5	22.4	6.0	9.0	6.0
10年以上	1,139	6.1	9.0	16.1	16.4	62.1	22.2	3.9	7.0	6.7	17.1	7.6	5.5	15.0

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。
表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

(3) 現在の暮らしに幸せを感じるか

問12 あなたは現在の暮らしに幸せを感じますか。(○は1つ)

現在の暮らしに幸せを感じるかは、「どちらかといえばそう感じる」(46.4%)が最も多く、順に「そう感じる」(26.3%)、「どちらともいえない」(19.3%)、「どちらかといえばそう感じない」(4.2%)、「感じない」(2.1%)となっている。『感じる』(「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」の合計)の割合は72.7%だった。

平成29年度調査からの推移をみると、『感じる』の割合は増減しているが、「そう感じる」が増加傾向にある。

性別にみると、男性・女性ともに「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合は、男性では71.6%、女性では74.4%で、女性が男性よりやや多い。

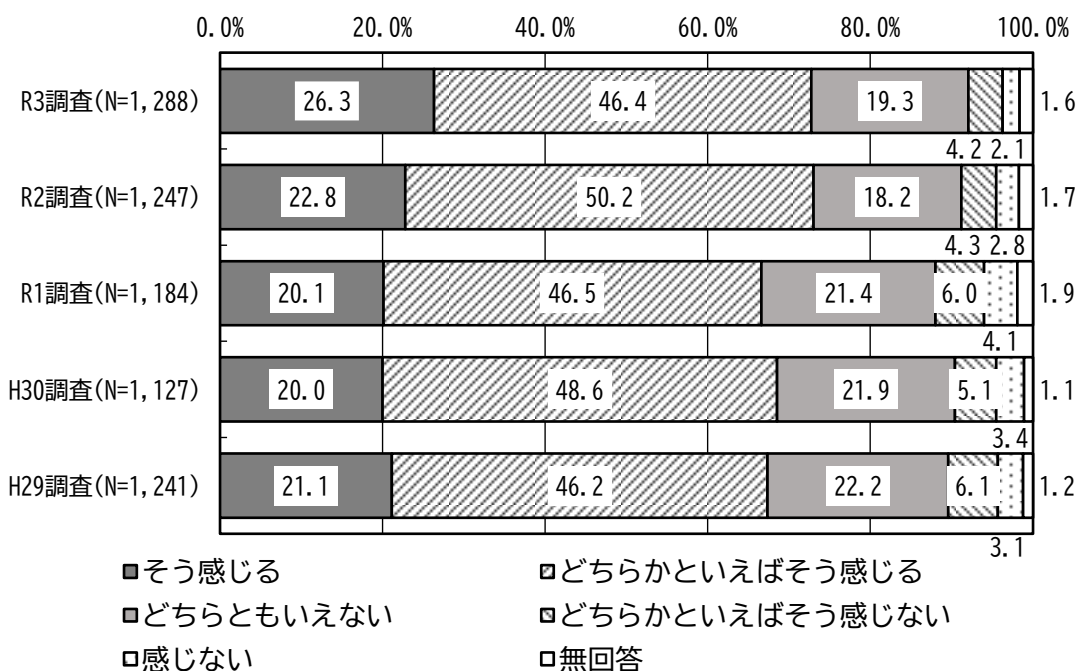
年代別にみると、すべての年代で「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合は、30歳代(78.9%)で最も多く、60歳代(70.2%)で最も少ない。

30歳代以下では、『感じる』の割合、「そう感じる」とともに40歳代以上に比べてやや多くなっており、30歳代以下は40歳代以上より幸福感が高いと言える。

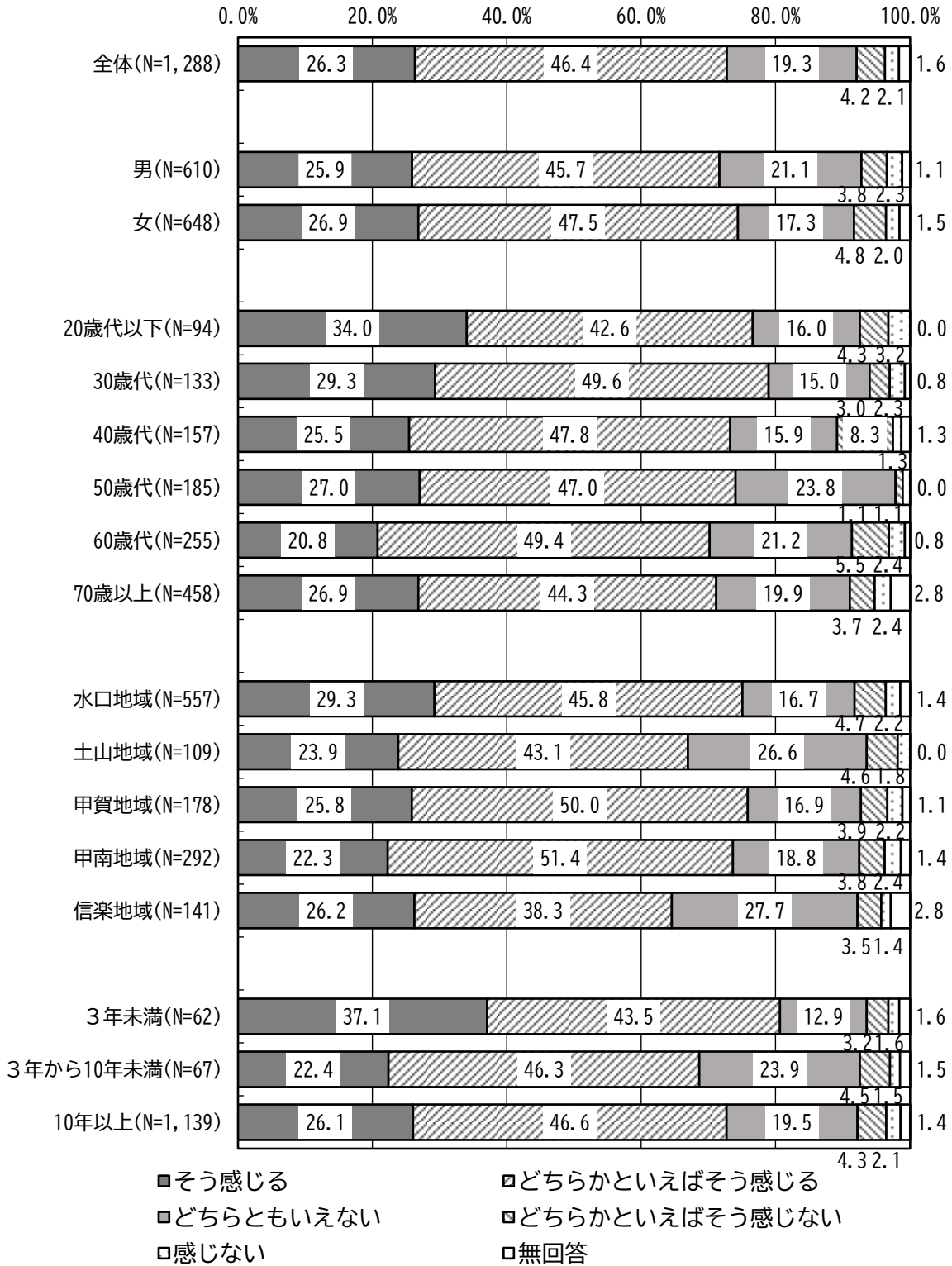
居住地域別にみると、すべての地域で「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合は、甲賀地域(75.8%)で最も多く、信楽地域(64.5%)で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合は、3年未満(80.6%)で最も多く、3年から10年未満(68.7%)で最も少ない。

■現在の暮らしに幸せを感じるか(単数回答) 経年比較



■現在の暮らしに幸せを感じるか（単数回答）



(4) 幸せを感じることに

問12で「1・2」のいずれかに回答された方におたずねします。

問13 あなたはどのようなことに幸せを感じますか。(○はいくつでも)

幸せを感じることは、「健康」(57.5%)が最も多く、次いで「家族関係」(55.9%)、「自由な時間、充実した余暇」(44.0%)となっている。

平成29年度調査からの推移をみると、「地域コミュニティ、ご近所との関係」が増加傾向にある。「健康」「友人関係」「家族関係」は令和2年度調査で急増した後、令和元年度以前とほぼ同水準に戻った。

性別にみると、男性・女性ともに「健康」が最も多くなっている。

年代別にみると、50歳代以下では「家族関係」が最も多く、60歳代以上では「健康」が最も多くなっている。

30歳代以下では、「社会貢献」が40歳代以上に比べてやや少ない。

20歳代以下では「職場や学校等の人間関係」(31.9%)、「友人関係」(40.3%)が、30~40歳代では「家族関係」が、40~50歳代では「就業状況(仕事の有無・安定)」が、70歳以上では「地域コミュニティ、ご近所との関係」(36.5%)が全体に比べて多くなっている。

居住地域別にみると、土山地域・甲賀地域・信楽地域では「健康」が、甲南地域では「家族関係」(57.7%)が、水口地域では「健康」「家族関係」(ともに56.2%)が最も多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、10年以上では「健康」(58.9%)が、10年未満では「家族関係」が最も多くなっている。

3年未満では「職場や学校等の人間関係」(34.0%)が、3年から10年未満では「家族関係」(69.6%)、「自由な時間、充実した余暇」(54.3%)が全体に比べて多くなっている。

■幸せを感じることに(複数回答) 経年比較

	N (有効回答者数)	収入 (お金)	無・就 業・安 定状 況(仕 事の 有)	健康	た自 余由 暇な 時間 、充 実し	社 会 貢 献	家 族 関 係	友 人 関 係	関 係 職 場 や 学 校 等 の 人 間	ご地 近域 所コ ミ ニ テ イ 、 関 係	そ の 他	無 回 答
R3調査	937	19.9	24.1	57.5	44.0	7.7	55.9	27.2	14.6	23.3	2.2	1.2
R2調査	910	25.7	24.8	68.0	48.1	10.1	64.1	36.9	17.8	15.6	1.9	0.5
R1調査	789	13.1	16.1	54.1	42.1	9.1	58.8	30.3	12.4	12.5	2.2	0.9
H30調査	773	14.6	14.7	55.0	38.0	7.5	59.4	31.0	10.9	11.9	2.1	1.0
H29調査	835	13.7	14.9	57.7	36.2	6.6	56.6	31.7	9.1	11.3	1.8	1.4

■幸せを感じること（複数回答）

	N (有効回答者数)	収入 (お金)	無 就 業 状 況 (仕 事 の 有 無 ・ 安 定)	健 康	た 自 由 な 時 間 、 充 実 し	社 会 貢 献	家 族 関 係	友 人 関 係	関 係 職 場 や 学 校 等 の 人 間	ご 地 域 コ ミュ ニ ティ 、 近 所 と の 関 係	そ の 他	無 回 答
全体	937	19.9	24.1	57.5	44.0	7.7	55.9	27.2	14.6	23.3	2.2	1.2
男	437	20.4	27.0	56.1	45.8	11.0	54.2	23.3	12.8	24.0	2.3	0.9
女	482	19.7	21.4	58.7	42.1	4.8	57.7	30.5	16.6	22.8	2.1	1.0
20歳代以下	72	16.7	22.2	45.8	48.6	1.4	50.0	40.3	31.9	4.2	4.2	1.4
30歳代	105	24.8	30.5	56.2	41.0	6.7	72.4	27.6	18.1	14.3	2.9	1.9
40歳代	115	26.1	42.6	50.4	43.5	7.8	66.1	20.0	26.1	13.0	1.7	0.9
50歳代	137	26.3	40.1	54.7	43.1	10.2	59.1	24.1	28.5	14.6	4.4	0.0
60歳代	179	15.6	24.6	60.9	38.5	7.3	54.7	27.9	10.6	25.1	1.1	0.6
70歳以上	326	16.3	8.9	62.6	47.2	8.3	47.5	27.9	2.1	36.5	1.5	1.8
水口地域	418	23.0	26.1	56.2	46.4	7.2	56.2	26.8	15.6	22.0	1.2	1.2
土山地域	73	13.7	20.5	58.9	41.1	5.5	52.1	28.8	12.3	24.7	5.5	0.0
甲賀地域	135	19.3	20.0	64.4	45.2	11.1	57.0	25.2	13.3	28.9	1.5	2.2
甲南地域	215	19.5	25.6	53.0	41.4	6.5	57.7	29.8	16.3	19.1	3.7	0.9
信楽地域	91	13.2	22.0	61.5	39.6	8.8	51.6	25.3	11.0	28.6	2.2	1.1
3年未満	50	26.0	32.0	48.0	44.0	6.0	56.0	20.0	34.0	14.0	6.0	0.0
3年から10年未満	46	19.6	28.3	47.8	54.3	6.5	69.6	17.4	23.9	8.7	0.0	0.0
10年以上	828	19.6	23.7	58.9	43.6	7.7	55.2	28.3	13.2	24.5	2.2	1.1

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。
表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

(5) 甲賀市への愛着

問 14 あなたは甲賀市に愛着をお持ちですか。(○は1つ)

甲賀市への愛着は、「まあまあ愛着がある」(50.9%)が最も多く、順に「愛着がある」(31.8%)、「あまり愛着がない」(12.0%)、「愛着がない」(3.3%)となっている。『愛着あり』(「愛着がある」と「まあまあ愛着がある」の合計)の割合は82.7%だった。

平成29年度調査からの推移をみると、『愛着あり』の割合に大きな差はないが、「愛着がある」が減少し、「まあまあ愛着がある」が増加している。

性別にみると、男性・女性ともに「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合は、男性では85.9%、女性では80.4%で、男性が女性より多い。

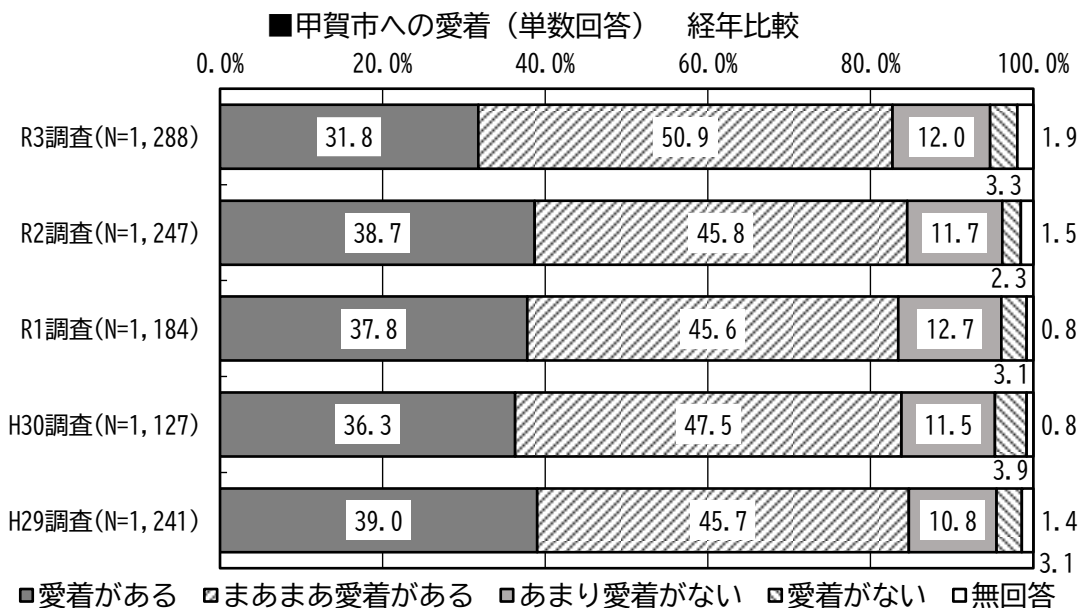
年代別にみると、すべての年代で「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合は、70歳以上(86.6%)で最も多く、40歳代(75.1%)で最も少ない。

30歳代以下では、『愛着あり』の割合、「愛着がある」とともに40歳代以上に比べて同じかやや少なくなっており、40歳代以下は50歳代以上より市への愛着が低いと言える。

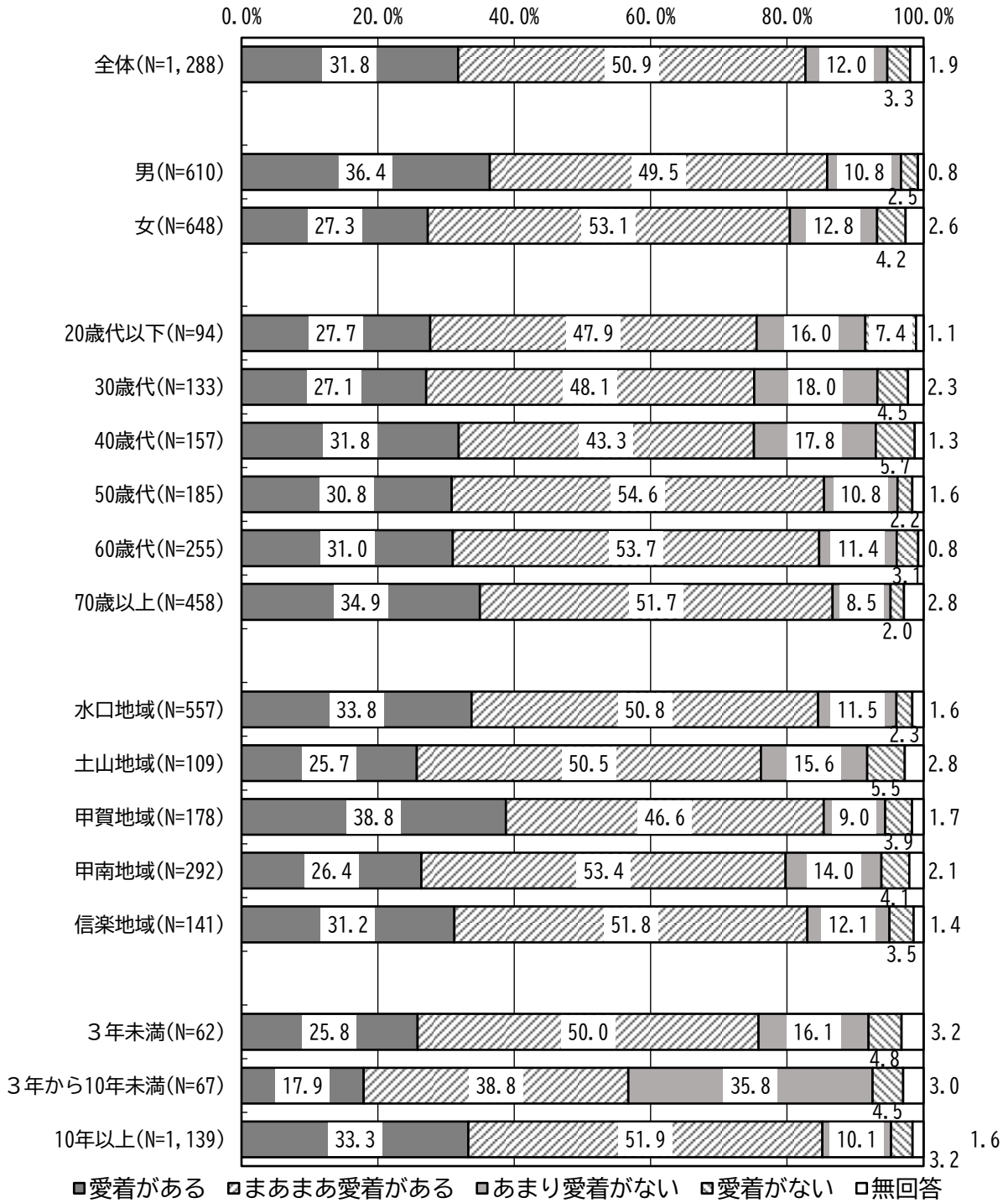
居住地域別にみると、すべての地域で「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合は、水口地域(84.6%)で最も多く、土山地域(76.2%)で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合は、10年以上(85.2%)で最も多く、3年から10年未満(56.7%)で最も少ない。

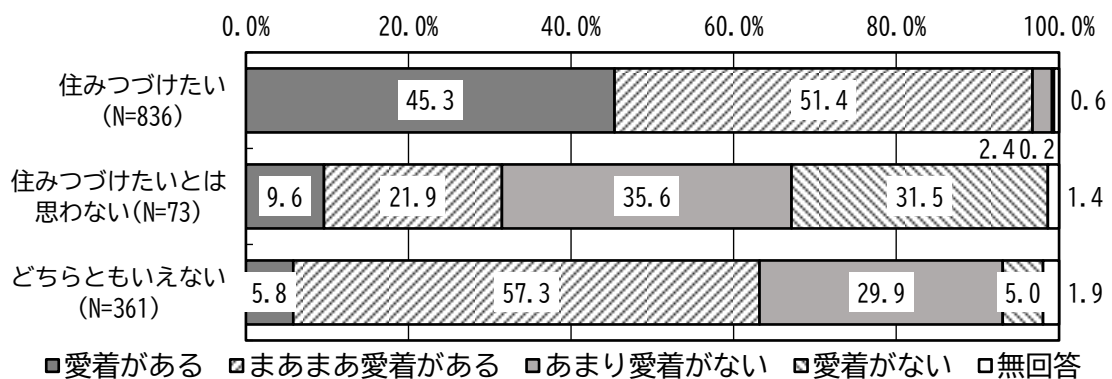
定住意向別にみると、住みつづけた回答者とどちらともいえない回答者では「まあまあ愛着がある」が、住みつづけたとは思わない回答者では「あまり愛着がない」(35.6%)が最も多くなっている。『愛着あり』の割合は、住みつづけたとは思わない(96.7%)が最も多く、順に、どちらともいえない(63.1%)、住みつづけたとは思わない(31.5%)だった。



■甲賀市への愛着（単数回答）



■甲賀市への愛着（単数回答） 定住意向別



(6) 甲賀市の魅力を市外の人に自慢できるか

問 15 あなたは甲賀市の魅力を市外の人に自慢できますか。(○は1つ)

甲賀市の魅力を市外の人に自慢できるかは、「まあまあ自慢できる」(50.9%)が最も多く、順に「あまり自慢できない」(27.7%)、「自慢できる」(12.0%)、「自慢できない」(6.0%)となっている。『自慢できる』(「自慢できる」と「まあまあ自慢できる」の合計)の割合は62.9%だった。

平成29年度調査からの推移をみると、『自慢できる』の割合に大きな差はないが、「自慢できる」がやや減少し、「まあまあ自慢できる」がやや増加している。

性別にみると、男性・女性ともに「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合は、男性では65.5%、女性では60.5%で、男性が女性より多い。

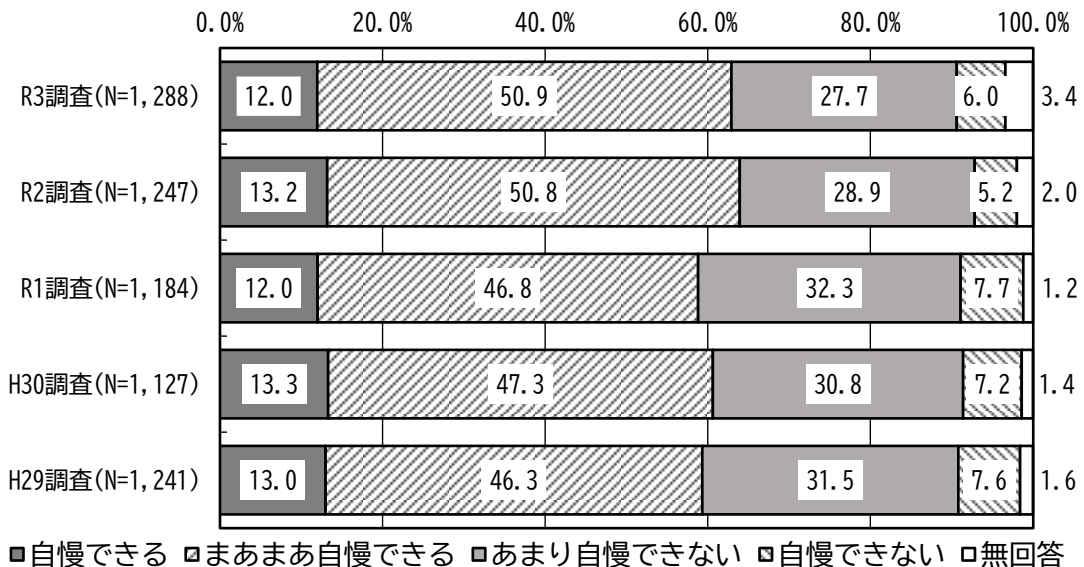
年代別にみると、すべての年代で「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合は、60歳代(68.6%)で最も多く、20歳代以下(52.2%)で最も少ない。

30歳代以下では、『自慢できる』の割合は40歳代以上に比べてやや少ないが、「自慢できる」は30歳代(9.0%)でやや低いもののいずれの年代も大きな差はない。40歳代以下は、市の魅力を積極的に自慢できる傾向は他の世代と変わらないが、自慢できないという消極的な傾向が50歳代以上より高いと言える。

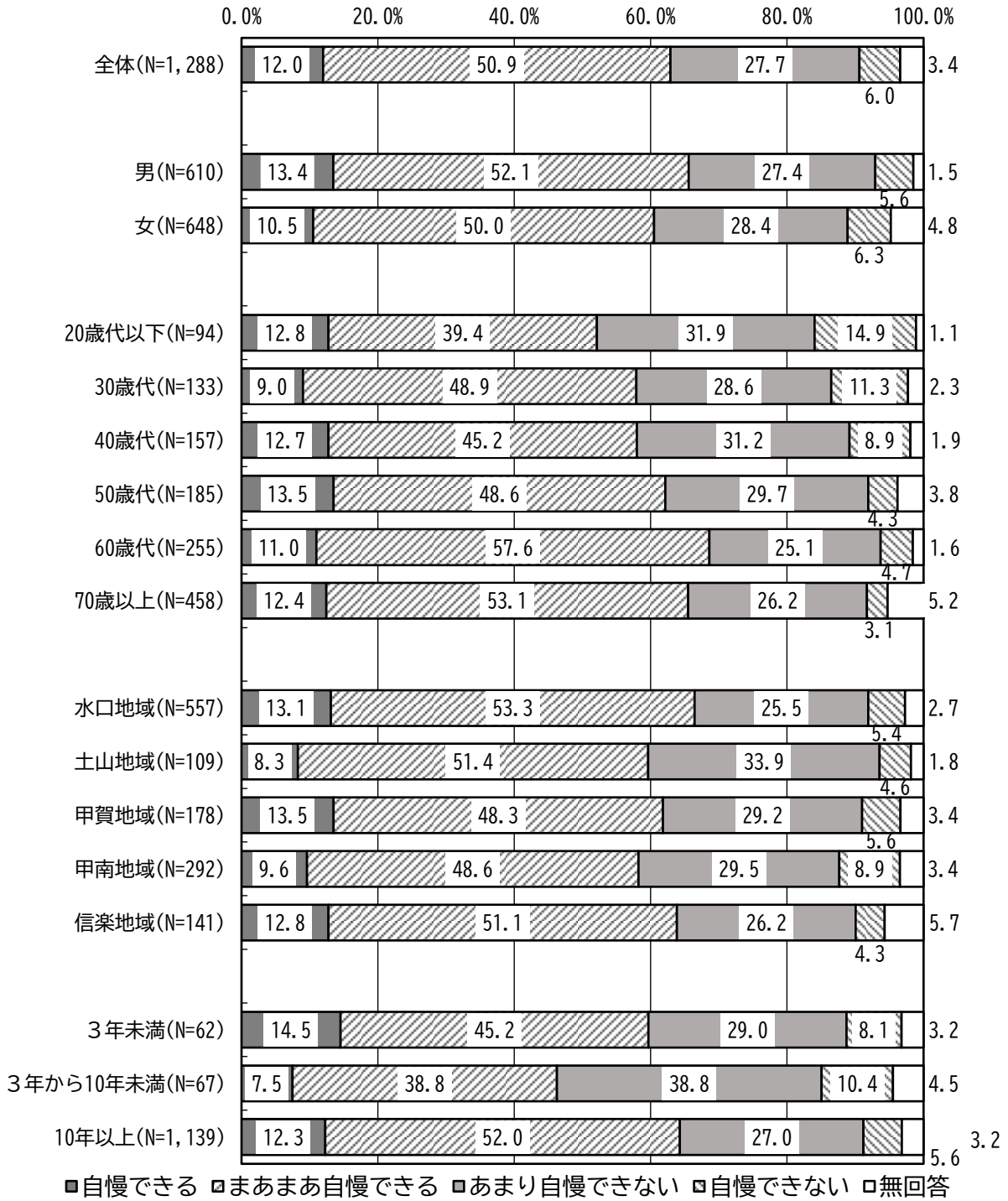
居住地域別にみると、すべての地域で「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合は、水口地域(66.4%)で最も多く、甲南地域(58.2%)で最も少ないが、地域間の大きな差はなかった。

甲賀市の居住歴別にみると、3年未満・10年以上では「まあまあ自慢できる」が、3年から10年未満では「まあまあ自慢できる」「あまり自慢できない」(ともに38.8%)が最も多くなっている。『自慢できる』の割合は、10年以上(64.3%)で最も多く、3年から10年未満(46.3%)で最も少ない。

■甲賀市の魅力を市外の人に自慢できるか(単数回答) 経年比較



■甲賀市の魅力を市外の人に自慢できるか（単数回答）



(7) 甲賀市への定住意向

問 16 あなたはこれからも甲賀市に住みつづけたいと思いますか。(○は1つ)

甲賀市への定住意向は、「住みつづけたい」(64.9%)が最も多く、順に「どちらともいえない」(28.0%)、「住みつづけたいとは思わない」(5.7%)となっている。

平成29年度調査からの推移をみると、令和2年度調査に比べて「どちらともいえない」がやや増加した。

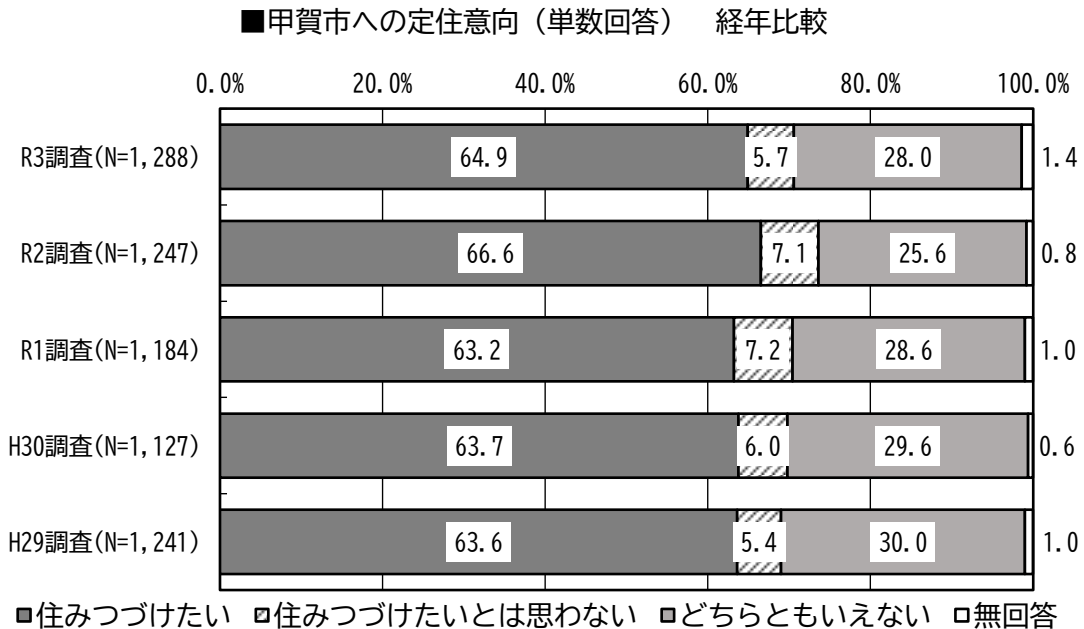
性別にみると、男性・女性ともに「住みつづけたい」が最も多くなっており、男性が69.2%、女性が61.6%で、男性が女性より多い。

年代別にみると、すべての年代で「住みつづけたい」が最も多くなっており、70歳以上(72.9%)が最も多く、20歳代以下(51.1%)が最も少ない。

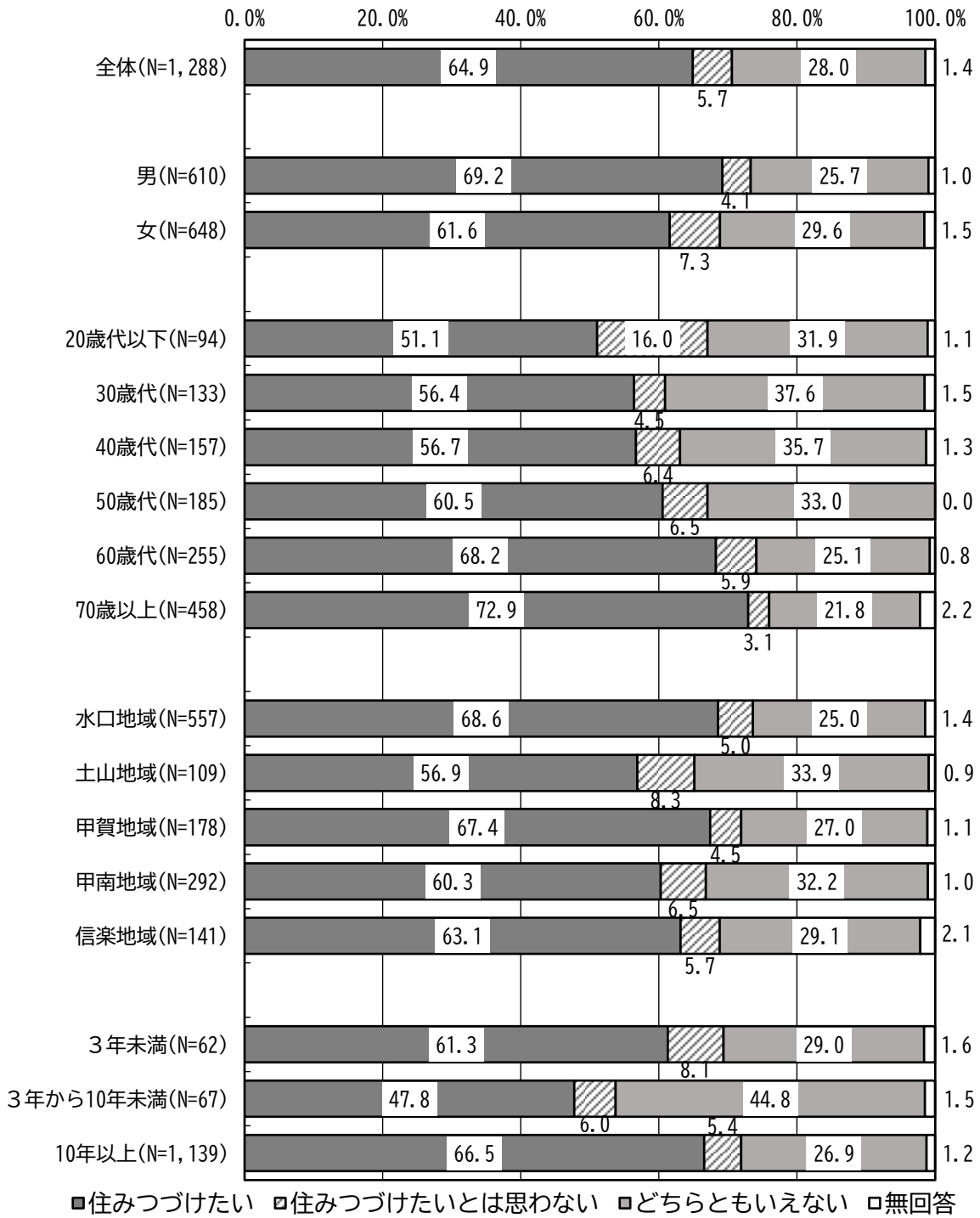
30歳代以下では、「住みつづけたい」は40歳代以上に比べて少なく、年代が高いほど「住みつづけたい」が多くなる傾向は令和2年度調査と同じだが、20歳代以下の「住み続けたい」割合が、令和2年度調査(35.5%)に比べて大きく増加した。

居住地域別にみると、すべての地域で「住みつづけたい」が最も多くなっており、水口地域(68.6%)が最も多く、土山地域(56.9%)が最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「住みつづけたい」が最も多くなっており、10年以上(66.5%)で最も多く、3年から10年未満(47.8%)で最も少ない。3年未満の「住み続けたい」割合が、令和2年度調査(55.0%)に比べて増加した。



■甲賀市への定住意向（単数回答）



(8) 市政への関心

問17 あなたは、市政（市役所のしていること）に関心をお持ちですか。（○は1つ）

市政への関心は、「まあまあ関心がある」（44.2%）が最も多く、順に「あまり関心がない」（28.8%）、「関心がある」（17.7%）、「関心がない」（7.3%）となっている。『関心あり』（「関心がある」と「まあまあ関心がある」の合計）の割合は61.9%だった。

平成29年度調査からの推移をみると、『関心あり』の割合がやや増加した。

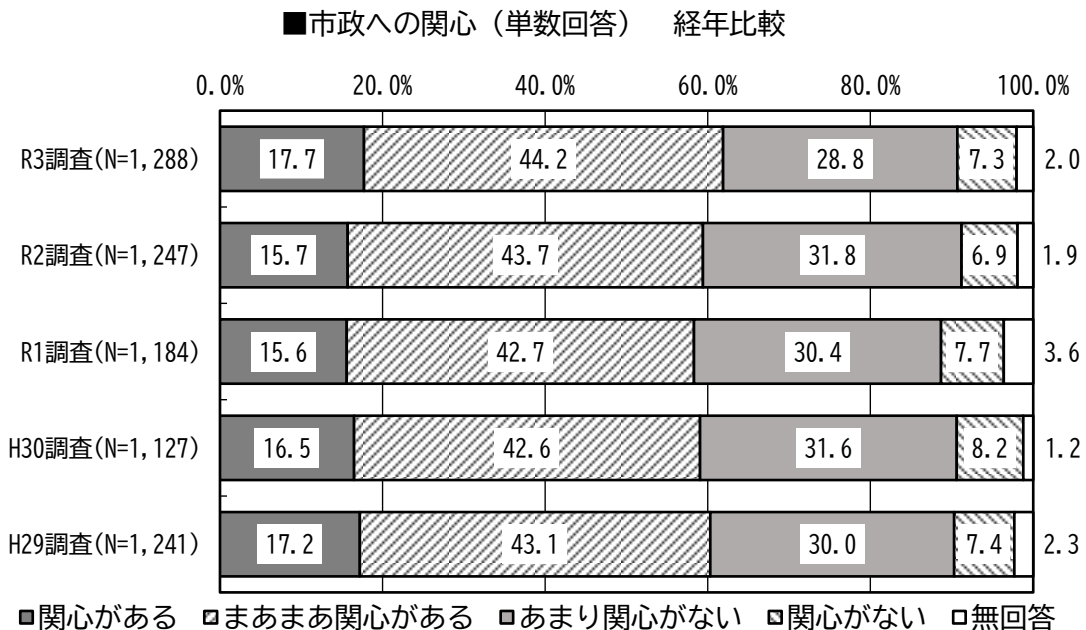
性別にみると、男性・女性ともに「まあまあ関心がある」が最も多くなっている。『関心あり』の割合は、男性では68.7%、女性では55.7%で、男性が女性より多い。

年代別にみると、20歳代以下では「あまり関心がない」（36.2%）が、30歳代・50歳代以上では「まあまあ関心がある」が、40歳代では「まあまあ関心がある」「あまり関心がない」（ともに38.9%）が最も多くなっている。『関心あり』の割合は、70歳以上（73.4%）で最も多く、20歳代以下（36.2%）で最も少ない。

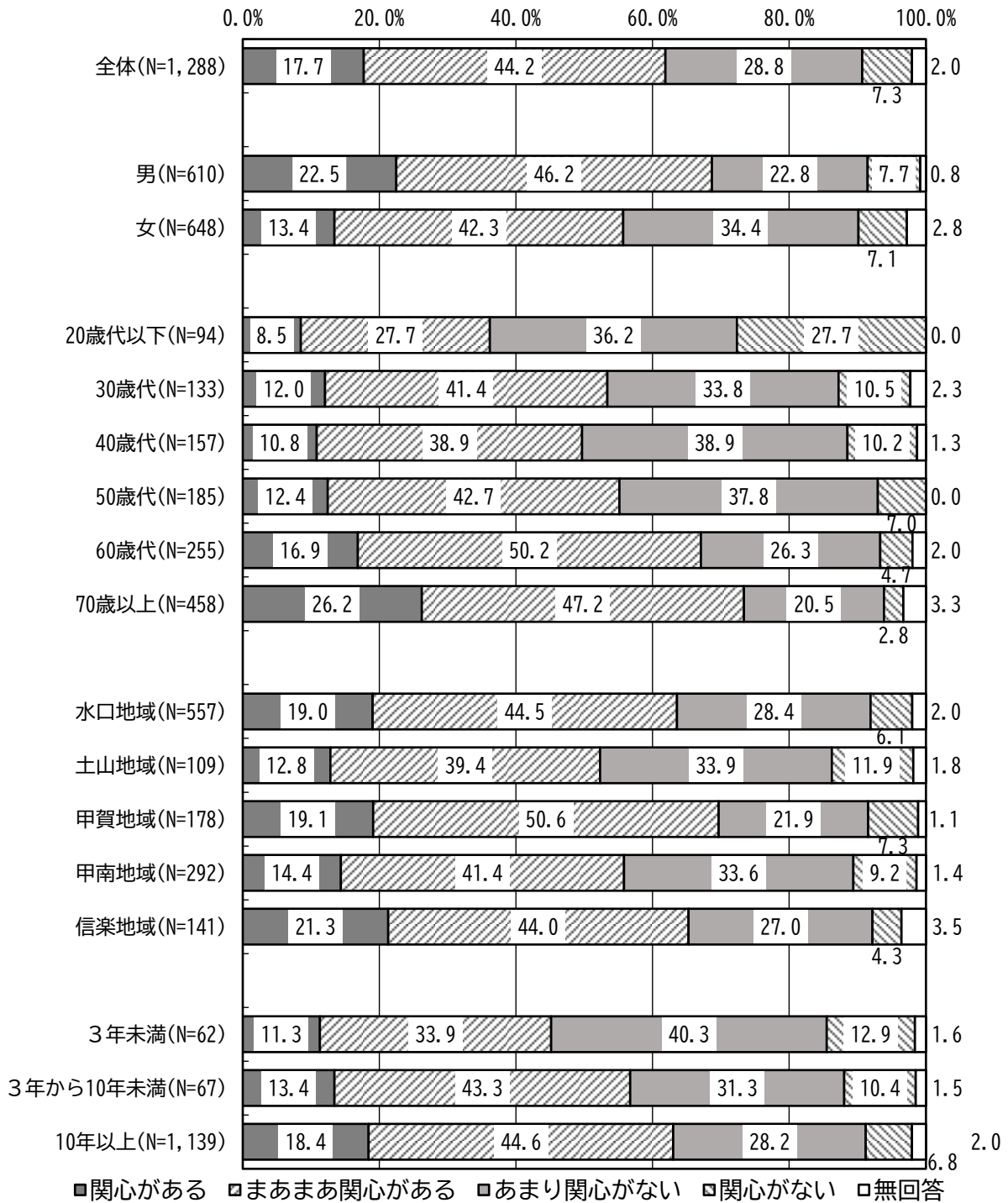
30歳代以下では、20歳代は「関心がある」（8.5%）、「まあまあ関心がある」（27.7%）が他の年代よりも低いが、30歳代は「関心がある」（12.0%）、「まあまあ関心がある」（41.4%）は40～50歳代と大きな差はない。30歳代になると市政への関心が高まると言える。

居住地域別にみると、すべての地域で「まあまあ関心がある」が最も多くなっている。『関心あり』の割合は、甲賀地域（69.7%）で最も多く、土山地域（52.2%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、3年以上では「まあまあ関心がある」が、3年未満では「あまり関心がない」（40.3%）が最も多くなっている。『関心あり』の割合は、10年以上（63.0%）で最も多く、3年未満（45.2%）で最も少ない。



■ 市政への関心（単数回答）



2. 公共施設

(1) 市内の公共施設の現状

問18 市内の公共施設の現状についてどのように感じておられますか。(○は1つ)

市内の公共施設の現状は、「適度である」(38.2%)が最も多く、次いで「やや少ない」(18.8%)、「少ない(不足している)」(10.5%)となっている。『多い』(「多い」と「やや多い」の合計)の割合は11.0%、『少ない』(「少ない(不足している)」と「やや少ない」の合計)の割合は29.3%だった。なお、「わからない」は19.0%だった。

性別にみると、男性・女性ともに「適度である」が最も多くなっている。『多い』の割合は、男性では13.1%、女性では8.7%で、男性が女性より多い。『少ない』の割合は、男性では30.0%、女性では28.9%で大きな差はない。「わからない」は、女性が23.0%で、全体に比べてやや多くなっている。

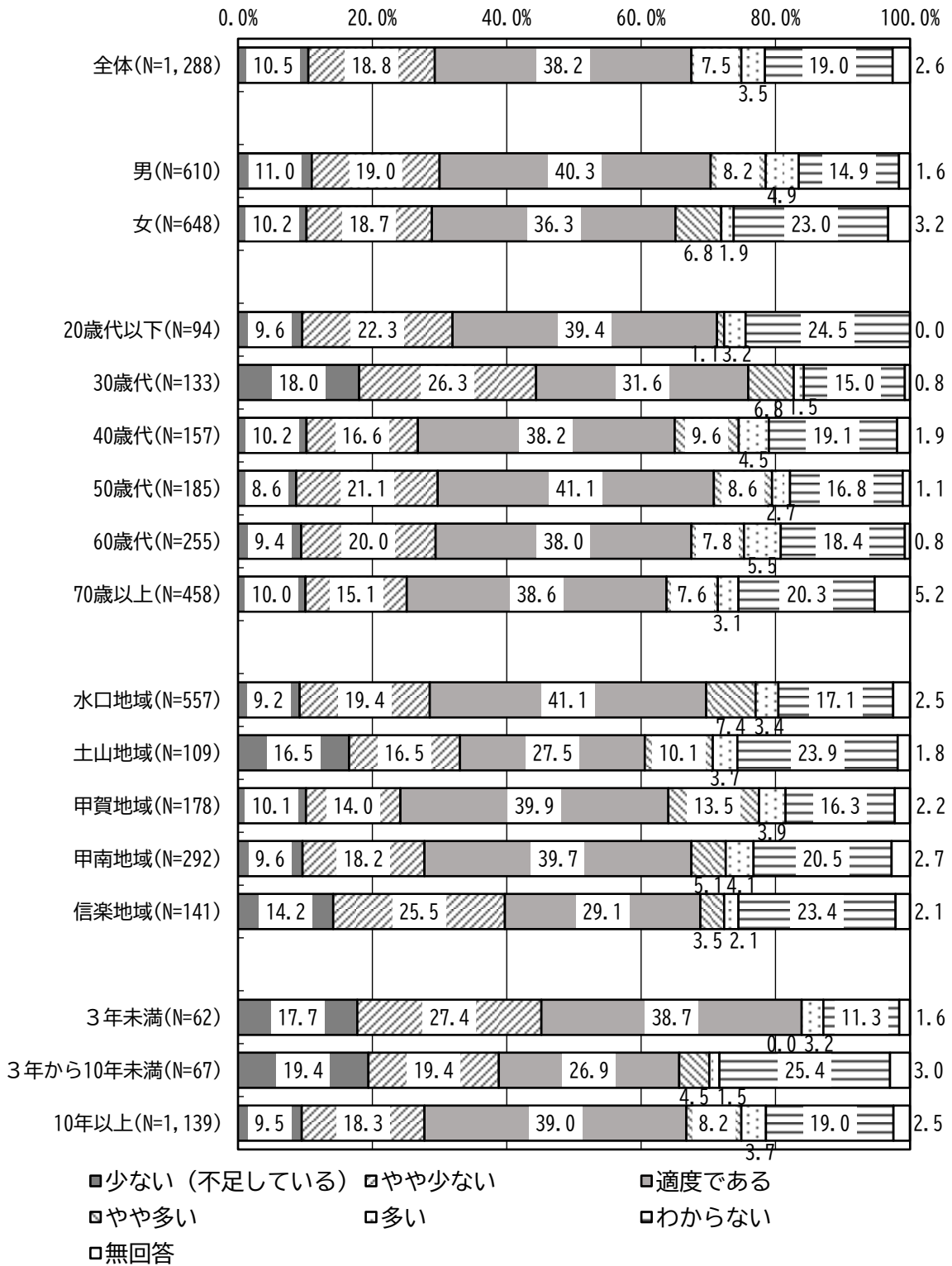
年代別にみると、すべての年代で「適度である」が最も多くなっている。『多い』の割合は、40歳代(14.1%)で最も多く、20歳代以下(4.3%)で最も少ない。『少ない』の割合は、30歳代(44.3%)で最も多く、70歳代(25.1%)で最も少ない。「わからない」は、20歳代以下(24.5%)で全体に比べてやや多くなっている。

30歳代以下では、30歳代では『少ない』の割合が他の年代に比べてやや突出して多くなっているが、20歳代以下(31.9%)では他の年代と大きな差はない。30歳代になると市内の公共施設に不足を感じる傾向がうかがえる。

居住地域別にみると、すべての地域で「適度である」が最も多くなっている。『多い』の割合は、甲賀地域(17.4%)で最も多く、信楽地域(5.6%)で最も少ない。『少ない』の割合は、信楽地域(39.7%)で最も多く、甲賀地域(24.1%)で最も少ない。「わからない」は、土山地域(23.9%)・信楽地域(23.4%)で全体に比べてやや多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「適度である」が最も多くなっている。『多い』の割合は、10年以上(11.9%)で最も多く、3年未満(3.2%)で最も少ない。『少ない』の割合は、3年未満(45.1%)で最も多く、10年以上(27.8%)で最も少ない。「わからない」は、3年から10年未満(25.4%)で全体に比べてやや多くなっており、転入後3年から10年未満の市民が、市内の公共施設の過不足を判断しにくいと感じる傾向がうかがえる。

■市内の公共施設の現状（単数回答）



(2) 市内の公共施設の今後

問 19 市内の公共施設は今後どのようにしていけばよいとお考えですか。(○は1つ)

市内の公共施設の後は、「現状維持」(36.1%)が最も多く、次いで「統廃合などを行い、施設を減らす」(17.2%)、「さらに増やす」(14.8%)となっている。なお、「わからない」は24.2%だった。

性別にみると、男性・女性ともに「現状維持」が最も多くなっている。「さらに増やす」は、男性では17.9%、女性では11.9%で、男性が女性より多い。「統廃合などを行い、施設を減らす」は、男性では21.5%、女性では13.3%で、同様に男性が女性より多い。「わからない」は、女性が32.7%で、全体に比べて多くなっている。

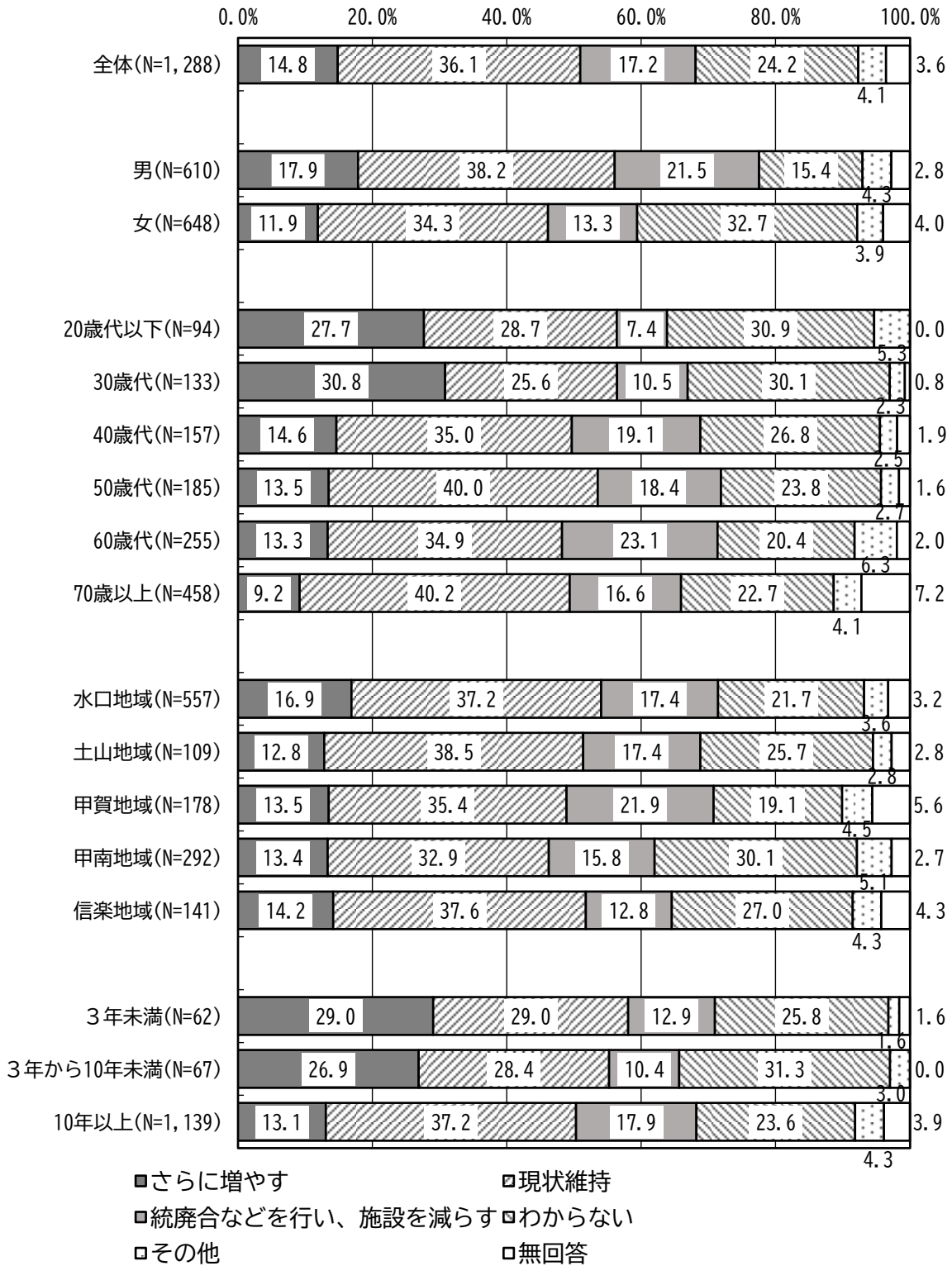
年代別にみると、20歳代以下・40歳代以上では「現状維持」が、30歳代では「さらに増やす」(30.8%)が最も多くなっている。「さらに増やす」は、30歳代で最も多く、70歳以上(9.2%)で最も少ない。「統廃合などを行い、施設を減らす」は、60歳代(23.1%)で最も多く、20歳代以下(7.4%)で最も少ない。

20歳代以下・30歳代では、「さらに増やす」が40歳代以上に比べて多くなっている。30歳代以下で、公共施設の今後について意見のある人は、40歳代以上より施設の増設を希望していると言える。

居住地域別にみると、すべての地域で「現状維持」が最も多くなっている。「さらに増やす」は、水口地域(16.9%)で最も多く、土山地域(12.8%)で最も少ない。「統廃合などを行い、施設を減らす」は、甲賀地域(21.9%)で最も多く、信楽地域(12.8%)で最も少ない。「わからない」は、甲南地域(30.1%)で全体に比べてやや多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、3年以上では「現状維持」が、3年未満では「現状維持」「さらに増やす」(ともに29.0%)が最も多くなっている。「さらに増やす」は、3年未満で最も多く、10年以上(13.1%)で最も少ない。「統廃合などを行い、施設を減らす」は、10年以上(17.9%)で最も多く、3年から10年未満(10.4%)で最も少ない。「わからない」は、3年から10年未満(31.3%)で全体に比べてやや多くなっており、転入後3年から10年未満の市民が、市内の公共施設の今後について判断しにくいと感じる傾向がうかがえる。

■市内の公共施設の今後（単数回答）



(3) 公共施設の整備・維持と財源に関する考え方

問 20 市の公共施設は年々老朽化が進み、今後これらを維持するには、修繕や改修、建替えなどに多額の費用が必要となりますが、一方では、人口減少や少子高齢化による財源の不足も見込まれます。限られた財源のなか、公共施設について今後どのように対応すべきだと思いますか。（〇は優先と考えるものを3つまで）
また、それぞれの具体的な内容や進め方について自由にお書きください。

① 公共施設について今後どのように対応すべきか

公共施設について今後どのように対応すべきかは、「指定管理の導入や業務の効率化など、管理や運営の方法を見直すことで、施設にかかるコストを減らす」（50.6%）がやや突出して多く、次いで「営利目的や個人での利用など、様々な人が利用しやすくすることで収入を増やす」（33.7%）、「公共施設を減らし、施設にかかるコストを減らす」（22.8%）となっている。なお、「わからない」は13.6%だった。

性別にみると、男性・女性ともに「指定管理の導入や業務の効率化など、管理や運営の方法を見直すことで、施設にかかるコストを減らす」が最も多くなっている。「わからない」は、女性が18.8%で、全体に比べてやや多い。

年代別にみると、30歳代以上で「指定管理の導入や業務の効率化など、管理や運営の方法を見直すことで、施設にかかるコストを減らす」が、20歳代以下で「営利目的や個人での利用など、様々な人が利用しやすくすることで収入を増やす」（39.4%）が最も多くなっている。

30歳代以下では、「わからない」が20歳代以下（21.3%）で全体に比べてやや多い。また、30歳代では「営利目的や個人での利用など、様々な人が利用しやすくすることで収入を増やす」（51.9%）が全体に比べて多く、20歳代以下では「指定管理の導入や業務の効率化など、管理や運営の方法を見直すことで、施設にかかるコストを減らす」（36.2%）、「民間や地元地域に施設を移譲し、民間施設や地域の施設として存続させる」（10.6%）が全体に比べて少なくなっている。30歳代以下では、20歳代以下は管理・運営方法の見直しや民間等への移譲に消極的で、30歳代は収益事業での活用に積極的と言える。

居住地域別にみると、すべての地域で「指定管理の導入や業務の効率化など、管理や運営の方法を見直すことで、施設にかかるコストを減らす」が最も多くなっている。回答の傾向に地域間の大きな差はないが、「公共施設を減らし、施設にかかるコストを減らす」については、甲賀地域（30.9%）でやや多く、信楽地域（16.3%）でやや少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、10年以上で「指定管理の導入や業務の効率化など、管理や運営の方法を見直すことで、施設にかかるコストを減らす」（51.4%）が、10年未満で「指定管理の導入や業務の効率化など、管理や運営の方法を見直すことで、施設にかかるコストを減らす」「営利目的や個人での利用など、様々な人が利用しやすくすることで収入を増やす」が最も多くなっている。「わからない」は、3年未満（21.0%）で全体に比べてやや多い。

3年から10年未満では「営利目的や個人での利用など、様々な人が利用しやすくすることで収入を増やす」（49.3%）が全体に比べて多くなっている。

■公共施設の整備・維持と財源に関する考え方（3つ以内で複数回答）

	N (有効回答者数)	公共施設にかかる財源を確保するために、他の行政サービスを減らす	公共施設を減らし、施設にかかるコストを減らす	指定管理の導入や業務の効率化など、管理や運営の方法を見直すことで、施設にかかるコストを減らす	施設の使用料・利用料の改定や、減免制度の見直しにより、収入を増やす	営利的や個人での利用などで収入を増やす	施設の一部または全館を賃貸し、収入を増やす	民間や地元地域に施設を移譲し、民間施設や地域の施設として存続させる	その他	わからない	無回答
全体	1,288	5.7	22.8	50.6	20.7	33.7	16.1	22.5	2.5	13.6	5.7
男	610	5.9	27.5	55.6	23.6	34.1	17.9	26.6	3.4	8.4	3.8
女	648	5.7	18.2	46.3	18.1	33.2	14.4	19.1	1.5	18.8	6.9
20歳以下	94	9.6	18.1	36.2	24.5	39.4	21.3	10.6	3.2	21.3	4.3
30歳代	133	6.0	20.3	52.6	18.8	51.9	17.3	23.3	2.3	9.0	2.3
40歳代	157	8.3	28.0	54.8	16.6	40.1	14.0	16.6	3.8	12.1	3.8
50歳代	185	4.9	22.2	55.1	22.2	33.0	19.5	25.9	0.5	11.4	1.1
60歳代	255	3.9	27.8	54.1	20.8	33.3	18.0	29.4	3.1	10.2	3.9
70歳以上	458	5.5	20.3	48.0	21.4	25.5	13.1	21.4	2.4	16.6	10.3
水口地域	557	6.6	23.3	52.6	21.0	35.5	17.1	26.2	2.2	12.0	3.8
土山地域	109	5.5	22.0	42.2	15.6	29.4	16.5	23.9	1.8	17.4	7.3
甲賀地域	178	5.6	30.9	51.7	23.0	30.9	16.3	19.7	2.2	10.1	5.6
甲南地域	292	4.8	20.9	50.0	20.5	36.0	12.0	18.2	2.7	16.1	7.2
信楽地域	141	4.3	16.3	50.4	22.0	30.5	19.1	20.6	3.5	15.6	7.8
3年未満	62	6.5	17.7	41.9	21.0	41.9	22.6	12.9	1.6	21.0	1.6
3年から10年未満	67	11.9	13.4	49.3	22.4	49.3	23.9	14.9	1.5	10.4	4.5
10年以上	1,139	5.4	23.9	51.4	20.7	32.4	15.5	23.5	2.6	13.3	6.0

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。

表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

② 公共施設についての今後の対応の具体的な内容や進め方

公共施設についての今後の対応の具体的な内容や進め方について、218人、延べ289件の回答があり、「特になし」などの2件を除いて整理した。

■公共施設の整備・維持と財源に関する考え方（自由記述）

分類	小分類	項目	内容	件数
1		行政サービスの削減		6
	11	公共施設のハード面に費用をかけない		5
	12	公共施設よりソフト面のサービスを重視		1
2		公共施設の削減		57
	21	効果・成果のある施設を選択して継続		25
	22	同種の施設の統廃合・集約化		24
	23	民間施設に公共施設を併設		4
	24	空き施設等の有効活用		3
	25	寺社等も活用		1
3		管理・運営方法の見直し		29
	31	民間との運営の協力		11
	32	公務員等の人件費の削減		11
	33	外部委託は望ましくない		4
	34	公務員の利用者対応技術等の向上		2
	35	運営経費・活動団体等支援の削減		1
4		利用料等の改定		11
	41	受益者負担を検討		11
5		利用しやすいの改善		30
	51	利用を増やすため観光等を市外にPR		11
	52	利用を増やすため施設の民間利用の積極的な開放		5
	53	施設へのアクセスの改善		4
	54	利用を増やすための人材を確保		3
	55	利用を増やすため手続等の簡略化		3
	56	利用を増やすため公共施設の広報・周知		3
	57	施設利用者の固定化への対策		1
6		施設の賃貸等、および、民間等への移譲		15
	61	民間への移譲（売却・貸出を含む）		15
7		長期的な対策		39
	71	行政・地域住民等が現状を詳細に把握		16
	72	若い世代を呼び込む		10
	73	財源が限られていることを考慮した長期計画での見直し		7
	74	若い世代の負担にならないようにする		3
	75	各施設の費用対効果などを公表		3
8		優先すべき施設の要望		23
	81	子どもの利用できる施設が望ましい		10
	82	高齢者の利用できる施設が望ましい		4
	83	障がい者の利用できる施設が望ましい		3
	84	スポーツに利用できる施設が望ましい		3
	85	学習に利用できる施設が望ましい		3
9		地域間格差への意見		21
	91	各地域での整備のバランスをとる		9
	92	各地域の過疎化の阻止などのために存続		7
	93	各地域で整備に差を設けるのもやむを得ない		5
10		積極的な修繕・改修・建替えの要望		9
	101	老朽施設の改修・耐震などの要望		6
	102	公共施設への投資による町おこし・防災など		2
	103	コンサートホール・文化施設などの増設		1
11		他の財源を検討		2
	111	クラウドファンディング等の活用		2
12		その他広く公共施設への要望		38
	121	公共交通・道路への要望		16
	122	産業振興への要望		8
	123	生活環境・ゴミの収集への要望		6
	124	医療への要望		4
	125	情報提供の要望		4
13		その他（「コストの削減」などあまり具体的でない回答）		3
14		施設利用の感謝、アンケートへの意見（施設の統廃合を誘導している、など）		4
合計				287

(4) 今後も優先して残してほしい施設

問 21 あなたの住まいの地域で、今後も優先して残してほしい（統廃合しては困る）と思う施設はどのような施設ですか。（○は優先と考えるものを5つまで）

今後も優先して残してほしい施設は、「小学校、中学校」（51.7%）が最も多く、次いで「図書館」「保育園、幼稚園、認定こども園」（ともに43.9%）となっている。なお、「わからない」は6.6%だった。

性別にみると、男性・女性ともに「小学校、中学校」が最も多くなっている。

年代別にみると、30歳代を除く年代で「小学校、中学校」が最も多くなっている。

30歳代以下では、30歳代以下で「公園、広場」「運動公園、グラウンド」が、30歳代で「保育園、幼稚園、認定こども園」（55.6%）、「子育て支援センター、放課後児童クラブ」（45.9%）が全体に比べて多くなっている。30歳代以下では、子どもの利用する施設への要望が高い。

70歳以上では「公民館、コミュニティセンター、集会所など」（46.1%）、「地域市民センター」（36.5%）が全体に比べて多くなっている。また、30歳代以下では「公民館、コミュニティセンター、集会所など」が、40歳代以下では「地域市民センター」「保健センター・地域包括支援センター」が全体に比べて少なくなっている。全体的に、優先して残してほしい施設は、年代が高くなるほど「保健センター・地域包括支援センター」「公民館、コミュニティセンター、集会所など」「地域市民センター」が多くなり、年代が低くなるほど「公園、広場」「運動公園、グラウンド」が多くなる傾向にある。

居住地域別にみると、すべての地域で「小学校、中学校」が最も多くなっている。

甲賀地域では「小学校、中学校」（63.5%）、「保育園、幼稚園、認定こども園」（54.5%）、「地域市民センター」（44.4%）が全体に比べて多くなっている。また、信楽地域では「保健センター・地域包括支援センター」（48.9%）、「地域市民センター」（44.0%）が全体に比べて多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、10年以上で「小学校、中学校」（52.2%）が、3年から10年未満で「小学校、中学校」「図書館」（ともに50.7%）が、3年未満で「公園、広場」（50.0%）が最も多くなっている。

10年未満では「公園、広場」が全体に比べて多くなっている。また、10年未満では「保健センター・地域包括支援センター」「公民館、コミュニティセンター、集会所など」が、3年から10年未満では「地域市民センター」（10.4%）が全体に比べて少なくなっている。全体的に、優先して残してほしい施設は、居住歴が長いほど「保健センター・地域包括支援センター」「公民館、コミュニティセンター、集会所など」が多くなり、居住歴が短いほど「公園、広場」が多くなる傾向にある。

※図表「今後も優先して残してほしい施設」は、33ページに、図表「今後減らしても良い施設」と並べて掲載。

(5) 今後減らしても良い施設

問 22 あなたのお住まいの地域で、今後、減らしてもよいと思う施設はどのような施設ですか。(〇はいくつでも)

今後減らしても良い施設は、「公民館、コミュニティセンター、集会所など」(17.5%)が最も多く、次いで「文化ホール」(16.8%)、「地域市民センター」(14.0%)となっている。なお、「わからない」は37.1%で最も多くの割合を占めており、減らしても良いと思う施設のない市民が多い状況がうかがえる。

性別にみると、男性は「文化ホール」(21.5%)が、女性は「公民館、コミュニティセンター、集会所など」(17.7%)が最も多くなっている。

年代別にみると、50歳代以下では「公民館、コミュニティセンター、集会所など」が、60歳代以上では「文化ホール」が最も多くなっている。

30歳代以下では、「公民館、コミュニティセンター、集会所など」が全体に比べて多くなっている。また、30歳代は他の年代に比べて「地域市民センター」(23.3%)がやや多い。30歳代以下では、地域住民の集会の場としての施設の利用度が低いためと考えられる。

70歳以上では「公民館、コミュニティセンター、集会所など」(7.4%)が全体に比べて少なくなっている。また、70歳以上は他の年代に比べて「地域市民センター」(8.1%)がやや少なく、70歳以上は、地域住民の集会の場としての施設の利用度が高い状況がうかがえる。

居住地域別にみると、水口地域・甲南地域では「公民館、コミュニティセンター、集会所など」が、甲賀地域・土山地域・信楽地域では「文化ホール」が最も多くなっている。「地域市民センター」については、最も多い水口地域(17.2%)と最も少ない信楽地域(5.0%)でやや地域差がある。

甲賀市の居住歴別にみると、10年未満では「公民館、コミュニティセンター、集会所など」が、10年以上では「文化ホール」(17.0%)が最も多くなっている。

10年未満では「公民館、コミュニティセンター、集会所など」が全体に比べて多くなっている。居住歴が長くないと、地域住民の集会の場としての施設の利用度が低い状況がうかがえる。

■今後も優先して残してほしい施設（5つ以内で複数回答）

	N (有効回答者数)	地域市民センター	公民館、コミュニティセンター、集会所など	文化ホール	図書館	体育館	運動公園、グラウンド	公園、広場	小学校、中学校	こども園 保育園、幼稚園、認定	子育て支援センター、放課後児童クラブ	保健センター・地域包括支援センター	その他	わからない	無回答
全体	1,288	26.3	32.0	13.7	43.9	19.8	26.2	26.6	51.7	43.9	26.8	34.4	1.9	6.6	5.6
男	610	27.9	35.2	13.9	41.3	22.1	29.8	27.7	50.7	43.3	24.1	30.8	2.3	6.6	5.1
女	648	25.2	29.2	13.4	46.0	18.4	23.1	25.6	52.8	44.3	29.6	38.0	1.7	6.9	5.6
20歳以下	94	10.6	9.6	11.7	51.1	27.7	38.3	44.7	58.5	50.0	33.0	20.2	3.2	7.4	1.1
30歳代	133	14.3	8.3	7.5	48.9	15.0	40.6	45.1	51.9	55.6	45.9	18.8	1.5	5.3	3.0
40歳代	157	15.3	23.6	14.0	51.0	21.0	28.7	27.4	55.4	37.6	26.8	23.6	2.5	9.6	4.5
50歳代	185	22.7	25.9	16.2	49.7	21.1	23.2	25.4	52.4	44.9	27.6	33.5	1.6	7.6	4.9
60歳代	255	30.2	37.3	16.1	40.8	23.1	22.4	23.5	56.1	50.2	30.2	43.5	1.2	4.7	2.7
70歳以上	458	36.5	46.1	13.3	38.0	16.8	22.3	19.4	46.3	37.8	17.9	41.3	2.2	6.6	9.0
水口地域	557	15.3	28.9	19.9	44.9	23.2	28.9	30.7	49.7	44.5	26.4	33.8	1.8	6.1	5.0
土山地域	109	38.5	40.4	11.9	28.4	21.1	29.4	12.8	51.4	43.1	22.0	29.4	1.8	7.3	7.3
甲賀地域	178	44.4	36.0	6.7	44.4	15.7	21.9	26.4	63.5	54.5	29.2	34.3	1.1	4.5	2.8
甲南地域	292	23.6	29.8	11.6	46.2	15.1	26.7	30.8	48.6	38.7	28.8	31.5	2.7	9.2	5.1
信楽地域	141	44.0	38.3	4.3	48.2	21.3	19.9	13.5	52.5	41.8	26.2	48.9	2.1	4.3	7.8
3年未満	62	21.0	11.3	12.9	40.3	16.1	35.5	50.0	41.9	45.2	32.3	19.4	1.6	9.7	6.5
3年から10年未満	67	10.4	19.4	9.0	50.7	17.9	26.9	41.8	50.7	49.3	37.3	20.9	6.0	4.5	4.5
10年以上	1,139	27.8	34.0	14.0	43.8	20.4	25.9	24.4	52.2	43.5	25.7	36.2	1.8	6.7	5.4

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。
表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

■今後減らしても良い施設（〇はいくつでも）

	N (有効回答者数)	地域市民センター	公民館、コミュニティセンター、集会所など	文化ホール	図書館	体育館	運動公園、グラウンド	公園、広場	小学校、中学校	こども園 保育園、幼稚園、認定	子育て支援センター、放課後児童クラブ	保健センター・地域包括支援センター	その他	わからない	無回答
全体	1,288	14.0	17.5	16.8	7.5	6.7	6.1	8.9	5.4	3.6	3.9	5.6	4.7	37.1	17.0
男	610	16.4	17.2	21.5	11.5	9.0	8.4	10.3	6.7	4.1	5.1	8.0	5.6	34.1	16.1
女	648	11.6	17.7	12.3	3.9	4.3	4.0	7.3	4.0	3.2	2.9	3.4	3.9	40.3	17.3
20歳以下	94	11.7	29.8	11.7	3.2	3.2	2.1	5.3	5.3	4.3	4.3	5.3	6.4	38.3	12.8
30歳代	133	23.3	36.8	23.3	8.3	10.5	7.5	5.3	6.8	2.3	3.0	8.3	2.3	33.8	11.3
40歳代	157	15.9	20.4	12.7	8.3	7.6	3.2	4.5	7.0	5.1	3.2	6.4	3.8	43.3	9.6
50歳代	185	14.6	21.6	15.7	3.8	4.3	6.5	8.1	5.9	6.5	5.9	7.6	6.5	40.0	11.4
60歳代	255	18.8	16.5	23.1	11.8	7.5	7.5	12.5	5.9	3.9	3.5	7.1	3.5	31.8	13.3
70歳以上	458	8.1	7.4	14.4	7.0	6.6	6.6	10.5	3.9	2.2	3.7	3.1	5.5	37.8	26.0
水口地域	557	17.2	21.0	15.1	6.6	6.6	5.0	8.8	3.2	2.9	4.3	4.5	4.3	37.5	16.0
土山地域	109	9.2	8.3	18.3	12.8	7.3	5.5	10.1	8.3	5.5	4.6	4.6	5.5	36.7	20.2
甲賀地域	178	12.4	17.4	25.3	8.4	5.1	9.6	9.6	8.4	5.6	5.1	10.1	5.1	34.3	15.7
甲南地域	292	15.1	18.8	15.1	7.2	8.6	6.5	6.2	5.1	3.8	3.1	6.2	4.1	38.4	16.4
信楽地域	141	5.0	8.5	16.3	5.7	5.0	5.7	13.5	7.8	2.1	2.1	4.3	7.1	37.6	19.1
3年未満	62	17.7	29.0	14.5	4.8	1.6	1.6	3.2	4.8	6.5	6.5	4.8	1.6	35.5	16.1
3年から10年未満	67	16.4	34.3	16.4	9.0	3.0	1.5	1.5	4.5	3.0	3.0	10.4	9.0	43.3	7.5
10年以上	1,139	13.8	16.0	17.0	7.6	7.0	6.5	9.7	5.5	3.6	3.8	5.4	4.7	36.9	17.4

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。
表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

3. 市の情報発信

(1) 市に関する情報の入手

問23 市に関する情報をどの程度読んだり、見たり、聞いたりしておられますか。
(それぞれ〇は1つ)

① 市に関する情報の入手

市に関する情報の入手は、『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は、「広報紙『広報こうか』」（82.8%）が最も多く、次いで「区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）」（76.3%）、「市議会だより」（54.8%）となっている。

「必ず読む、見る、聞く」では、「広報紙『広報こうか』」（29.7%）が最も多く、次いで「区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）」（28.3%）、「市議会だより」（9.1%）となっている。

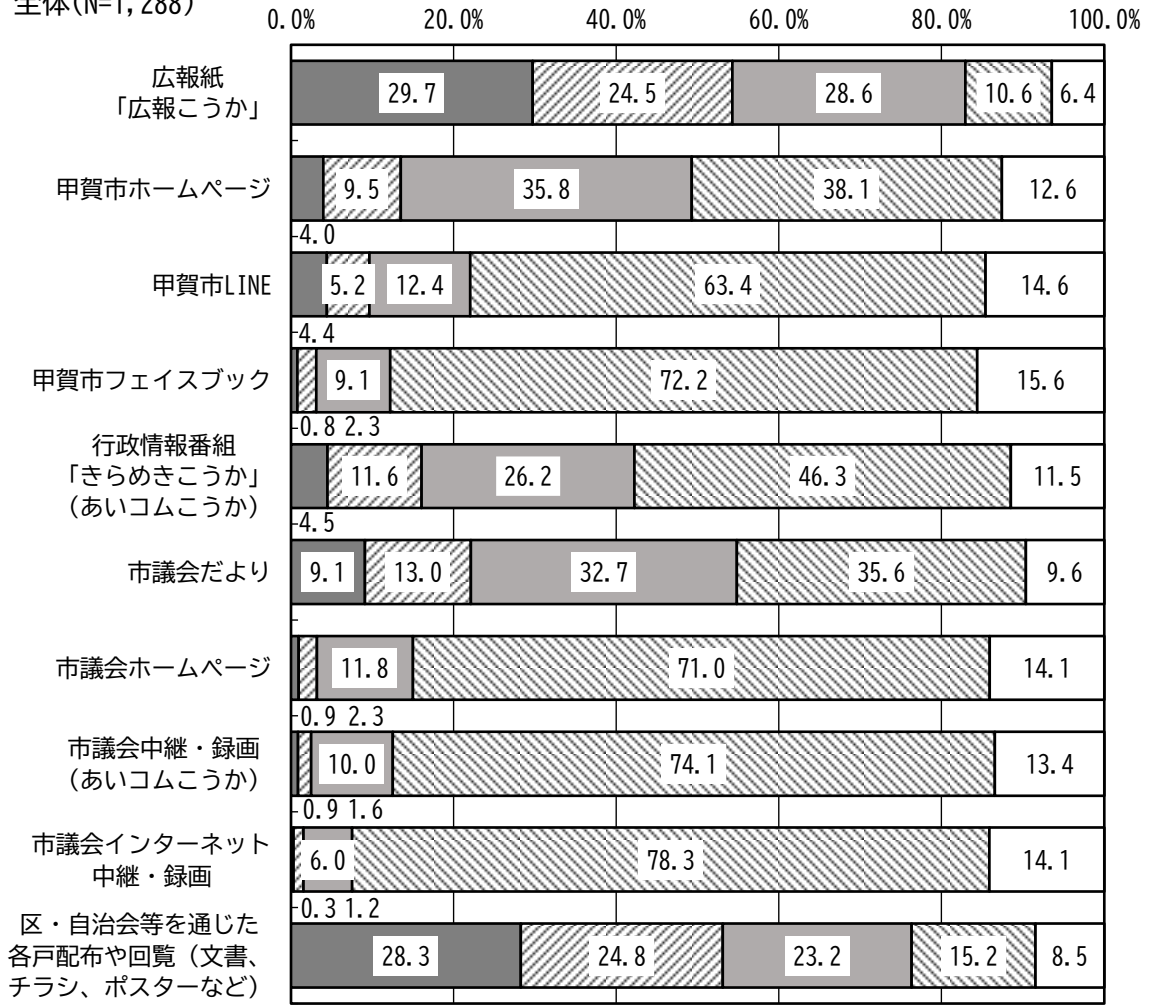
「よく読む、見る、聞く」では、「区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）」（24.8%）が最も多く、次いで「広報紙『広報こうか』」（24.5%）、「市議会だより」（13.0%）となっている。

「たまに読む、見る、聞く」では、「甲賀市ホームページ」（35.8%）が最も多く、次いで「市議会だより」（32.7%）、「広報紙『広報こうか』」（28.6%）となっている。

「読まない、見ない、聞かない」では、「市議会インターネット中継・録画」（78.3%）が最も多く、次いで「市議会中継・録画（あいコムこうか）」（74.1%）、「甲賀市フェイスブック」（72.2%）となっている。

■市に関する情報の入手（単数回答）

全体(N=1,288)



- 必ず読む、見る、聞く
- よく読む、見る、聞く
- たまに読む、見る、聞く
- 読まない、見ない、聞かない
- 無回答

② 広報紙「広報こうか」

広報紙「広報こうか」は、「必ず読む、見る、聞く」（29.7%）が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」（28.6%）、「よく読む、見る、聞く」（24.5%）、「読まない、見ない、聞かない」（10.6%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は82.8%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、令和2年度調査に比べて「必ず読む、見る、聞く」がやや減少した。

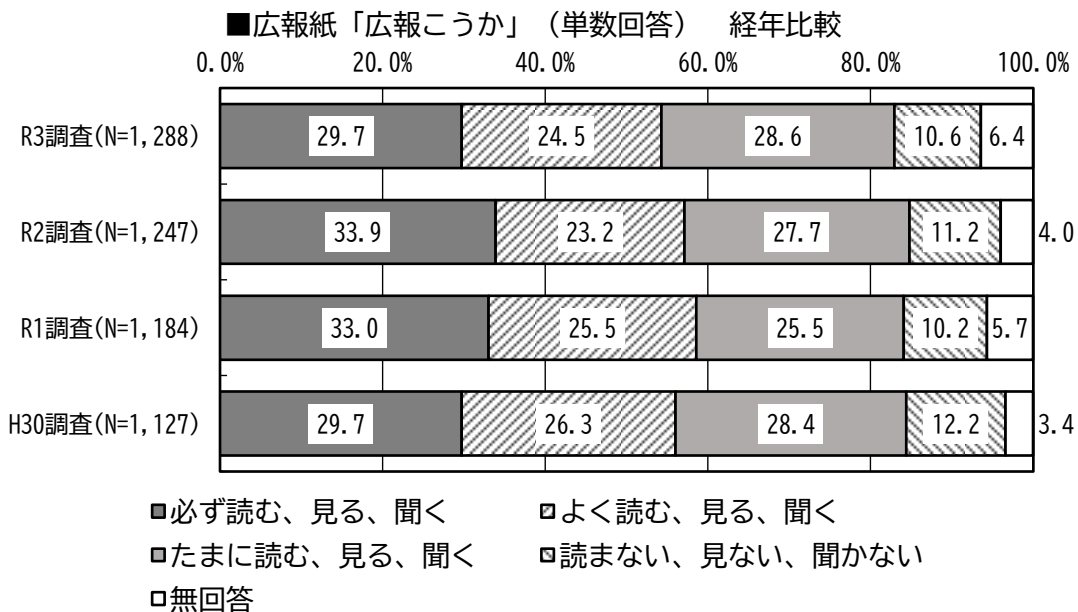
性別にみると、男性・女性ともに「必ず読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、男性では84.0%、女性では82.2%で大きな差はない。

年代別にみると、20歳代以下では「読まない、見ない、聞かない」が、30～50歳代では「たまに読む、見る、聞く」が、60歳代以上では「必ず読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、50歳代（91.8%）で最も多く、20歳代（44.6%）で最も少ない。年代が低くなるほど「読まない、見ない、聞かない」が多い傾向にある。

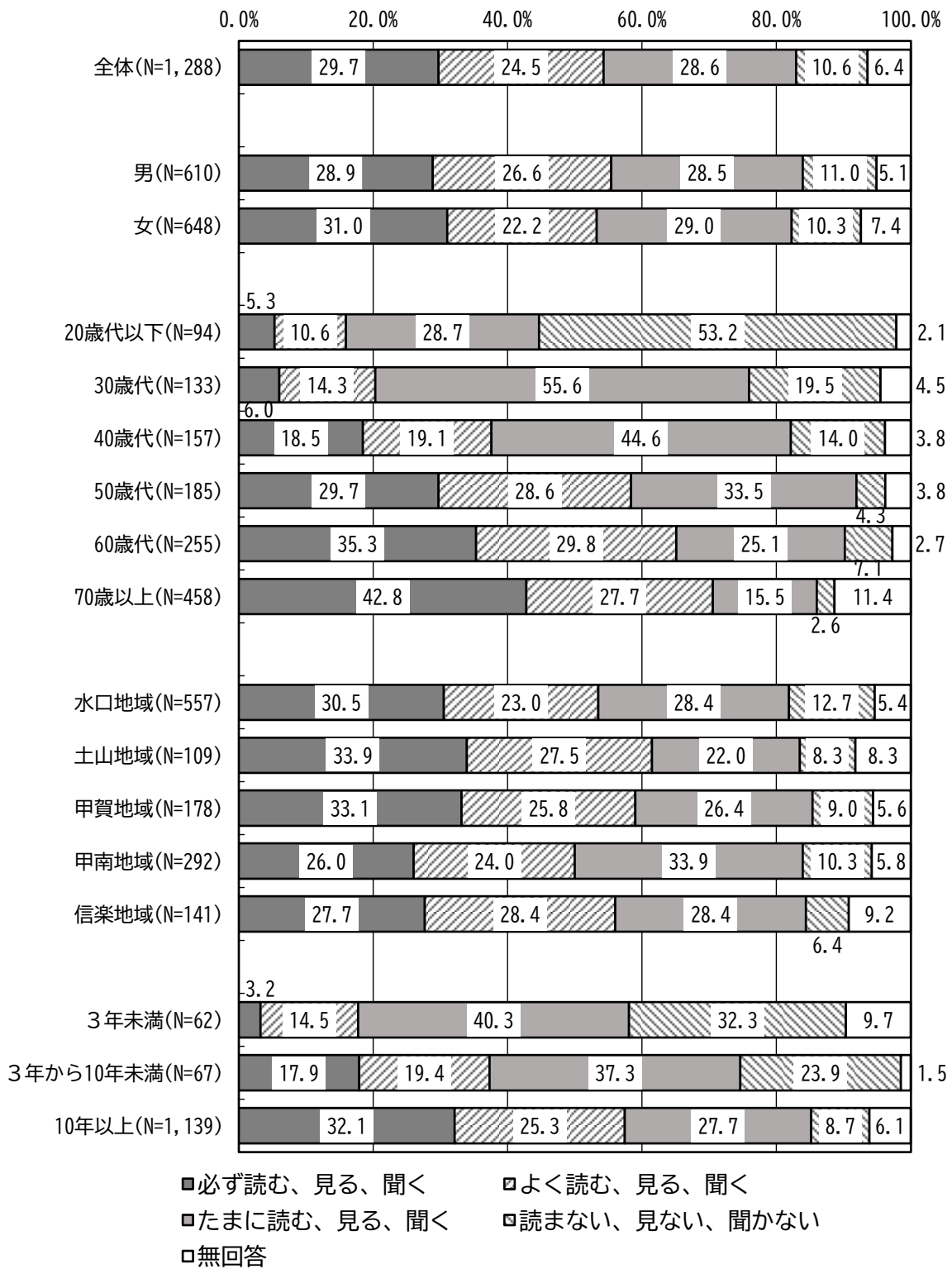
30歳代以下では、「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」の合計が約2割で、40歳代以上に比べて少ない。

居住地域別にみると、甲南地域では「たまに読む、見る、聞く」（33.9%）が、信楽地域では「よく読む、見る、聞く」「たまに読む、見る、聞く」（ともに28.4%）が、他の地域では「必ず読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、甲賀地域（85.3%）で最も多く、水口地域（81.9%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、10年未満では「たまに読む、見る、聞く」が、10年以上では「必ず読む、見る、聞く」（32.1%）が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上（85.1%）で最も多く、3年未満（58.0%）で最も少ない。居住歴が短いほど「読まない、見ない、聞かない」が多い傾向にある。



■広報紙「広報こうか」（単数回答）



③ 甲賀市ホームページ

甲賀市ホームページは、「読まない、見ない、聞かない」(38.1%)が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」(35.8%)、「よく読む、見る、聞く」(9.5%)、「必ず読む、見る、聞く」(4.0%)となっている。『読む、見る、聞く』(「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計)の割合は49.3%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、令和2年度調査に比べて「読まない、見ない、聞かない」がやや増加した。

性別にみると、男性は「たまに読む、見る、聞く」が、女性は「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、男性では53.0%、女性では46.5%で、男性が女性より多い。

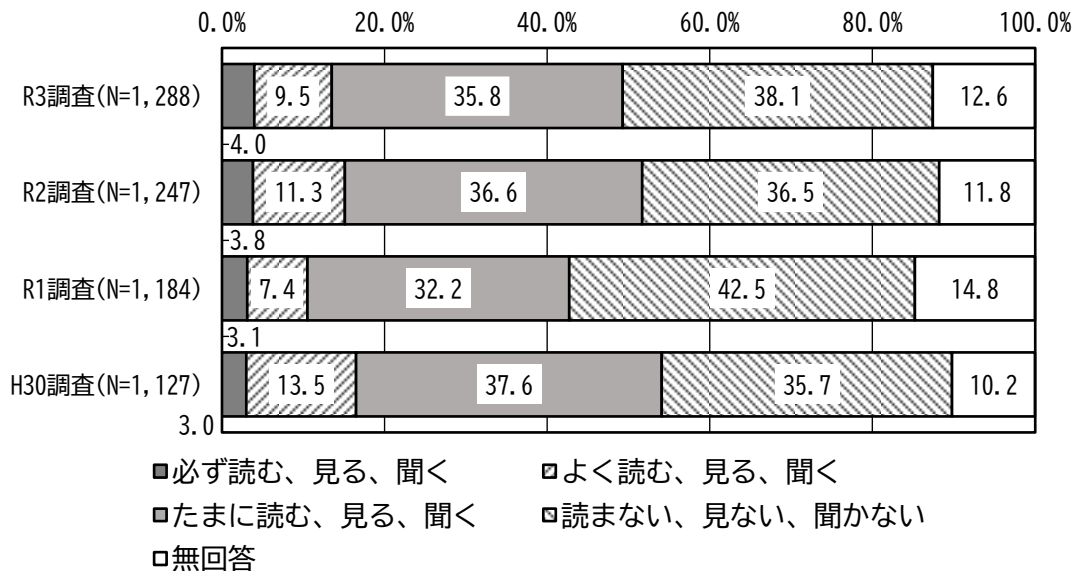
年代別にみると、20歳代以下・60歳代以上では「読まない、見ない、聞かない」が、30～50歳代では「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、40歳代(64.4%)で最も多く、70歳代(36.9%)で最も少ない。

30歳代以下では、「たまに読む、見る、聞く」が、30歳代(51.9%)では40～50歳代と同水準だが、20歳代(29.8%)では30～60歳代に比べて少なくなっている。

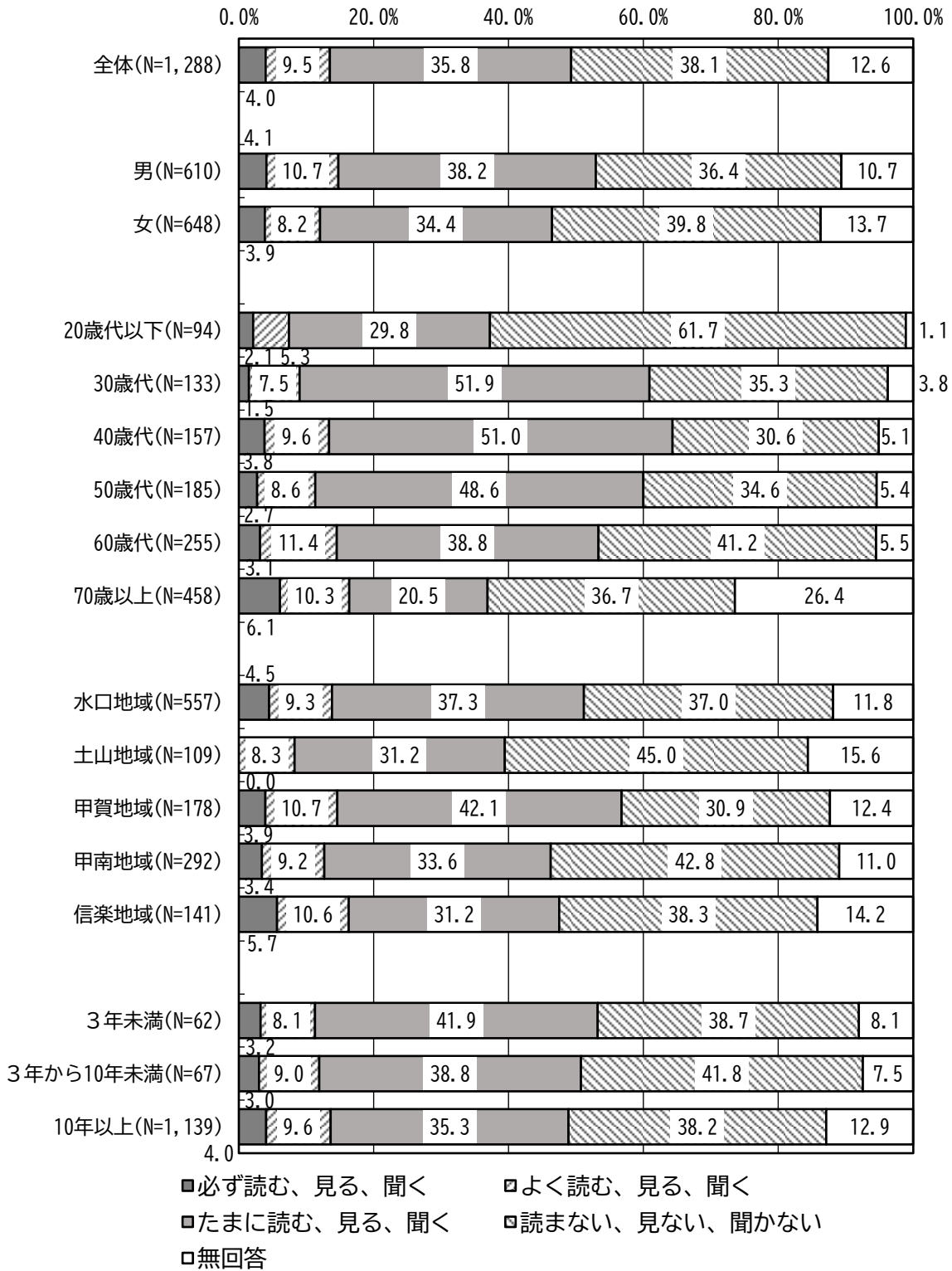
居住地域別にみると、土山地域・甲南地域・信楽地域では「読まない、見ない、聞かない」が、甲賀地域・水口地域では「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、甲賀地域(56.7%)で最も多く、土山地域(39.5%)で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、3年未満では「たまに読む、見る、聞く」(41.9%)が、3年以上では「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、3年未満(53.2%)で最も多く、10年以上(48.9%)で最も少ない。

■甲賀市ホームページ(単数回答) 経年比較



■甲賀市ホームページ（単数回答）



④ 甲賀市 LINE

甲賀市 LINE は、「読まない、見ない、聞かない」（63.4%）が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」（12.4%）、「よく読む、見る、聞く」（5.2%）、「必ず読む、見る、聞く」（4.4%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は22.0%だった。

性別にみると、男性・女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、男性では24.5%、女性では20.6%で、男性が女性よりやや多い。

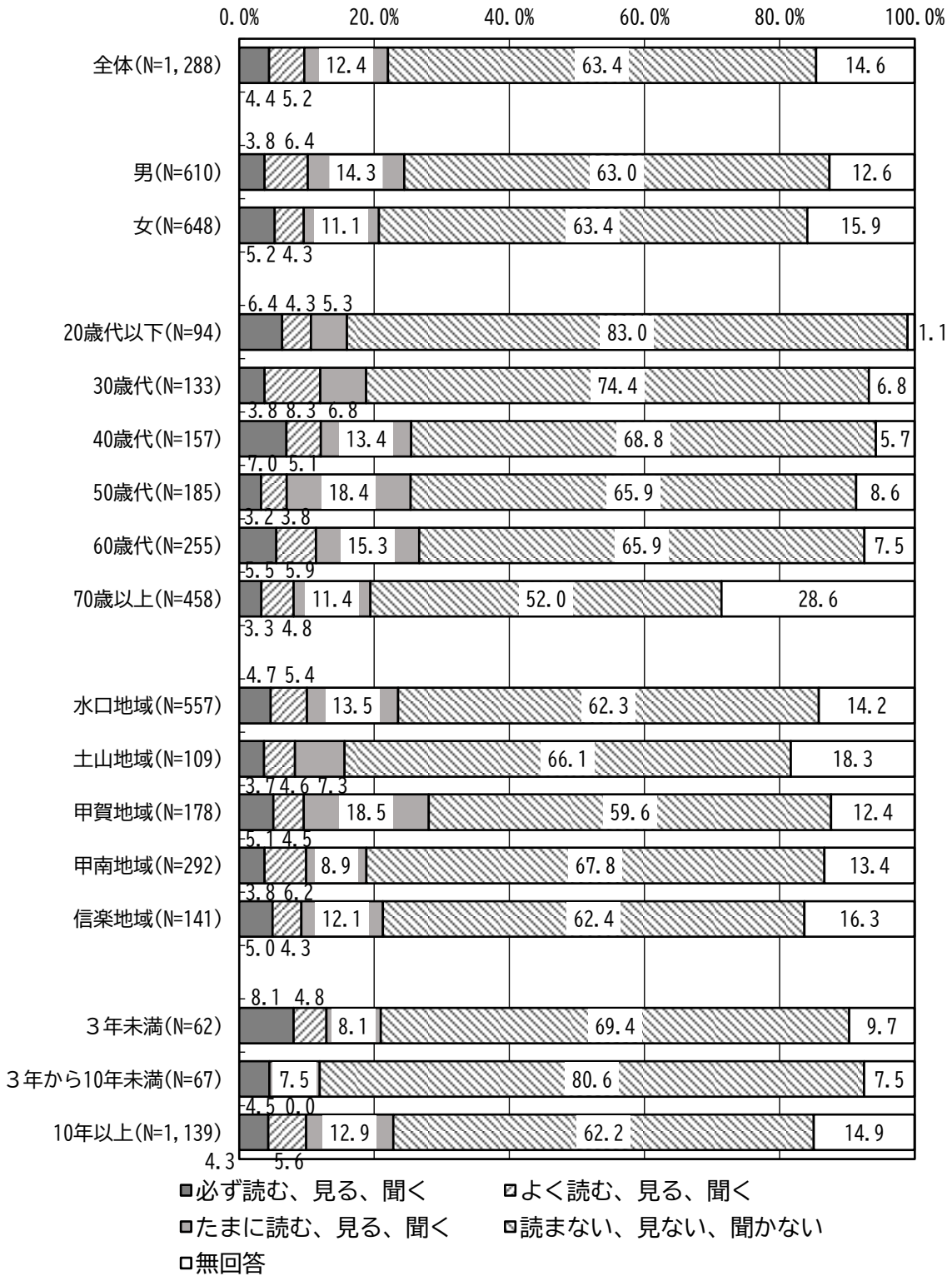
年代別にみると、すべての年代で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、60歳代（26.7%）で最も多く、20歳代以下（16.0%）で最も少ない。

30歳代以下では、『読む、見る、聞く』の割合は2割弱で、40歳代以上に比べてやや少なく、30歳代以下がLINEを閲覧しているとは限らない。

居住地域別にみると、すべての地域で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、甲賀地域（28.1%）で最も多く、土山地域（15.6%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上（22.8%）で最も多く、3年から10年未満（12.0%）で最も少ない。

■甲賀市 LINE (単数回答)



⑤ 甲賀市フェイスブック

甲賀市フェイスブックは、「読まない、見ない、聞かない」(72.2%)が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」(9.1%)、「よく読む、見る、聞く」(2.3%)、「必ず読む、見る、聞く」(0.8%)となっている。『読む、見る、聞く』(「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計)の割合は12.2%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、令和2年度調査に比べて「読まない、見ない、聞かない」がやや増加した。

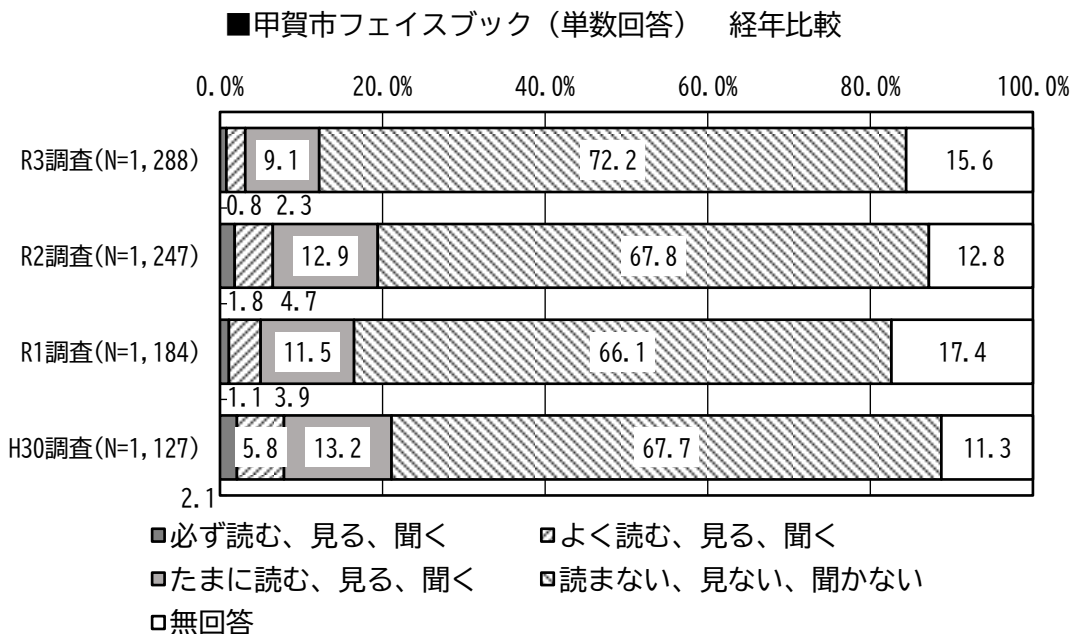
性別にみると、男性・女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、男性では15.4%、女性では9.4%で、男性が女性より多い。

年代別にみると、すべての年代で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、70歳代(17.2%)で最も多く、40歳代(7.1%)で最も少ない。

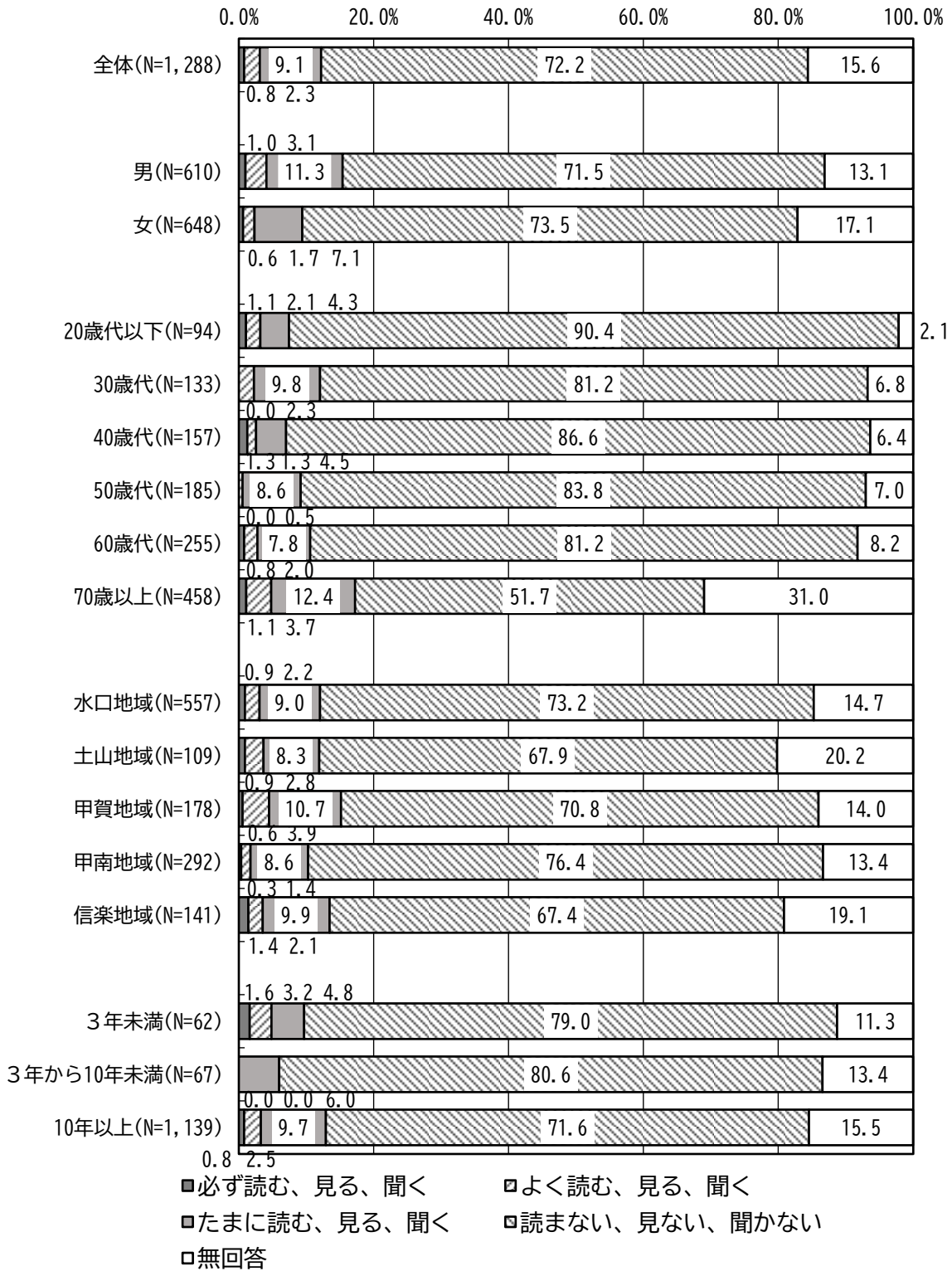
30歳代以下では、『読む、見る、聞く』の割合は1割前後で、他の年代との大きな差はない。

居住地域別にみると、すべての地域で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、甲賀地域(15.2%)で最も多く、甲南地域(10.3%)で最も少ないが、地域間の大きな差はない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上(13.0%)で最も多く、3年から10年未満(6.0%)で最も少ない。



■甲賀市フェイスブック（単数回答）



⑥ 行政情報番組「きらめきこうか」(あいコムこうか)

行政情報番組「きらめきこうか」(あいコムこうか)は、「読まない、見ない、聞かない」(46.3%)が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」(26.2%)、「よく読む、見る、聞く」(11.6%)、「必ず読む、見る、聞く」(4.5%)となっている。『読む、見る、聞く』(「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計)の割合は42.1%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、『読む、見る、聞く』の割合に大きな差はない。

性別にみると、男性・女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、男性では44.4%、女性では40.0%で、男性が女性よりやや多い。

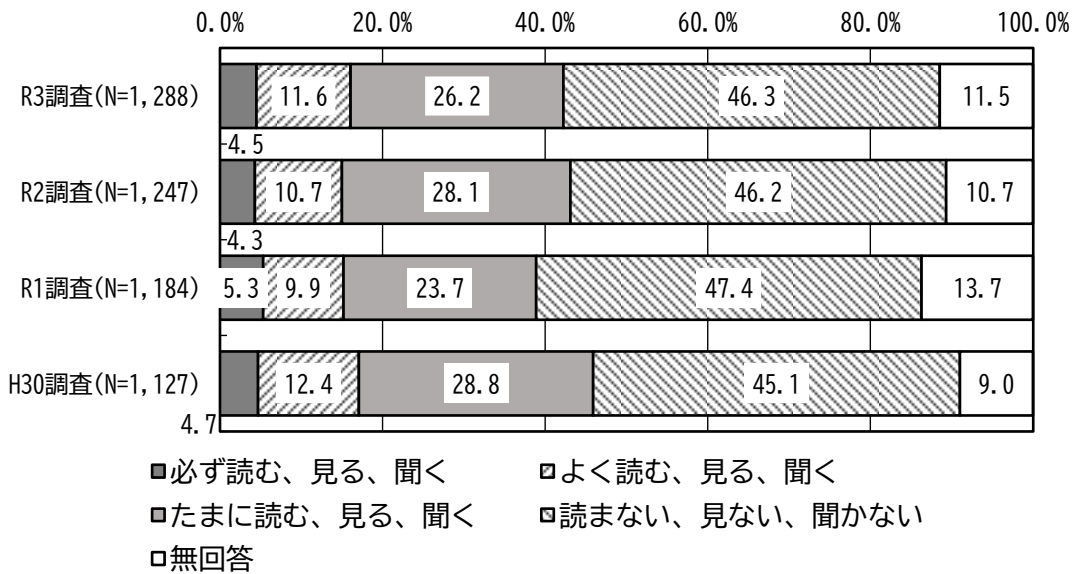
年代別にみると、すべての年代で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、70歳以上(49.5%)で最も多く、20歳代以下(25.6%)で最も少ない。年代が高くなるほど『読む、見る、聞く』が多い傾向にある。

30歳代以下では、『読む、見る、聞く』の割合は3割程度で、他の年代に比べて少ない。

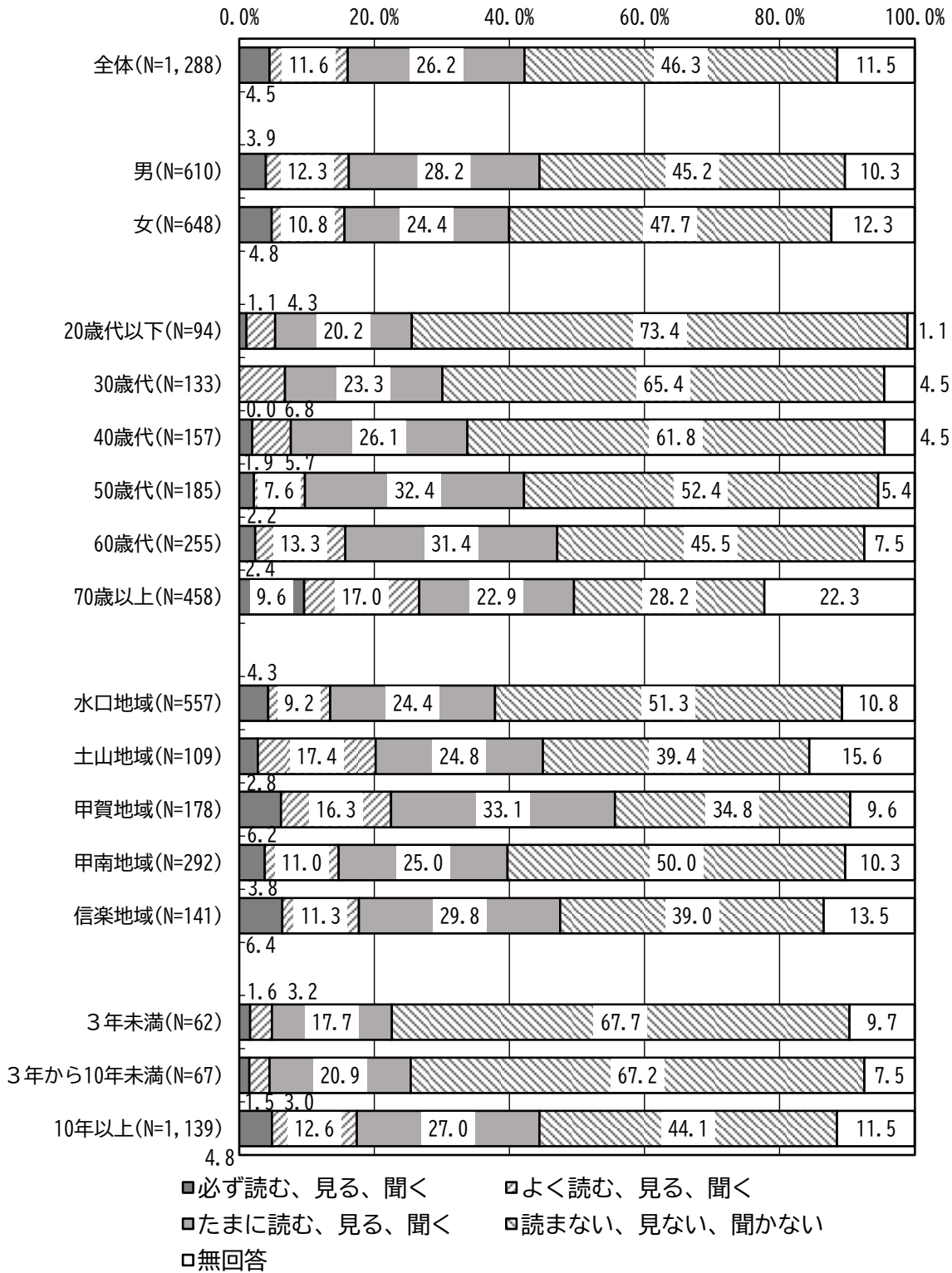
居住地域別にみると、すべての地域で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、甲賀地域(55.6%)で最も多く、水口地域(37.9%)で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上(44.4%)で最も多く、3年未満(22.5%)で最も少ない。居住歴が長いほど「読まない、見ない、聞かない」が少ない傾向にある。

■行政情報番組「きらめきこうか」(あいコムこうか)(単数回答) 経年比較



■行政情報番組「きらめきこうか」（あいコムこうか）（単数回答）



⑦ 市議会だより

市議会だよりは、「読まない、見ない、聞かない」（35.6%）が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」（32.7%）、「よく読む、見る、聞く」（13.0%）、「必ず読む、見る、聞く」（9.1%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は54.8%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、令和2年度調査に比べて「読まない、見ない、聞かない」が増加した。

性別にみると、男性は「たまに読む、見る、聞く」「読まない、見ない、聞かない」（ともに34.1%）が、女性は「読まない、見ない、聞かない」（37.7%）が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、男性では57.9%、女性では51.4%で、男性が女性より多い。

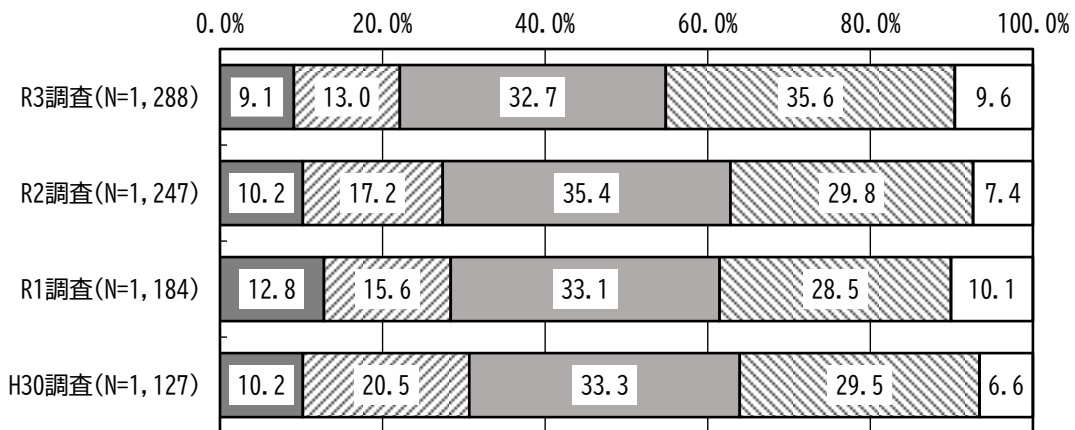
年代別にみると、40歳代以下では「読まない、見ない、聞かない」が、50歳代以上では「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、60歳代（66.7%）で最も多く、20歳代以下（20.2%）で最も少ない。年代が高くなるほど『読む、見る、聞く』が多い傾向にある。

30歳代以下では、『読む、見る、聞く』の割合は2割台で、他の年代に比べて少ない。

居住地域別にみると、甲賀地域では「たまに読む、見る、聞く」（39.3%）が、他の地域では「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、甲賀地域（62.3%）で最も多く、甲南地域（52.0%）で最も少ない。

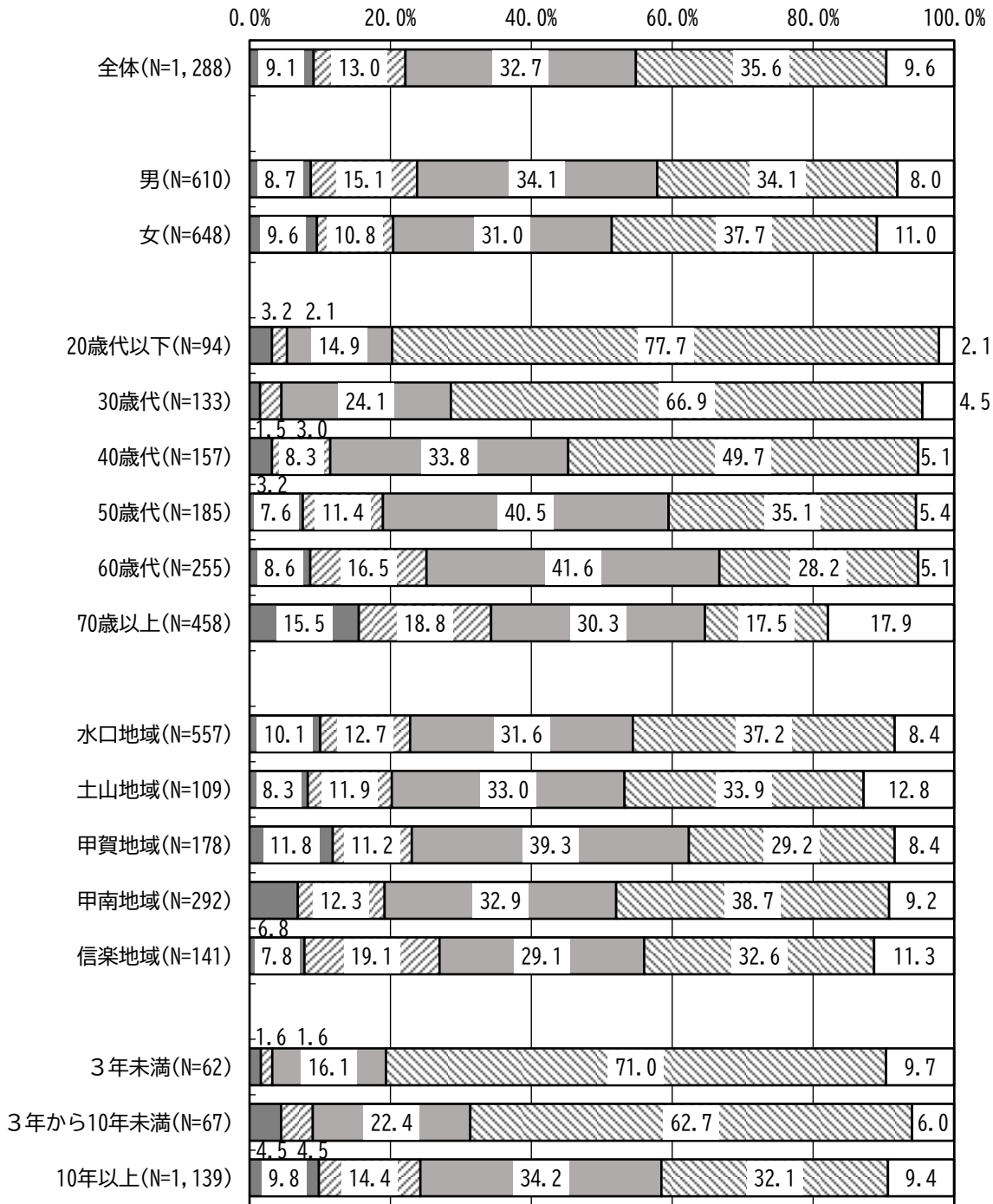
甲賀市の居住歴別にみると、10年以上では「たまに読む、見る、聞く」（34.2%）が、10年未満では「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上（58.4%）で最も多く、3年未満（19.3%）で最も少ない。居住歴が長いほど「読まない、見ない、聞かない」が少ない傾向にある。

■市議会だより（単数回答） 経年比較



- 必ず読む、見る、聞く
- よく読む、見る、聞く
- たまに読む、見る、聞く
- 読まない、見ない、聞かない
- 無回答

■市議会だより（単数回答）



- 必ず読む、見る、聞く
- よく読む、見る、聞く
- たまに読む、見る、聞く
- 読まない、見ない、聞かない
- 無回答

⑧ 市議会ホームページ

市議会ホームページは、「読まない、見ない、聞かない」(71.0%)が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」(11.8%)、「よく読む、見る、聞く」(2.3%)、「必ず読む、見る、聞く」(0.9%)となっている。『読む、見る、聞く』(「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計)の割合は15.0%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、令和2年度調査に比べて「読まない、見ない、聞かない」がやや増加した。

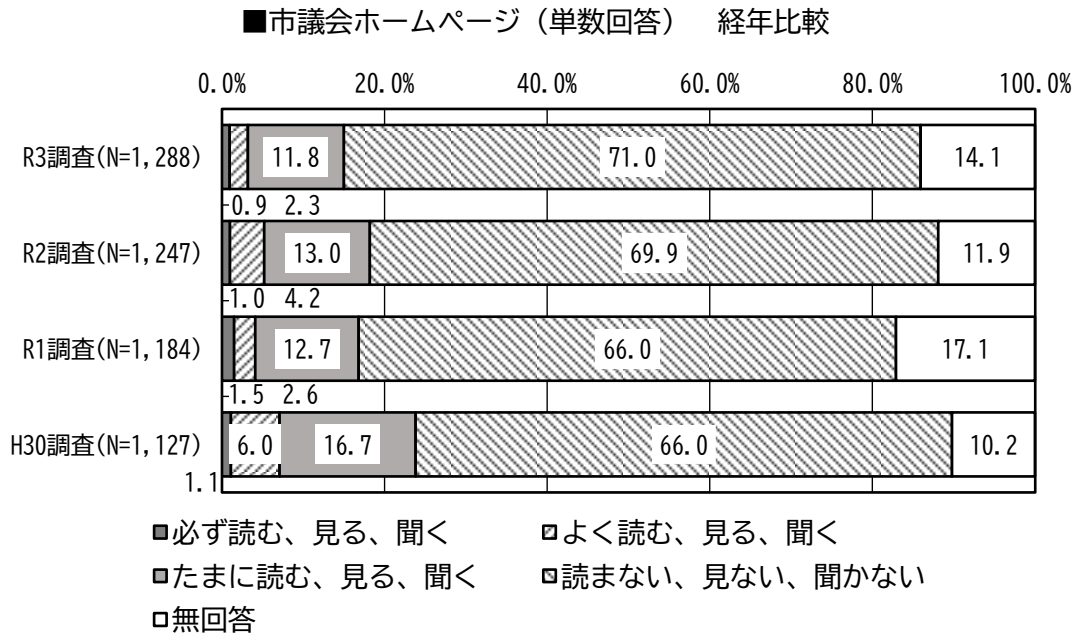
性別にみると、男性・女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、男性では20.5%、女性では9.7%で、男性が女性より多い。

年代別にみると、すべての年代で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、70歳代(20.1%)で最も多く、30歳代(7.6%)で最も少ない。

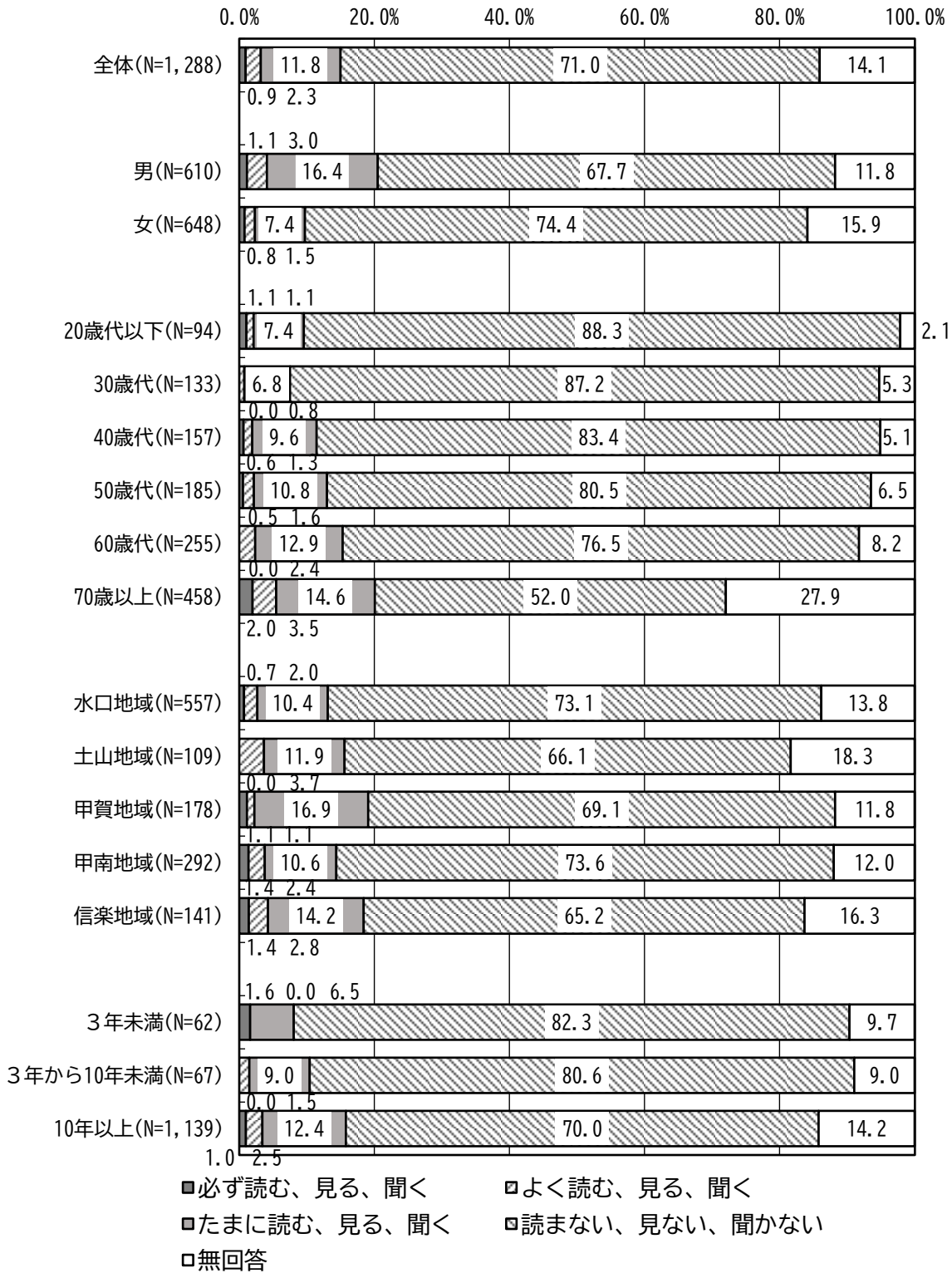
30歳代以下では、『読む、見る、聞く』の割合は1割未満で、他の年代に比べて少ない。

居住地域別にみると、すべての地域で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、甲賀地域(19.1%)で最も多く、水口地域(13.1%)で最も少ないが、地域間の大きな差はない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上(15.9%)で最も多く、3年未満(8.1%)で最も少ない。



■市議会ホームページ（単数回答）



⑨ 市議会中継・録画（あいコムこうか）

市議会中継・録画（あいコムこうか）は、「読まない、見ない、聞かない」（74.1%）が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」（10.0%）、「よく読む、見る、聞く」（1.6%）、「必ず読む、見る、聞く」（0.9%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は12.5%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、令和2年度調査に比べて「読まない、見ない、聞かない」が増加した。

性別にみると、男性・女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、男性では15.3%、女性では10.3%で、男性が女性より多い。

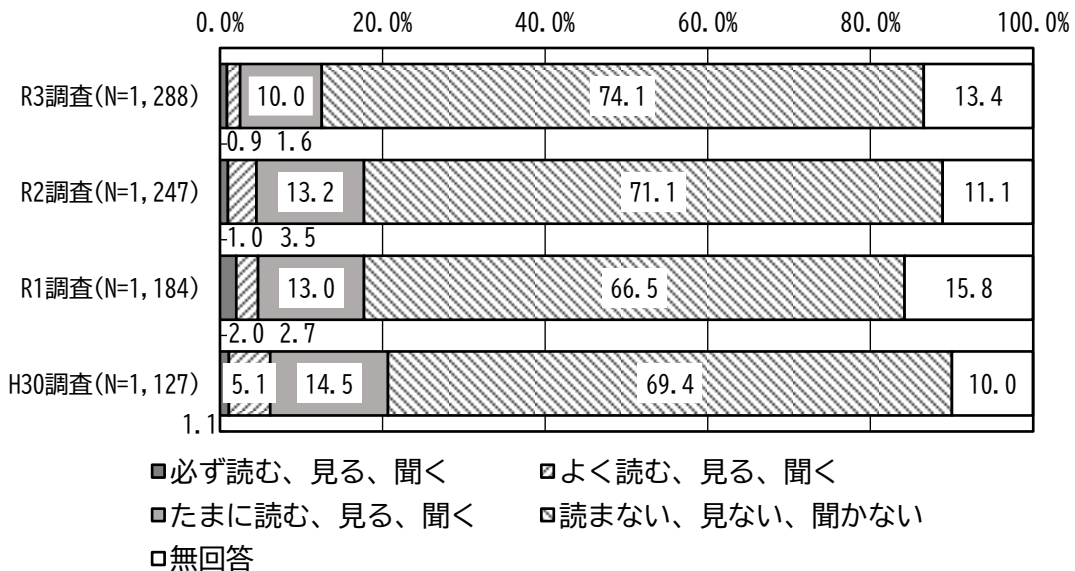
年代別にみると、すべての年代で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、70歳以上（20.5%）で最も多く、30歳代（4.6%）で最も少ない。70歳以上の『読む、見る、聞く』の割合は、他の世代よりやや突出している。

30歳代以下では、30歳代の『読む、見る、聞く』の割合が、他の世代より低くなっている。20歳代（9.6%）は50～60歳代と同水準である。

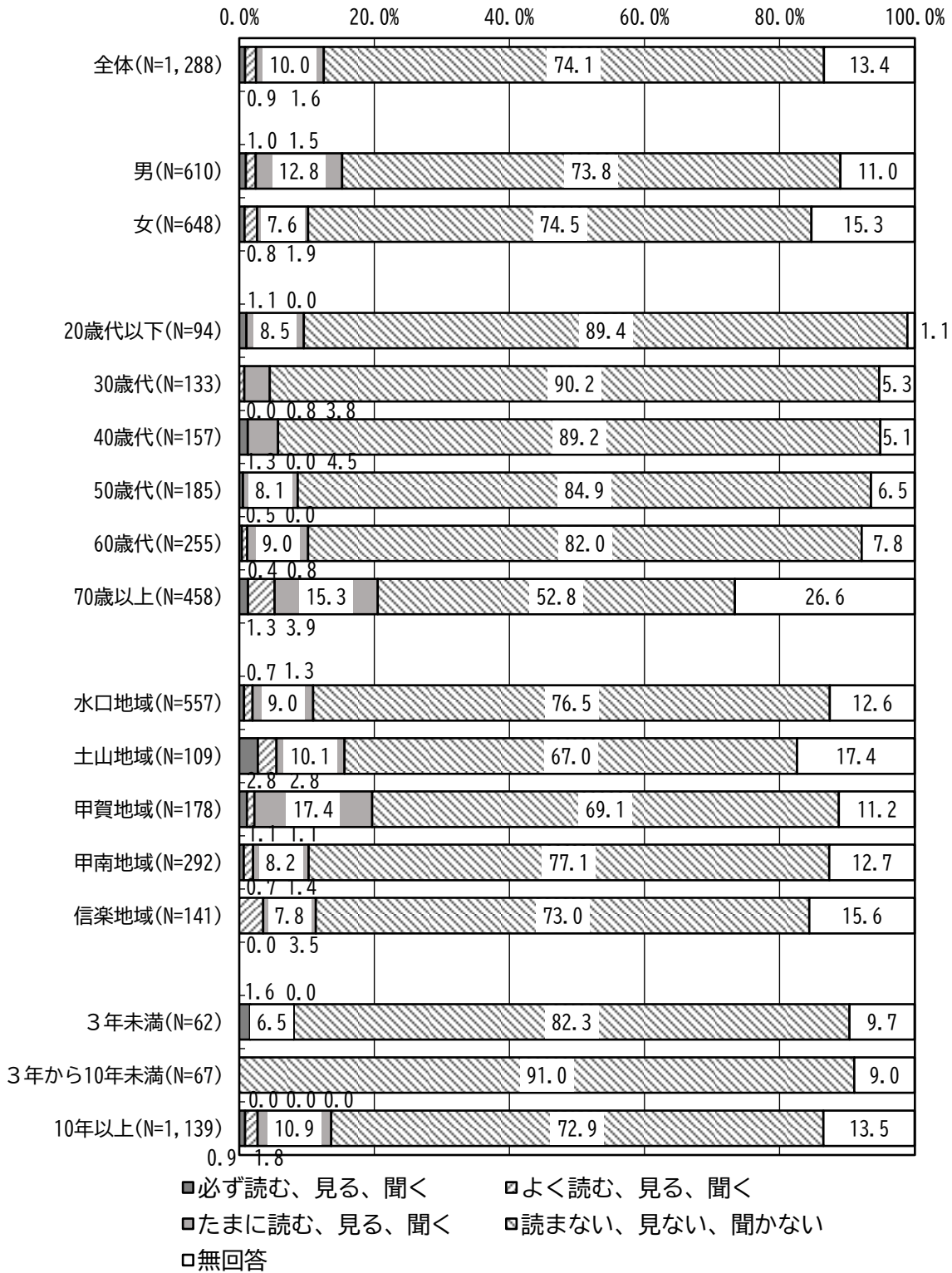
居住地域別にみると、すべての地域で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、甲賀地域（19.6%）で最も多く、甲南地域（10.3%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上（13.6%）で最も多く、3年から10年未満（0.0%）では閲覧者がなかった。

■市議会中継・録画（あいコムこうか）（単数回答） 経年比較



■市議会中継・録画（あいコムこうか）（単数回答）



⑩ 市議会インターネット中継・録画

市議会インターネット中継・録画は、「読まない、見ない、聞かない」（78.3%）が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」（6.0%）、「よく読む、見る、聞く」（1.2%）、「必ず読む、見る、聞く」（0.3%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は7.5%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、『読む、見る、聞く』の割合が減少傾向にある。

性別にみると、男性・女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、男性では10.2%、女性では5.2%で、男性が女性より多い。

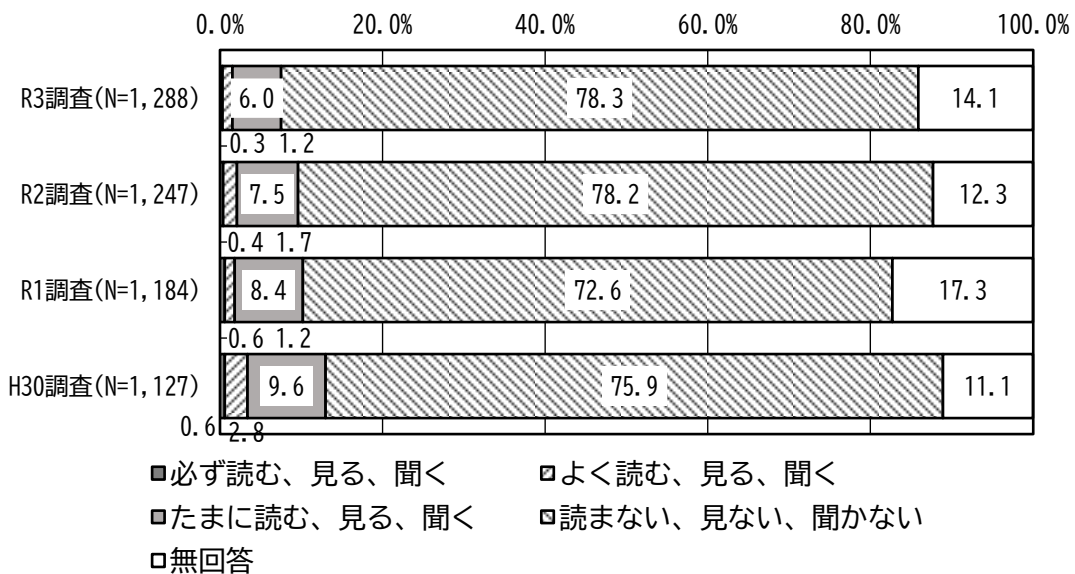
年代別にみると、すべての年代で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、70歳以上（11.4%）で最も多く、30歳代（3.1%）で最も少ない。

30歳代以下では、30歳代の『読む、見る、聞く』の割合が、他の世代より低くなっている。20歳代（8.5%）は60歳代以上と同水準である。

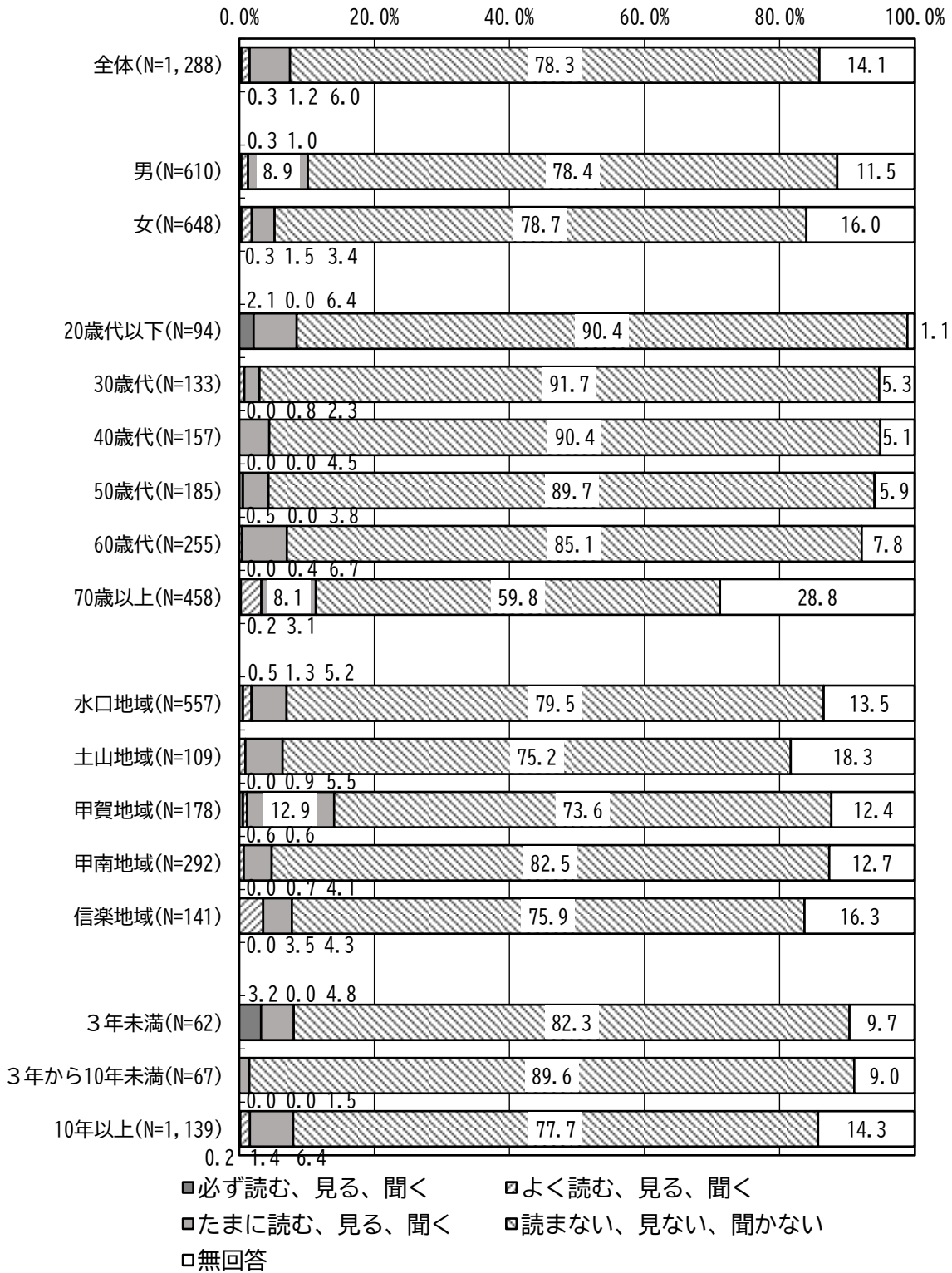
居住地域別にみると、すべての地域で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、甲賀地域（14.1%）で最も多く、甲南地域（4.8%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、3年未満・10年以上（ともに8.0%）で最も多く、3年から10年未満（1.5%）で最も少ない。

■市議会インターネット中継・録画（単数回答） 経年比較



■市議会インターネット中継・録画（単数回答）



⑪ 区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）

区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）は、「必ず読む、見る、聞く」（28.3%）が最も多く、順に「よく読む、見る、聞く」（24.8%）、「たまに読む、見る、聞く」（23.2%）、「読まない、見ない、聞かない」（15.2%）となっている。

『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は76.3%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、『読む、見る、聞く』の割合に大差はないが、令和2年度調査に比べて「必ず読む、見る、聞く」が大きく増加した。

性別にみると、男性・女性ともに「必ず読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、男性では76.6%、女性では76.1%で大きな差はない。

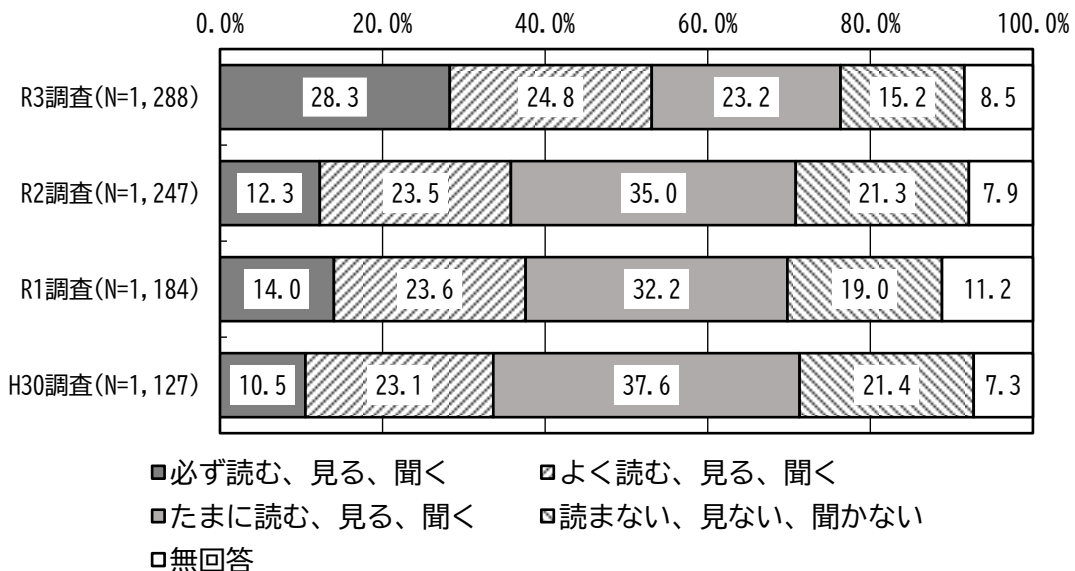
年代別にみると、30歳代以下では「読まない、見ない、聞かない」が、40歳代では「たまに読む、見る、聞く」（36.3%）が、50歳代では「よく読む、見る、聞く」（30.3%）が、60歳代以上では「必ず読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、60歳代（88.2%）で最も多く、20歳代（44.7%）で最も少ない。年代が高くなるほど「必ず読む、見る、聞く」が多く、「読まない、見ない、聞かない」が少ない傾向にある。

30歳代以下では、『読む、見る、聞く』の割合は20歳代・30歳代（60.1%）ともに他の年代に比べて少ない。

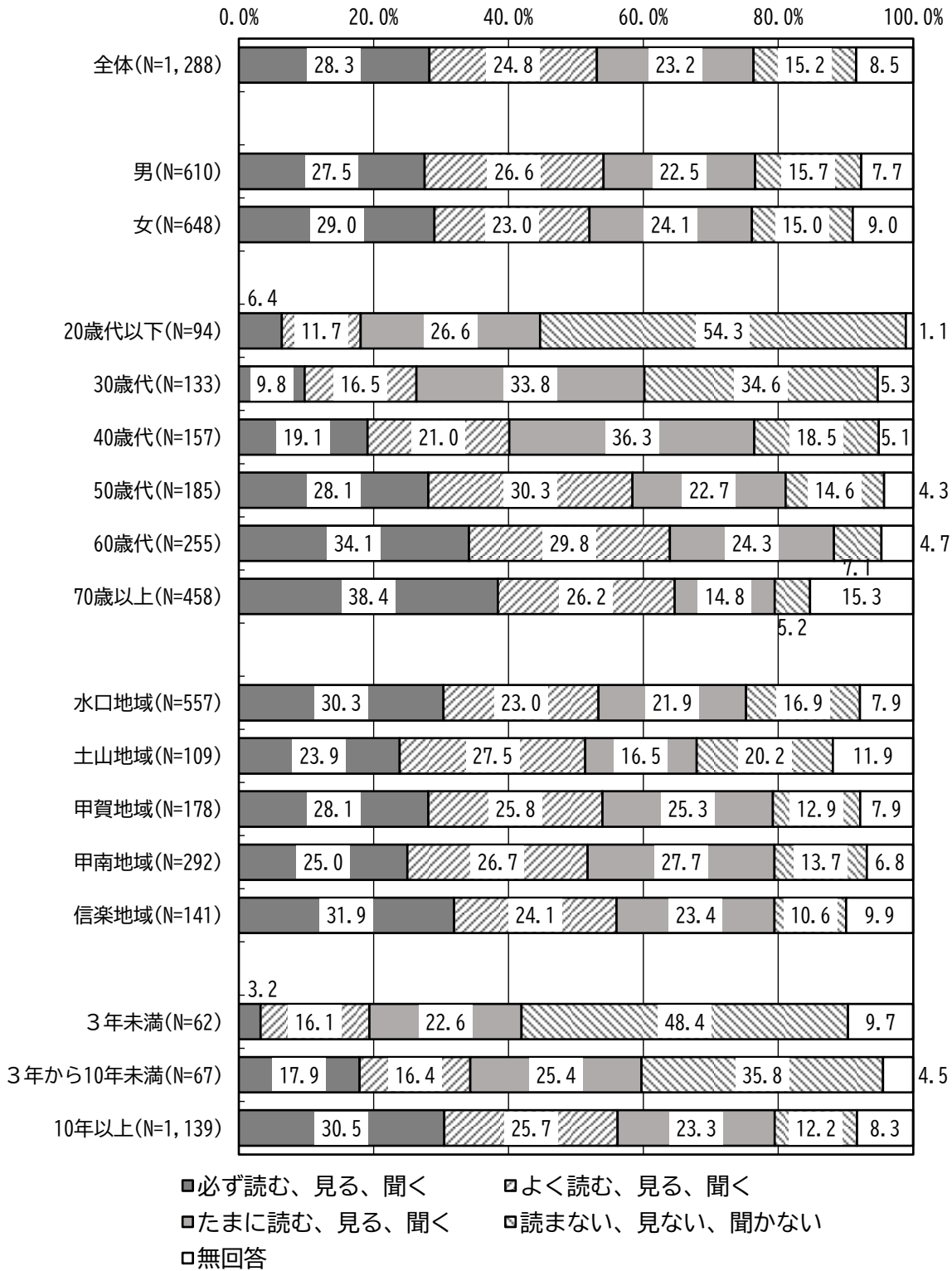
居住地域別にみると、信楽地域・水口地域・甲賀地域では「必ず読む、見る、聞く」が、土山地域では「よく読む、見る、聞く」（27.5%）が、甲南地域では「たまに読む、見る、聞く」（27.7%）が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、甲南地域（79.4%）で最も多く、土山地域（67.9%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、10年以上では「必ず読む、見る、聞く」（30.5%）が、10年未満では「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上（79.5%）で最も多く、3年未満（41.9%）で最も少ない。居住歴が長いほど「必ず読む、見る、聞く」「よく読む、見る、聞く」が多い傾向にある。

■ 区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）（単数回答） 経年比較



■区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）（単数回答）



(2) 広報紙の配布方法

問 24 広報紙の配布方法について、あなたはどの方法が良いとお考えですか。(○は1つ)
「5. その他」に回答された方は、具体的な配布方法について自由にお書きください。

※市の広報紙「広報こうか」は月1回(毎月1日)の新聞折込を中心に、公共施設や量販店等への設置、希望者への個別配達、また市ホームページへの掲載やアプリでの配信を行っておりますが、近年、新聞購読数が減少傾向であることから、より多くのご家庭に配布する方法を検討しております。

① 広報紙の配布方法

広報紙の配布方法は、「現行の配布方法でよい(新聞折込や施設に設置)」(42.2%)がやや突出して多く、順に「郵便局や宅配業者などによる全戸配布(全戸にポスト投函)」(18.6%)、「(区・自治会の加入世帯のみ)区・自治会や自治振興会などの地域コミュニティで各戸配布」(15.9%)、「(区・自治会の加入の有無に関わらず)区・自治会や自治振興会などの地域コミュニティで全戸に配布」(10.6%)となっている。なお、「その他」は2.6%だった。

性別にみると、男性・女性ともに「現行の配布方法でよい」が最も多くなっている。

年代別にみると、すべての年代で「現行の配布方法でよい」が最も多くなっている。

30歳代以下では、20歳代以下で「郵便局や宅配業者などによる全戸配布」(26.6%)が全体に比べてやや多く、「区・自治会や自治振興会などの地域コミュニティで各戸配布」(6.4%)が全体に比べてやや少ない。また、30歳代以下で「その他」が全体に比べてやや多くなっている。

居住地域別にみると、すべての地域で「現行の配布方法でよい」が最も多くなっている。

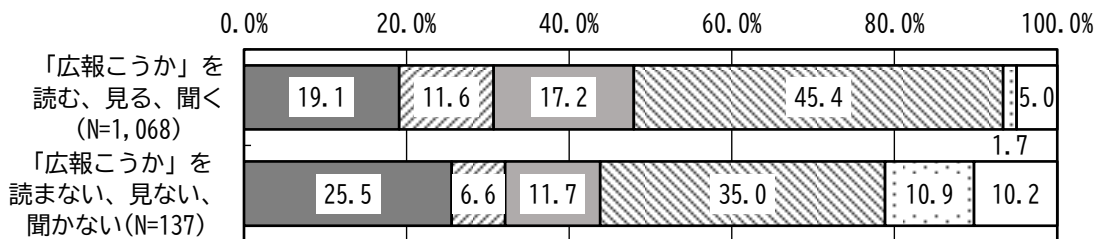
土山地域では「現行の配布方法でよい」(51.4%)が全体に比べてやや多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「現行の配布方法でよい」が最も多くなっている。

また、3年未満で「その他」(9.7%)が全体に比べてやや多くなっている。

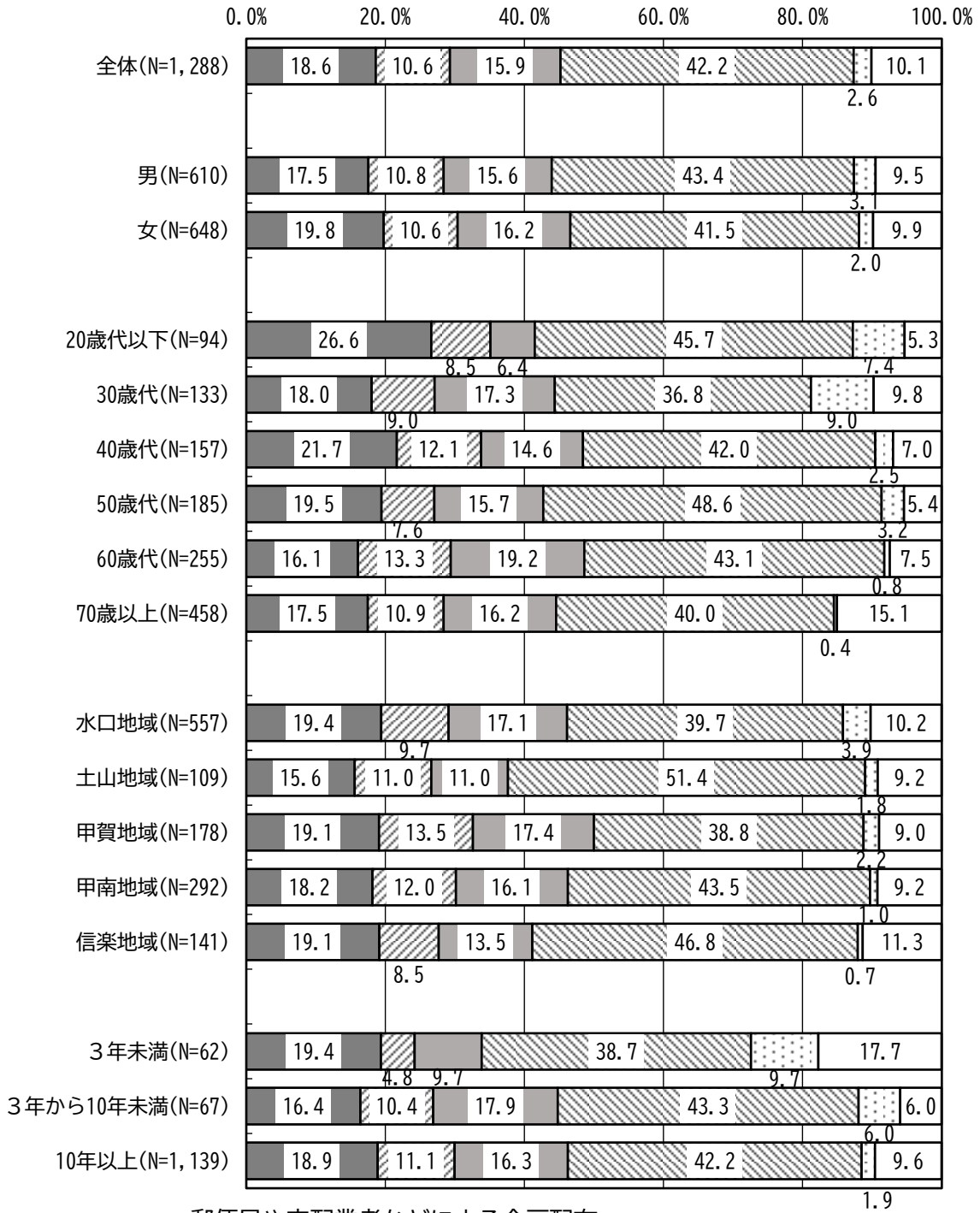
「広報こうか」の閲覧状況別にみると、「読まない、見ない、聞かない」人は、『読む、見る、聞く』人に比べて、「現行の配布方法でよい」が10.4ポイント少なく、「郵便局や宅配業者などによる全戸配布」が6.4ポイント多い。

■広報紙の配布方法(単数回答) 「広報こうか」の閲覧状況別



- 郵便局や宅配業者などによる全戸配布
- 区・自治会や自治振興会などの地域コミュニティで全戸に配布
- 区・自治会や自治振興会などの地域コミュニティで各戸配布
- 現行の配布方法でよい
- その他
- 無回答

■ 広報紙の配布方法（単数回答）



- 郵便局や宅配業者などによる全戸配布
- 区・自治会や自治振興会などの地域コミュニティで全戸に配布
- 区・自治会や自治振興会などの地域コミュニティで各戸配布
- 現行の配布方法でよい
- その他
- 無回答

② 広報紙の具体的な配布方法

広報紙の具体的な配布方法について、123人の回答があり、うち22人が「5. その他」に回答した。述べ24件の回答があり、「広報こうか」の閲覧状況によって区分して整理した。

■広報紙の配布方法（自由記述）

分類	内容	閲覧状況	件数
1	インターネット、SNSのみで配信する		11
	行政は回線の充実やパソコンの配布に努める	読む、見る、聞く	9
	自治会単位で閲覧アプリを導入する	読まない、見ない、聞かない	2
2	希望者のみに配布する		4
	広報の存在を周知したうえで希望者のみ配布する	読む、見る、聞く	3
	自治会単位で希望する家庭を把握する 各戸配布でなくまとめる	読まない、見ない、聞かない	1
3	配布方法を併用する		3
	若い世代にはSNS配信、中高年には現行の方法など使い分ける 全戸にポスト投函と希望者のみ配布を併用する	読む、見る、聞く	3
4	不定期に配布する		1
	必要時のみの不定期配信	読まない、見ない、聞かない	1
5	廃止する		3
	廃止し、情報伝達は自治会に依頼する	読む、見る、聞く	1
		読まない、見ない、聞かない	2
6	購読数の減少対策		2
	具体的な配布方法はわからないが、内容を簡潔にする 子どもへの教育や情報クーポンによって購読希望者を増やす	読む、見る、聞く	2
合計			24

4. 新型コロナウイルス感染症

(1) 新型コロナウイルス感染症で困っていること

問 25 新型コロナウイルス感染症で、困っていることはどのようなことですか。
(○はいくつでも)

新型コロナウイルス感染症で困っていることは、「精神面（メンタル面）」（35.3%）が最も多く、次いで「収入減・支出増」（20.3%）、「人間関係」（17.5%）となっている。なお、「困っていることはない」は24.0%だった。

性別にみると、男性・女性ともに「精神面（メンタル面）」が最も多くなっている。

年代別にみると、60歳代以下では「精神面（メンタル面）」が最も多くなっている。70歳以上では「精神面（メンタル面）」（26.6%）より、「困っていることはない」（31.9%）が多い。

30歳代以下では、20歳代以下で「収入減・支出増」（30.9%）、「学業」（18.1%）が、30歳代で「精神面（メンタル面）」（48.1%）、「子育て・教育」（31.6%）が全体に比べて多くなっている。また、30歳代で「困っていることはない」（12.0%）が全体に比べて少なくなっている。

40歳代では「収入減・支出増」（33.8%）、「子育て・教育」（22.9%）が全体に比べて多くなっている。また、50歳代では「精神面（メンタル面）」（45.4%）が全体に比べて多くなっている。全体的に、「精神面（メンタル面）」「収入減・支出増」は、60歳代以上では50歳代以下に比べて少ない傾向にあるが、「人間関係」は、いずれの年代でも傾向に大きな差はない。

居住地域別にみると、すべての地域で「精神面（メンタル面）」が最も多くなっている。回答の傾向に地域間の大きな差はない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「精神面（メンタル面）」が最も多くなっている。

3年未満では「収入減・支出増」（35.5%）が、3年から10年未満では「子育て・教育」（28.4%）が全体に比べて多くなっている。また、3年から10年未満では「人間関係」（7.5%）が全体に比べて少なくなっている。

※図表「新型コロナウイルスで困っていること」は、60ページに掲載。

職業別にみると、自営業では「収入減・支出増」(56.4%)が、他の職業では「精神面(メンタル面)」が最も多くなっている。

公務員では「精神面(メンタル面)」(45.3%)、「子育て・教育」(26.4%)が全体に比べて多く、「収入減・支出増」(7.5%)、「困っていることはない」(7.5%)が全体に比べて少なくなっている。また、自営業では「収入減・支出増」が、学生では「学業」(57.7%)が全体に比べて多くなっている。

家族形態別にみると、単身では「精神面(メンタル面)」(22.9%)より、「困っていることはない」(35.6%)が多くなっている。他の家族形態では「精神面(メンタル面)」が最も多い。

二世帯世帯・三世帯世帯では「子育て・教育」が他の家族形態に比べてやや多く、夫婦のみ世帯では「収入減・支出増」(15.6%)が他の家族形態に比べてやや少ない。

■新型コロナウイルス感染症で困っていること(複数回答)

	N (有効回答者数)	収入減・支出増	失業・休業	体調不良	精神面(メンタル面)	人間関係	学業	子育て・教育	その他	困っていることはない	無回答
全体	1,288	20.3	5.0	10.9	35.3	17.5	4.0	9.3	11.2	24.0	8.0
男	610	20.0	5.4	8.7	33.1	18.5	2.6	7.7	11.3	26.6	6.9
女	648	20.8	4.6	13.1	37.5	16.7	5.4	10.6	11.3	21.8	9.0
20歳以下	94	30.9	9.6	10.6	36.2	20.2	18.1	9.6	9.6	19.1	1.1
30歳代	133	24.8	6.8	20.3	48.1	18.8	3.8	31.6	12.0	12.0	3.8
40歳代	157	33.8	3.8	10.8	38.9	11.5	7.6	22.9	7.6	18.5	3.2
50歳代	185	24.3	5.9	10.3	45.4	15.1	4.3	8.1	11.9	23.2	4.3
60歳代	255	18.4	5.9	6.3	34.1	19.2	1.2	4.3	16.1	22.4	8.6
70歳以上	458	12.0	3.3	11.1	26.6	19.0	1.3	1.3	9.4	31.9	13.3
水口地域	557	21.0	5.2	11.5	39.3	18.3	3.9	10.1	11.3	23.0	6.3
土山地域	109	22.9	7.3	10.1	35.8	14.7	4.6	8.3	11.0	24.8	6.4
甲賀地域	178	19.7	5.6	9.0	28.7	18.5	5.1	7.9	13.5	25.8	11.2
甲南地域	292	16.4	3.8	12.0	34.6	18.2	2.7	10.3	11.6	25.0	7.5
信楽地域	141	25.5	5.0	9.2	29.1	14.9	5.0	7.1	7.1	24.1	11.3
3年未満	62	35.5	11.3	14.5	35.5	24.2	0.0	12.9	8.1	14.5	4.8
3年から10年未満	67	29.9	4.5	10.4	32.8	7.5	1.5	28.4	7.5	23.9	3.0
10年以上	1,139	19.2	4.8	10.7	35.5	17.6	4.3	7.9	11.6	24.6	8.3

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。

表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

■新型コロナウイルス感染症で困っていること（複数回答） 職業別

	N（有効回答者数）	収入減・支出増	失業・休業	体調不良	精神面（メンタル面）	人間関係	学業	子育て・教育	その他	困っていることはない	無回答
全体	1,288	20.3	5.0	10.9	35.3	17.5	4.0	9.3	11.2	24.0	8.0
会社員	348	24.1	4.9	9.2	38.8	17.8	4.0	16.1	12.1	23.3	4.0
公務員	53	7.5	5.7	18.9	45.3	13.2	0.0	26.4	20.8	7.5	7.5
自営業	110	56.4	7.3	4.5	33.6	16.4	2.7	7.3	12.7	10.9	1.8
パート・アルバイト	204	21.1	5.4	11.8	39.2	14.7	4.4	8.3	10.3	24.0	7.4
学生	26	19.2	3.8	7.7	38.5	15.4	57.7	3.8	3.8	15.4	0.0
専業主婦・主夫	151	13.2	4.0	11.9	30.5	14.6	2.0	7.3	8.6	31.8	10.6
無職・その他	384	10.9	4.7	12.5	31.3	21.4	1.8	3.1	10.7	28.4	12.8

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。
表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

■新型コロナウイルス感染症で困っていること（複数回答） 家族形態別

	N（有効回答者数）	収入減・支出増	失業・休業	体調不良	精神面（メンタル面）	人間関係	学業	子育て・教育	その他	困っていることはない	無回答
全体	1,288	20.3	5.0	10.9	35.3	17.5	4.0	9.3	11.2	24.0	8.0
単身	118	21.2	8.5	11.9	22.9	20.3	1.7	2.5	9.3	35.6	8.5
夫婦のみ	378	15.6	4.8	9.8	34.4	19.8	1.3	2.4	12.2	25.1	8.5
二世帯世帯	586	21.2	4.6	11.4	38.7	15.4	5.5	14.5	11.4	22.9	6.5
三世帯世帯	149	26.2	4.7	9.4	32.2	16.8	8.1	12.1	11.4	20.1	10.1
その他	36	27.8	5.6	19.4	47.2	22.2	0.0	8.3	5.6	16.7	5.6

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。
表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援

問 26 新型コロナウイルス感染症の影響下において、今後1年以内にどのような支援が必要と考えますか。(〇はいくつでも)
また、それぞれの具体的な支援について自由にお書きください。

① 新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援

新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援は、「生活に困っておられる方への支援」(61.1%)がやや突出して多く、次いで「子育て、教育に関する支援」(33.2%)、「事業所、企業等への支援」(28.3%)となっている。なお、「支援の必要はない」は3.3%、「わからない」は9.6%だった。

性別にみると、男性・女性ともに「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。

年代別にみると、すべての年代で「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。

30歳代以下では、「子育て、教育に関する支援」が全体に比べて多くなっている。子育て世代、および、子どもの世代が必要と考える支援であると言える。

40歳代では「事業所、企業等への支援」(40.1%)が全体に比べて多くなっている。また、70歳以上では同「事業所、企業等への支援」(17.2%)が全体に比べて少なくなっている。

居住地域別にみると、すべての地域で「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。回答の傾向に地域間の大きな差はない。

甲賀市の居住歴別にみると、3年未満・10年以上では「生活に困っておられる方への支援」が、3年から10年未満では「子育て、教育に関する支援」(50.7%)が最も多くなっている。

3年未満では「生活に困っておられる方への支援」(79.0%)が、3年から10年未満では「子育て、教育に関する支援」が全体に比べて多くなっている。また、3年から10年未満では「生活に困っておられる方への支援」(47.8%)、「事業所、企業等への支援」(17.9%)、「差別、DV、虐待などの対策」(13.4%)がそれぞれ全体に比べて少なくなっている。

職業別にみると、すべての職業で「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。

公務員では「事業所、企業等への支援」(49.1%)、「差別、DV、虐待などの対策」(49.1%)、「子育て、教育に関する支援」(43.4%)が全体に比べて多くなっている。また、学生では「子育て、教育に関する支援」(53.8%)、「事業所、企業等への支援」(38.5%)が全体に比べて多くなっている。

家族形態別にみると、すべての家族形態で「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。

三世帯世帯では「子育て、教育に関する支援」(40.9%)、「事業所、企業等への支援」(33.6%)、「差別、DV、虐待などの対策」(31.5%)が他の家族形態に比べてやや多い。

■新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援（複数回答）

	（N 有効回答者数）	生活に困つて 支援を必要とする	子育て、教育に 関する支援	事業所、企業等 への支援	差別、DV、虐待 などの対策	その他	支援の必要はない	わからない	無回答
全体	1,288	61.1	33.2	28.3	25.4	3.9	3.3	9.6	6.2
男	610	60.5	32.6	26.1	25.4	3.1	4.8	7.7	5.7
女	648	62.5	33.8	30.4	25.2	4.6	2.2	11.4	6.5
20歳代以下	94	69.1	48.9	37.2	25.5	7.4	1.1	7.4	0.0
30歳代	133	52.6	48.1	33.1	30.8	3.0	3.0	6.0	5.3
40歳代	157	56.1	36.9	40.1	29.9	6.4	5.1	8.3	1.9
50歳代	185	69.2	29.2	34.1	23.2	4.3	2.7	4.9	3.2
60歳代	255	68.6	34.5	31.0	28.2	4.3	3.1	7.5	3.1
70歳以上	458	56.3	25.1	17.2	21.8	2.2	3.7	14.8	12.0
水口地域	557	63.0	35.0	30.3	27.6	3.8	3.4	8.1	6.1
土山地域	109	56.0	29.4	26.6	23.9	2.8	3.7	15.6	6.4
甲賀地域	178	62.4	31.5	24.7	23.0	3.4	2.2	9.6	8.4
甲南地域	292	56.5	33.9	24.0	25.0	4.5	3.4	10.3	4.8
信楽地域	141	67.4	30.5	35.5	22.0	4.3	3.5	10.6	5.7
3年未満	62	79.0	32.3	35.5	29.0	6.5	0.0	3.2	3.2
3年から10年未満	67	47.8	50.7	17.9	13.4	4.5	4.5	7.5	1.5
10年以上	1,139	61.4	32.1	28.8	26.1	3.8	3.4	10.0	6.5

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。
表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

※図表「新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援 職業別・家族形態別」は、64ページに掲載。

■新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援（複数回答） 職業別

	(N 有効回答者数)	れ生 活に 困つ て支 援お ら	す子 育て 、教 育に 関	の事 業所 、企 業等 へ	な差 別の 対策 、D V、 虐待	そ の他	支 援の 必要 はない	わ か ら な い	無 回 答
全体	1,288	61.1	33.2	28.3	25.4	3.9	3.3	9.6	6.2
会社員	348	60.9	37.4	33.6	27.9	4.0	4.9	6.6	2.0
公務員	53	60.4	43.4	49.1	49.1	7.5	1.9	5.7	3.8
自営業	110	69.1	26.4	36.4	17.3	4.5	3.6	4.5	5.5
パート・アルバイト	204	67.6	39.2	34.8	26.0	3.9	2.5	5.9	3.4
学生	26	69.2	53.8	38.5	34.6	7.7	0.0	7.7	0.0
専業主婦・主夫	151	61.6	30.5	21.2	25.8	4.0	0.7	13.2	4.0
無職・その他	384	55.7	26.0	16.9	21.6	2.9	3.9	15.4	12.5

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。
表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

■新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援（複数回答） 家族形態別

	(N 有効回答者数)	れ生 活に 困つ て支 援お ら	す子 育て 、教 育に 関	の事 業所 、企 業等 へ	な差 別の 対策 、D V、 虐待	そ の他	支 援の 必要 はない	わ か ら な い	無 回 答
全体	1,288	61.1	33.2	28.3	25.4	3.9	3.3	9.6	6.2
単身	118	65.3	21.2	27.1	22.9	5.1	4.2	13.6	5.1
夫婦のみ	378	64.0	28.3	24.6	26.7	4.0	4.2	9.8	5.3
二世帯世帯	586	60.1	36.7	29.9	24.2	3.8	3.2	8.0	5.3
三世帯世帯	149	57.7	40.9	33.6	31.5	4.7	2.0	10.7	6.7
その他	36	55.6	36.1	27.8	22.2	0.0	0.0	19.4	16.7

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。
表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

② 新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な具体的な支援

新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な具体的な支援について、180人、延べ226件の回答があり、問25・問26の選択肢、および、令和2年度調査での分類に沿って整理した。

■新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援（自由記述）

分類	小分類	項目	内容	件数
1		情報面の支援		30
	11	適切な情報提供		11
	12	相談窓口等による実態の把握		8
	13	感染症・衛生知識の提供		6
	14	感染予防対策の設備投資（デジタル化など）		3
	15	コロナ前後の状況変化の調査・把握		2
2		事業所・企業への支援		26
	21	事業所・企業への支援		13
	22	飲食店・サービス業への支援		13
3		対象に応じた支援（ひとり親家庭への支援は子育て支援に分類）		25
	31	生活困窮者・低所得者への支援		17
	32	感染者への支援		3
	33	さまざまな対象への支援（家庭内介護者、外国人労働者など）		5
4		ワクチン接種		21
	41	ワクチン接種		13
	42	高齢者以外の感染予防		6
	43	高齢者の感染予防		2
5		子育て支援		19
6		給付金・支援金の配布		15
7		教育支援		10
8		施設利用・イベント開催		9
	81	コミュニケーションの機会の確保		4
	82	感染対策したうえでの施設利用		3
	83	感染対策したうえでのイベント開催		2
9		就業支援・雇用促進		8
10		差別・DV・虐待対策		7
11		クーポンの配布		6
12		マスク等の配布		6
	121	マスク等の配布		3
	122	マスク・ワクチン等を強制しない多様な感染対策		3
13		精神的なケア		6
	131	精神的なケア		4
	132	子どもの精神的なケア		2
14		医療・福祉面の支援		6
	141	地域医療の確保		3
	142	医療・福祉従事者への支援		2
	143	医療費の支援		1
15		迅速な対応		5
16		その他の経済的な支援		5
	161	税の減免		3
	162	コロナ基金の創設、クラウドファンディング		2
17		自助努力の後押し、経済活動の優先など		15
18		その他（コロナ禍への感慨、行政の支援への感謝など）		7
合計				226

3) 新型コロナウイルス感染症に関する意見

問 27 新型コロナウイルス感染症に関して自由にお書きください。
(不安なこと、お悩みのことなどご自由に)

新型コロナウイルス感染症に関する意見について、320人、延べ425件の回答があり、問25・問26の選択肢、および、令和2年度調査での分類に沿って整理した。

■新型コロナウイルス感染症に関する意見（自由記述）

分類	小分類	項目	内容	件数
8		健康・体調不良への不安		16
	81	感染予防対策による体調不良・精神面への不安		9
	82	感染・後遺症への不安		7
9		子育てへの不安		15
	91	子どもの活動制限への不安		9
	92	子どもの感染への不安		3
10		子育て全般への不安		3
		収入減・支出増への不安		12
	101	収入の減少への不安		9
11		支出の増加への不安		3
		イベント等の開催への対応		9
	111	行事・イベントの制限への不安・不満		9
12		全体的な不安		9
	121	ワクチン接種・感染予防対策等により不安が減少した		5
	122	感染予防対策等の効果に期待できないという諦念		4
13		金銭面での支援		7
	131	給付金等への要望		2
	132	税の減免措置への要望		2
14		感染者・濃厚接触者・ワクチンの副反応の出た人への支援を要望		2
	133	感染者・濃厚接触者・ワクチンの副反応の出た人への支援を要望		2
	134	リモートワーク体制の整備への補助を要望		1
15		生活に困っている人への支援		4
	141	孤立している人などへの支援を要望		4
		産業への支援		2
16		飲食店・自営業者への助成を要望		2
	151	飲食店・自営業者への助成を要望		2
		教育への不安		2
17		学校活動の縮小への不安		1
	161	学校活動の縮小への不安		1
	162	情報通信技術の推進による学校活動の縮小を要望		6
18		支援の縮小		2
	171	給付金等の財源への負担増の不安		2
	172	過剰に騒ぎ立てることへの不安		2
合計		支援制度を悪用させない仕組みづくりへの要望		1
	173	支援制度を悪用させない仕組みづくりへの要望		1
	174	自助努力の必要性		3
		その他（公共交通や公共施設への要望など）		425

分類	小分類	項目	内容	件数
1		ワクチン接種の充実		92
	11	迅速なワクチン接種への要望・不安		38
	12	接種予約手続・会場へのアクセスなどへの不安・不満		19
	13	若い世代の接種の推進への要望		17
	14	ワクチンの副反応・効果などへの不安		15
2		ワクチンや新薬の開発への要望		3
		感染予防対策の充実		85
	21	接触制限による人間関係の希薄化への不安		26
	22	感染予防対策が遵守・徹底されないことへの不安		23
	23	外出制限の精神面などへの不安・不満		19
3		感染予防に係る広報・啓発の充実への要望		15
	24	感染予防に係る広報・啓発の充実への要望		15
	25	マスクの配布を要望		2
		情報公開の充実		49
	31	情報不足への不安、正しい情報提供への要望		37
4		誤情報やデマ、情報過剰への不安		9
	32	誤情報やデマ、情報過剰への不安		9
	33	相談窓口の充実への要望		3
		行政の対応		41
	41	行政・医療従事者等の対応への感謝・激励		21
5		行政の対応への不安・不満		20
	42	行政の対応への不安・不満		20
		コロナ禍の終息を希望		30
	31	コロナ禍の終息を希望		22
	32	コロナ禍終息への指針・ロードマップへの要望		3
6		コロナ禍後の意識改革の必要性		2
	33	コロナ禍後の意識改革の必要性		2
	34	ワクチンパスポートに賛成		2
	35	ワクチンパスポートに反対		1
		差別・誹謗中傷への対応		23
7		感染者・濃厚接触者の人権侵害への不安		13
	61	感染者・濃厚接触者の人権侵害への不安		13
	62	マスク・ワクチン接種等を望まない人の人権侵害への不安		6
	63	行政からの積極的な差別反対の情報発信への要望		3
	64	互いの主張に冷静に耳を傾ける必要性		1
	医療体制・検査の充実		20	
	医療体制の確保への要望、自宅療養への不安		11	
	診療所等・かかりつけ医での検査・ワクチン接種の推進への要望		5	
	PCR検査体制の充実への要望		4	

■資料：アンケート調査票

甲賀市市政に関する意識調査

= ご協力のお願い =

※上記のパスワード及びIDは無作為に割当てたものであり、個人を特定するものではありません。

日ごろから甲賀市市政へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
市では、まちづくりの主役である市民の皆様の思いや願いをしっかりと受け止め、市政に活かしていくため、「市政に関する意識調査」を実施します。

いただいたご意見等は、高齢者から若者、子どもまで、健康でいきいきと活躍できる地域をつくるための大切な基礎資料とさせていただきますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和3年（2021年）7月

甲賀市長

岩永裕貴

ご回答にあたってのお願い

■ 令和3年8月9日（月）までに、ご回答をお願いします。

- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストにご投函ください。
※返信用封筒へのお名前のご記入は不要です。
- ご回答は本調査票またはインターネット回答（同封のインターネット回答操作案内参照）のどちらか一方のみにてお願いします。
- 今回の調査は、無作為に選ばせていただいた市内にお住まいの18歳以上の方3,000人を対象に実施しています。
- この調査は、個人を対象としていますので、お送りした封筒に書かれているあて名の方ご自身がご回答ください。（ご本人による回答が困難な場合は、ご家族等の方がご本人から聞き取って代筆ください。）
- この調査の回答は、無記名でお願いしています。回答いただいた内容は、統計的に処理しますので、内容が外部にもれたりしてご迷惑をおかけすることはありません。安心してご回答ください。
- 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あなたのお考えに近いものの番号に○印をつけてください。
- 回答したくない設問については、お答えいただかなくて結構です。

- 甲賀市をより良いまちにするために調査にご協力ください。わからない事があれば下記へご連絡ください。
- Please cooperate with our survey to make Koka City a better town. Please call this number as follows, if you have any questions.
- 고카시를 보다 좋은 도시로 만들기 위한 조사에 협력해 주십시오. 모르는 것이 있으시면 다음으로 연락해 주십시오.
- 为了把甲贺市变成更好的城市, 请协助调查. 如果有不明白的地方, 请联系以下地址.
- Pedimos sua colaboração em relação a esta pesquisa, para fazer da Cidade de Koka uma cidade melhor. Em caso de dúvidas, favor entrar em contato pelo telefone descrito abaixo.
- Por favor coopere con la encuesta para hacer de la Ciudad de Koka una ciudad mejor. Si tuvieran alguna duda, pueden llamar al número de teléfono que figura en la parte de abajo.

【本調査に関する問合せ先】

甲賀市総合政策部 秘書広報課 TEL 0748-69-2101（直通） FAX 0748-63-4619

1. あなたご自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

1. 男 2. 女 3. 答えたくない

問2 あなたの年齢は7月1日現在でいくつですか。(〇は1つ)

1. 18～19歳 2. 20～24歳 3. 25～29歳 4. 30～34歳
5. 35～39歳 6. 40～44歳 7. 45～49歳 8. 50～54歳
9. 55～59歳 10. 60～64歳 11. 65～69歳 12. 70～74歳
13. 75歳以上

問3 あなたの住まいの地域はどちらですか。(〇は1つ)

1. 水口地域 2. 土山地域 3. 甲賀地域
4. 甲南地域 5. 信楽地域

問4 あなたはいつから甲賀市にお住まいですか。(〇は1つ)

1. 生まれてからずっと甲賀市に住んでいる
2. 甲賀市で生まれ、市外に転出後、再び転入した
3. 市外で生まれ甲賀市に転入した

問4で「2」または「3」と回答された方におたずねします。

問5 転入後、何年くらい甲賀市にお住まいですか。(〇は1つ)

1. 3年未満 2. 3年から10年未満 3. 10年以上

問6 あなたの世帯(同居)の構成はどれですか。(〇は1つ)

1. 単身 2. 夫婦のみ 3. 二世帯世帯 4. 三世帯世帯
5. その他()

問6で「3・4・5」のいずれかに回答された方におたずねします。

問7 あなたに就学前または就学しているお子様・お孫様(同居)はおられますか。
(〇はいくつでも) ※別居されているお子様、お孫様は含みません。

1. 2歳以下 2. 3歳～小学校入学前
3. 小学生 4. 中学生
5. 高校生 6. 専門学校生・短大生・予備校生・大学生(大学院生)
7. 就学前または就学している子どもはいない

問8 あなたの職業等は何ですか。(〇は1つ)

- | | | | |
|--------|------------|-----------|--------------|
| 1. 会社員 | 2. 公務員 | 3. 自営業 | 4. パート・アルバイト |
| 5. 学生 | 6. 専業主婦・主夫 | 7. 無職・その他 | |

問8で「1～5」のいずれかに回答された方におたずねします。

問9 あなたの勤務地(通学地)はどちらですか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------|---------|
| 1. 自宅 | 2. 甲賀市内 |
| 3. 甲賀市以外の滋賀県内 | 4. 県外 |

2. 市政全体に関する満足度等についておたずねします

問10 あなたは甲賀市の住みやすさについてどのように感じておられますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 住みやすい | 2. まあまあ住みやすい |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり住みやすくない |
| 5. 住みにくい | |

問11 あなたにとって甲賀市の住みやすい点と住みにくい点はどのようなことですか。
(それぞれ〇はいくつでも)

【住みやすい点】

- | | | |
|-----------|----------------|----------------------------|
| 1. 子育て | 2. 教育 | 3. 地域コミュニティ(区・自治会・自治振興会など) |
| 4. 就労・起業 | 5. 公共交通(バス・鉄道) | 6. 道路 |
| 7. 自然・環境 | 8. 防犯 | 9. 防災 |
| 10. 福祉・医療 | 11. 文化・スポーツ | 12. その他() |

【住みにくい点】

- | | | |
|-----------|----------------|----------------------------|
| 1. 子育て | 2. 教育 | 3. 地域コミュニティ(区・自治会・自治振興会など) |
| 4. 就労・起業 | 5. 公共交通(バス・鉄道) | 6. 道路 |
| 7. 自然・環境 | 8. 防犯 | 9. 防災 |
| 10. 福祉・医療 | 11. 文化・スポーツ | 12. その他() |

問12 あなたは現在の暮らしに幸せを感じますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. そう感じる | 2. どちらかといえばそう感じる |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえばそう感じない |
| 5. 感じない | |

問12で「1・2」のいずれかに回答された方におたずねします。

問13 あなたはどのようなことに幸せを感じますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 収入(お金) | 2. 就業状況(仕事の有無・安定) |
| 3. 健康 | 4. 自由な時間、充実した余暇 |
| 5. 社会貢献 | 6. 家族関係 |
| 7. 友人関係 | 8. 職場や学校等の人間関係 |
| 9. 地域コミュニティ、ご近所との関係 | 10. その他() |

問14 あなたは甲賀市に愛着をお持ちですか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 愛着がある | 2. まあまあ愛着がある |
| 3. あまり愛着がない | 4. 愛着がない |

問15 あなたは甲賀市の魅力を市外の人に自慢できますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 自慢できる | 2. まあまあ自慢できる |
| 3. あまり自慢できない | 4. 自慢できない |

問16 あなたはこれからも甲賀市に住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-----------|-----------------|--------------|
| 1. 住み続けたい | 2. 住み続けたいとは思わない | 3. どちらともいえない |
|-----------|-----------------|--------------|

問17 あなたは、市政(市役所のしていること)に関心をお持ちですか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 関心がある | 2. まあまあ関心がある |
| 3. あまり関心がない | 4. 関心がない |

3. 公共施設についておたずねします

問18 市内の公共施設の現状についてどのように感じておられますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------------|----------|
| 1. 少ない(不足している) | 2. やや少ない |
| 3. 適度である | 4. やや多い |
| 5. 多い | 6. わからない |

問19 市内の公共施設は今後どのようにしていけばよいとお考えですか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------------|----------|
| 1. さらに増やす | 2. 現状維持 |
| 3. 統廃合などを行い、施設を減らす | 4. わからない |
| 5. その他() | |

問20 市の公共施設は年々老朽化が進み、今後これらを維持するには、修繕や改修、建替えなどに多額の費用が必要となりますが、一方では、人口減少や少子高齢化による財源の不足も見込まれます。限られた財源のなか、公共施設について今後どのように対応すべきだと思いますか。(〇は優先と考えるものを3つまで)
また、それぞれの具体的な内容や進め方について自由にお書きください。

- | |
|---|
| 1. 公共施設にかかる財源を確保するために、他の行政サービスを減らす |
| 2. 公共施設を減らし、施設にかかるコストを減らす |
| 3. 指定管理の導入や業務の効率化など、管理や運営の方法を見直すことで、施設にかかるコストを減らす |
| 4. 施設の使用料・利用料の改定や、減免制度の見直しにより、収入を増やす |
| 5. 営利目的や個人での利用など、様々な人が利用しやすくすることで収入を増やす |
| 6. 施設の一部または全館を賃貸し、収入を増やす |
| 7. 民間や地元地域に施設を移譲し、民間施設や地域の施設として存続させる |
| 8. その他() |
| 9. わからない |

【自由記述】

問21 あなたの住まいの地域で、今後も優先して残してほしい（統廃合しては困る）と思う施設はどのような施設ですか。（〇は優先と考えるものを5つまで）

1. 地域市民センター
2. 公民館、コミュニティセンター、集会所など
3. 文化ホール
4. 図書館
5. 体育館
6. 運動公園、グラウンド
7. 公園、広場
8. 小学校、中学校
9. 保育園、幼稚園、認定こども園
10. 子育て支援センター、放課後児童クラブ
11. 保健センター・地域包括支援センター
12. その他（ ）
13. わからない

問22 あなたの住まいの地域で、今後、減らしてもよいと思う施設はどのような施設ですか。（〇はいくつでも）

1. 地域市民センター
2. 公民館、コミュニティセンター、集会所など
3. 文化ホール
4. 図書館
5. 体育館
6. 運動公園、グラウンド
7. 公園、広場
8. 小学校、中学校
9. 保育園、幼稚園、認定こども園
10. 子育て支援センター、放課後児童クラブ
11. 保健センター・地域包括支援センター
12. その他（ ）
13. わからない

4. 市の情報発信についておたずねします

問23 市に関する情報をどの程度読んだり、見たり、聞いたりしておられますか。
(それぞれ○は1つ)

	1 かならず 読む、見る、聞く	2 よく 読む、見る、聞く	3 たまに 読む、見る、聞く	4 読まない、 見ない、聞かない
① 広報紙「広報こうか」	1	2	3	4
② 甲賀市ホームページ	1	2	3	4
③ 甲賀市LINE	1	2	3	4
④ 甲賀市フェイスブック	1	2	3	4
⑤ 行政情報番組「きらめきこうか」 (あいコムこうか)	1	2	3	4
⑥ 市議会だより	1	2	3	4
⑦ 市議会ホームページ	1	2	3	4
⑧ 市議会中継・録画 (あいコムこうか)	1	2	3	4
⑨ 市議会インターネット中継・録画	1	2	3	4
⑩ 区・自治会等を通じた各戸配布や回覧 (文書、チラシ、ポスターなど)	1	2	3	4

市の広報紙「広報こうか」は月1回(毎月1日)の新聞折込を中心に、公共施設や量販店等への設置、希望者への個別配達、また市ホームページへの掲載やアプリでの配信を行っておりますが、近年、新聞購読数が減少傾向であることから、より多くのご家庭に配布する方法を検討しております。

問24 広報紙の配布方法について、あなたはどの方法が良いとお考えですか。(○は1つ)

「5. その他」に回答された方は、具体的な配布方法について自由にお書きください。

1. 郵便局や宅配業者などによる全戸配布(全戸にポスト投函)
2. (区・自治会の加入の有無に関わらず)区・自治会や自治振興会などの地域コミュニティで全戸に配布(※配布してくださる方への手数料等支払いを検討したうえで)
3. (区・自治会の加入世帯のみ)区・自治会や自治振興会などの地域コミュニティで各戸配布
4. 現行の配布方法でよい(新聞折込や施設に設置)
5. その他

【自由記述】

5. 新型コロナウイルス感染症についておたずねします

問25 新型コロナウイルス感染症で、困っていることはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- | | | |
|---------------|----------|---------------|
| 1. 収入減・支出増 | 2. 失業・休業 | 3. 体調不良 |
| 4. 精神面（メンタル面） | 5. 人間関係 | 6. 学業 |
| 7. 子育て・教育 | 8. その他（ | 9. 困っていることはない |

問26 新型コロナウイルス感染症の影響下において、今後1年以内にどのような支援が必要と考えますか。(〇はいくつでも)

また、それぞれの具体的な支援について自由にお書きください。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 生活に困っておられる方への支援 | 2. 子育て、教育に関する支援 |
| 3. 事業所、企業等への支援 | 4. 差別、DV、虐待などの対策 |
| 5. その他（ | 6. 支援の必要はない |
| 7. わからない | |

【自由記述】

問27 新型コロナウイルス感染症に関して自由にお書きください。

(不安なこと、お悩みのことなどご自由に)

【自由記述】

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

回答いただいた調査票は、3つ折りにし、同封の返信用封筒に入れて、

令和3年8月9日(月)までに、ポストにご投函ください。

甲賀市市政に関する意識調査報告書

発行日 : 令和3(2021)年11月

編集・発行 : 甲賀市総合政策部秘書広報課

〒528-8502 滋賀県甲賀市水口町水口 6053 番地

Tel : 0748-69-2101 / Fax : 0748-63-4619